

平成 17 年

福島県感染症発生動向調査事業報告書

(平成 17 年 1 月 ~ 12 月)

平成 18 年 3 月

福島県感染症情報センター  
(福島県衛生研究所)  
福島県感染症情報解析委員会

## は　じ　め　に

感染症発生動向調査は、平成11年4月の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に基づき、各都道府県の「感染症発生動向調査事業実施要綱」によって実施されております。福島県におきましても「福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱」により、平成13年7月から地方感染症情報センターを福島県衛生研究所内に設置して、県内の患者情報及び病原体情報を一元的に収集し、その解析と提供を行ってまいりました。

福島県における本事業の特徴は、各種定点となっていたいの医療機関及び医師会、保健所をはじめとする関係行政機関のご理解とご協力によって、迅速かつ高感度な感染症発生動向調査になっていることです。

情報センターが収集・解析した情報は、週報・月報として定点医療機関や医師会等の関係機関に還元し、さらに、衛生研究所のホームページへ掲載することで、広く県民の皆様にも還元しております。

このたび、平成17年の事業報告書を発行いたしますが、定点医療機関をはじめ関係機関のご協力に深く感謝申し上げますとともに、本報告書を広くご活用いただき、県民の感染症予防に役立ていただければ幸いです。今後とも、皆様方の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

平成18年3月

福島県衛生研究所長 西田茂樹

## 平成17年福島県感染症発生動向調査事業報告書目次

### 福島県感染症発生動向調査事業実施概要

(1) 福島県感染症発生動向調査事業実施概要	1
(2) 福島県感染症情報センターの概念図	2

### 福島県感染症発生動向調査事業一～五類感染症全数把握及び五類感染症定点把握対象報告

(1) 一～五類感染症【全数把握】対象結果報告	3
(2) 一～五類感染症全数把握報告調査結果(福島県・全国)	8
(3) 五類感染症【定点把握】対象結果報告	9

### 検査情報

(1) 平成17年感染症発生動向調査事業報告(ウイルス)	38
(2) 平成17年感染症発生動向調査事業報告(細菌)	45
(3) 04/05シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況	53

### 資料

(1) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱	60
別表1 全数把握の対象	65
別表2 定点把握の対象	66
別表3 全数把握五類感染症病原体検査の対象	66
別表4 定点把握五類感染症患者定点の種類及び対象	67
別表5 定点把握五類感染症病原体定点の対象	68

### 【別記様式一覧】

別記様式1	一類感染症、二類感染症及び三類感染症発生届出票	69
別記様式2	一類感染症、二類感染症、三類感染症、 四類感染症及び五類感染症検査票(病原体)	70
別記様式3	四類感染症発生届出	71
別記様式4	一類感染症、二類感染症、三類感染症及び 四類感染症保健所報告項目(患者)	72
別記様式5-1	五類感染症発生届出(クロイツフェルト・ヤコブ病、 後天性免疫不全症候群、先天性風疹症候群を除く)	73
別記様式5-2	クロイツフェルト・ヤコブ病発生届	74
別記様式5-3	後天性免疫不全症候群発生届(HIV感染症を含む)	75
別記様式5-4	先天性風しん症候群発生届	76
別記様式6	五類感染症(全数把握対象)保健所報告項目(患者)	77
別記様式7	感染症発生動向調査(小児科定点)	78

別記様式 8 - 1	感染症発生動向調査（インフルエンザ定点）	79
別記様式 8 - 2	発生動向調査（インフルエンザ迅速診断キット 測定状況報告）	80
別記様式 9	感染症発生動向調査（眼科定点）	81
別記様式 10	感染症発生動向調査（ＳＴＤ定点）	82
別記様式 11	感染症発生動向調査（基幹定点）	83
【福島県感染症発生動向調査指定届出医療機関一覧（患者定点）】		84
( 2 ) 福島県病原体検査実施要領		88
( 3 ) 福島県感染症発生動向調査企画委員会設置要領		91
( 4 ) 福島県感染症発生動向調査情報解析委員会設置要領		93

## 福島県感染症発生動向調査事業実施概要

## 福島県結核・感染症発生動向調査事業の実施概要

### 1 実施体制

#### ( 1 ) 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱等

本事業の実施に関わる要綱等は、本誌 資料に掲げるとおりである。

#### ( 2 ) 指定届出医療機関（定点選定）

福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱に基づき、指定届出医療機関【患者定点； 小児科：48定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表1(59)から(71)までに掲げるものについては、小児科を標榜する医療機関を小児科定点として指定する。〕、インフルエンザ：80定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表1(72)については、前記で選定した小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。〕、眼科：12定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表1(73)及び(74)については、眼科を標榜する医療機関を眼科定点とする。〕、STD：16定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表1(75)から(78)については、産婦人科又は産科若しくは婦人科、性病科又は泌尿器科を標榜する医療機関を性感染症定点とする。〕、基幹：7定点〔対象感染症のうち、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱別表1(79)から(86)については、患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を各2次医療圏域毎に一カ所以上、基幹定点とする。〕、及び病原体定点：21医療機関〔各選定された患者定点の概ね10%を病原体定点とする。〕】を選定する。

#### ( 3 ) 福島県感染症発生動向調査企画委員会

本事業の実施の推進を図るため、福島県感染症発生動向調査企画委員会を、福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により設置する。

#### ( 4 ) 福島県感染症情報解析委員会

収集した患者情報及び病原体情報を、より専門的な観点から解析、提供を行うため、福島県感染症発生動向調査企画委員会のもとに福島県感染症情報解析委員会を設置する。

### 2 実施状況

#### ( 1 ) 情報収集

ア 福島県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱により、患者定点として選定された医療機関は、調査単位が週（月曜日から日曜日まで）の場合は調査対象週の翌週の月曜日までに、月単位の場合は調査対象月の初日までに、FAX等で保健所に送信する。

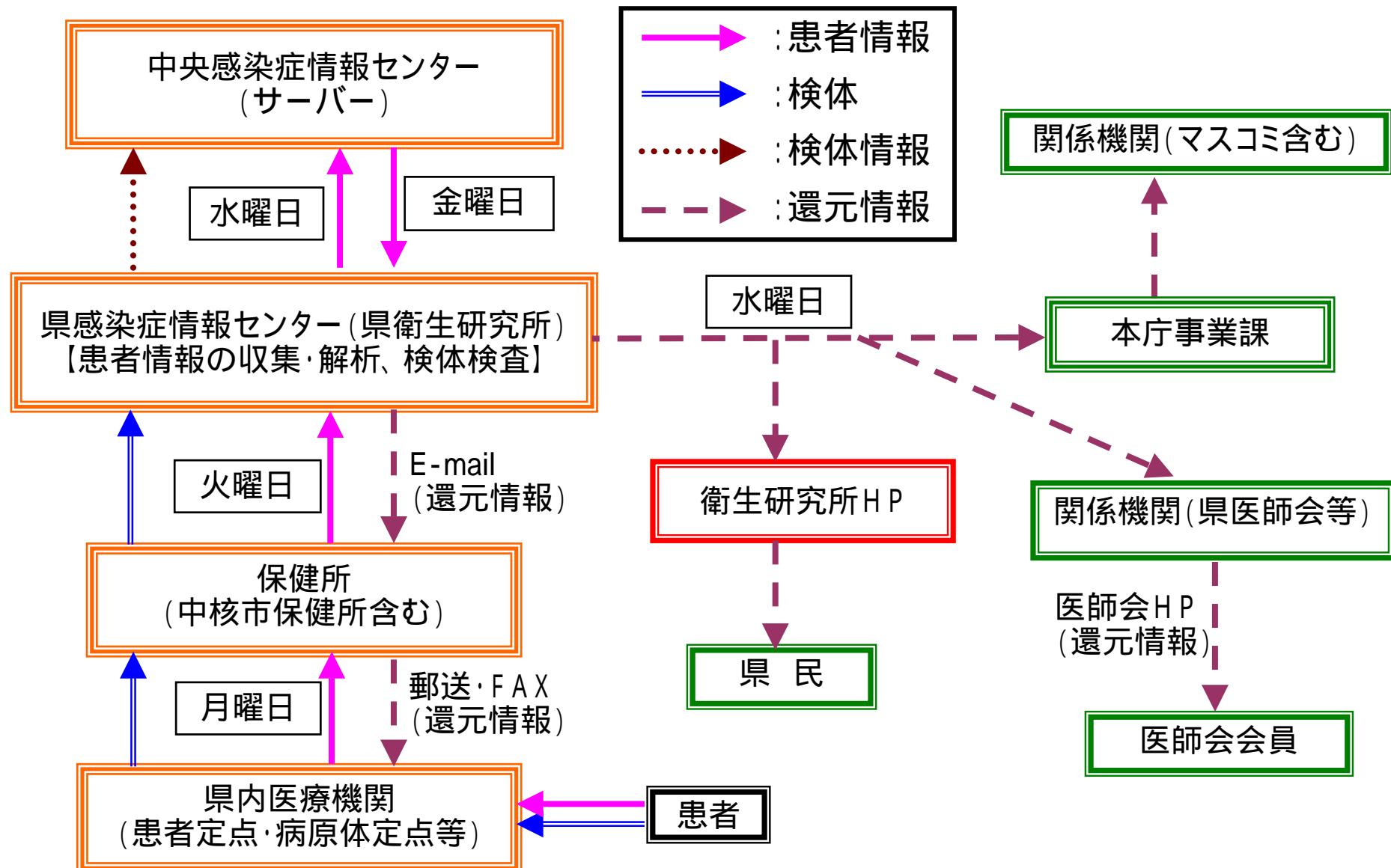
保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週の場合は調査対象週の翌週の火曜日までに、調査対象が月の場合は調査対象月の翌月の3日までに、福島県感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送する。

イ 福島県病原体検査実施要領により、各病原体定点から採取された検体は、福島県衛生研究所で検査を行い、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知とともに、検査情報として福島県感染症情報センター及び医療看護グループに報告する。

#### ( 2 ) 情報還元

福島県感染症情報センターは、患者情報及び病原体情報を週単位および月単位で収集、解析するとともに、その結果を全国情報と併せて、週報及び月報等として保健所に提供するとともに福島県医師会、福島県教育委員会、その他関係機関等に提供・公開する。

## 感染症情報センターの概念図



**感染症発生動向調査事業一～五類感染症  
全数把握及び五類感染症定点把握対象報告**

## (1) 平成 17 年、一～五類感染症全数把握対象結果報告

### 一類感染症〔全数把握〕

(1) **エボラ出血熱**、(2) **クリミア・コンゴ出血熱**、(3) **重症急性呼吸器症候群(病原体が SARS コロナウイルスであるものに限る。)** (4) **痘そう**、(5) **ペスト**、(6) **マールブルグ病**、(7) **ラッサ熱**の一類感染症は、ともに報告はなかった。

### 二類感染症〔全数把握〕

(8) **コレラ**の報告は 1 例あり、4 週に県北 (*Vibrio cholerae* O1、80 歳代：感染経路不明) から報告があった。

(9) **細菌性赤痢**の報告は 3 例あり、2 週に県北 (*Shigella sonnei*、40 歳代：感染経路不明)、19 週に県北 (型不明、学童：感染経路不明)、27 週にいわき市 [*Shigella sonnei*、30 歳代：アメリカ・メキシコへの渡航歴有り、感染原因が経口感染 (飲食物不明)] から報告があった。

#### ・細菌性赤痢年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
17 年	3 例	不明 [1 例 ( <i>Shigella sonnei</i> )、1 例 (型不明)]、経口感染 [1 例 ( <i>Shigella sonnei</i> )：アメリカ・メキシコへの渡航歴有り、飲食物 (不明)]
16 年	3 例	いずれも感染経路不明
15 年	5 例	不明 [4 例 ( <i>Shigella sonnei</i> )]、経口感染 [1 例 ( <i>Shigella flexneri</i> )：インドネシアへの渡航歴有り、飲食物 (不明)]

また、(10) **急性灰白髄炎**、(11) **ジフテリア**、(12) **腸チフス**、(13) **パラチフス**は、ともに報告はなかった。

### 三類感染症〔全数把握〕

(14) **腸管出血性大腸菌感染症**の報告は 24 例あった。

#### ・腸管出血性大腸菌感染症年別報告状況

##### 〔保健所別届出数〕

	県 北	郡山市	県 中	県 南	会 津	南会津	相 双	いわき市	計
17 年	3	12	5	0	0	0	3	1	24
16 年	9	54	14	0	2	0	3	2	84
15 年	1	5	1	0	3	0	1	8	19

〔型別報告数〕

型	17年	16年	15年
O 26	7	28	6
O 111	1	31	0
O 157	16	24	10
他	0	1	3
計	24	84	19

四類感染症〔全数把握〕

- (15) E型肝炎、(16) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)、(17) A型肝炎、  
 (18) エキノコックス症、(19) 黄熱の報告は、ともになかった。  
 (20) オウム病の報告は1例あり、7週に県北〔50歳代、推定感染源は媒介動物(インコ)〕  
 から報告があった。  
 (21) 回帰熱、(22) Q熱、(23) 狂犬病、(24) 高病原性鳥インフルエンザ、(25) コクシジ  
 オイデス症、(26) サル痘、(27) 腎症候性出血熱、(28) 炭疽の報告は、ともになかった。  
 (29) ツツガムシ病の報告は38例あり、前期(1～6月)に12例〔県北(3例)、郡山市  
 (3例)、県中(6例)〕、後期(7～12月)に26例〔県北(4例)、郡山市(8例)、県中  
 (5例)、県南(8例)、相双(1例)〕の報告があった。

・ツツガムシ病年別報告状況

〔保健所別届出数〕

	県北	郡山市	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき市	計
17年	7	11	11	8	0	0	1	0	38
16年	4	5	8	10	0	0	0	0	27
15年	7	2	4	9	4	1	1	2	30

〔月別報告数〕

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
17年	0	0	0	0	10	2	0	0	0	2	14	10	38
16年	0	0	1	3	2	2	0	0	0	5	11	3	27
15年	0	0	1	4	6	8	0	0	0	3	6	2	30

- (30) デング熱、(31) ニパウイルス感染症、(32) 日本紅斑熱、(33) 日本脳炎、(34) ハンタウイルス肺症候群、(35) Bウイルス病、(36) ブルセラ症、(37) 発疹チフス、(38) ボツリヌス症の報告は、ともになかった。

(39) マラリアの報告は1例あり、4週に県北(40歳代、ガーナに渡航歴有り)から報告があった。

(40) 野兎病、(41) ライム病、(42) リッサウイルス感染症、(44) レプトスピラ症の報告は、ともになかった。

(43) レジオネラ症の報告は8例あり、郡山市から4例〔4週(60歳代)、24週(70歳代)、42週(60歳代)、51週(80歳代)〕、県中から1例〔41週(80歳代)〕、会津から1例〔45週(80歳代)〕、いわき市から2例〔22週(70歳代)、23週(70歳代)〕の報告があった。

#### ・レジオネラ症年別報告状況

	報告例	推定される感染原因・経路
17年	8例	不明〔8例:60歳代(2例)、70歳代(3例)、80歳代(3例)〕
16年	6例	不明〔6例:40歳代(1例)、50歳代(2例)、60歳代(2例)、70歳代(1例)〕
15年	1例	不明(1例:40歳代)

#### 五類感染症〔全数把握〕

(45) アメーバ赤痢の報告は2例あり、県北から7週(50歳代、感染経路不明)と26週(20歳代、推定感染経路は性行為感染)に報告があった。

#### ・アメーバ赤痢年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路
17年	2例	性行為感染(1例)、不明(1例)
16年	5例	経口感染(3例:内1例はヨルダンへの渡航歴有り)、不明(2例)
15年	5例	性行為感染(3例:内1例は中国への渡航歴有り)、不明(2例)

(46) ウィルス性肝炎〔A・E型を除く〕の報告は2例あり、4週に郡山市(アデノウィルス、幼児)、29週に相双(B型、50歳代)から報告があった。ともに感染経路は不明。

(47) 急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)の報告は2例あり、31週に郡山市(乳児)、52週に県北(10歳代)から報告があった。

#### ・急性脳炎年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
17年	2例	水痘(1例)、インフルエンザ(1例)	180例
16年	3例	経口感染(2例)、不明(1例)	157例

(48) クリプトスボリジウム症の報告はなかった。

(49) クロイツフェルト・ヤコブ病の報告は2例あり、25週に会津(70歳代、感染経路不明)37週に郡山市(30歳代、推定感染経路はヒト乾燥硬膜)から報告があった。

・クロイツフェルト・ヤコブ病年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
17年	2例	ヒト乾燥硬膜(1例)、不明(1例)	147例
16年	2例	不明	167例

(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告は3例あり、2週に郡山市(60歳代)3週に郡山市(60歳代)51週にいわき市(60歳代)から報告があった。

・劇症型溶血性レンサ球菌感染症年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
17年	3例	不明	60例
16年	4例	不明	53例
15年	2例	不明	52例

(51) 後天性免疫不全症候群の報告は3例あり、28週に県北(20歳代:男性、AIDS、推定感染経路は異性間性的接觸)33週に郡山市(20歳代:男性、AIDS、推定感染経路は異性間・同性間性的接觸)44週にいわき市(30歳代:女性、無症候性キャリア、推定感染経路は不明)から報告があった。

・後天性免疫不全症候群年別報告状況

	報告数	推定される感染原因・経路	全国報告例
17年	3例	性的接觸(異性間性的接觸1例、異性間・同性間性的接觸1例)、不明(1例)	1161例
16年	4例	性的接觸(異性間性的接觸1例、同性間性的接觸2例、異性間・同性間性的接觸1例(タイ国籍))	1119例
15年	3例	性的接觸(3例:内1例はマレーシアへの渡航歴有り)	949例

(52) ジアルジア症、(53) 隆膜炎菌性隆膜炎、(54) 先天性風疹症候群の報告は、ともになかった。

(55) **梅毒**の報告は6例あり、4週に県南(50歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、10週に郡山市(50歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、11週に郡山市(70歳代、無症候梅毒、推定感染経路は輸血)、16週に県北(40歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、39週に郡山市(30歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)、48週に県北(40歳代、早期顕性梅毒、推定感染経路は異性間性的接触)から報告があった。

・**梅毒年別報告状況**

	報告数	推定される感染原因・経路
17年	6例	異性間性的接触(5例)、輸血(1例)
16年	5例	異性間性的接触(4例)、不明(1例)
15年	14例	異性間性的接触(6例)、母子感染(1例)、不明(7例)

(56) **破傷風**、(57) **パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症**、(58) **パンコマイシン耐性腸球菌感染症**の報告は、ともになかった。

(2)平成17年全数把握報告調査結果

対象疾患		全国			福島県		
		平成17年	平成16年	平成15年	平成17年	平成16年	平成15年
一類	エボラ出血熱						
	クリミア・コンゴ出血熱						
	重症急性呼吸器症候群( )						
	痘そう( )						
	ペスト						
	マールブルグ病						
二類	ラッサ熱						
	コレラ	54	82	24	1		
	細菌性赤痢	556	576	459	3	3	5
	腸チフス	50	66	60			
	パラチフス	18	86	38			
	急性灰白髄炎						
三類	ジフテリア						
	腸管出血性大腸菌感染症	3,567	3,640	2,635	24	84	19
	E型肝炎(注)	40	35	2			
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎含む)	1					
	A型肝炎(注)	168	136	12		7	6
	エキノコックス症	18	25	17			
	黄熱						
	オウム病	34	39	44	1		
	回帰熱						
	Q熱	8	7	9			1
	狂犬病						
	高病原性鳥インフルエンザ( )						
	コクシジオイデス症	5	6	1			
	サル痘( )						
	腎症候性出血熱						
	炭疽						
	ツツガムシ病	325	296	380	38	27	30
	デング熱	73	45	31			
四類	ニパウイルス感染症( )						
	日本紅斑熱	62	67	51			
	日本脳炎	7	5	1			
	ハンタウイルス肺症候群						
	Bウイルス病						
	ブルセラ症	2					
	発疹チフス						
	ボツリヌス症( )	3					
	マラリア	66	73	77	1		
	野兎病( )						
	ライム病	8	4	5		1	
	リッサウイルス感染症( )						
	レジオネラ症	276	162	143	8	6	1
	レプトスピラ症( )	15	18	1			
五類	アメーバ赤痢	680	580	504	2	5	5
	ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く)(注)	277	299	634	2		3
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎・日本脳炎を除く)( )	180	157	12	2	3	
	クリプトスピリジウム症	9	91	8			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	147	167	115	2	2	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	60	53	52	3	4	2
	後天性免疫不全症候群	1,161	1,119	949	3	4	3
	ジアルジア症	81	85	99		1	2
	髄膜炎菌性髄膜炎	10	22	17			
	先天性風疹症候群	2	10	1			
	梅毒	555	516	493	6	5	14
	破傷風	114	100	69		3	1
	パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症( )						
	パンコマイシン耐性腸球菌感染症	65	49	55			

( )平成15年第45週から追加・変更調査開始。

### (3) 平成 17 年五類感染症定点把握対象結果報告

#### 五類感染症対象疾患(定点把握)

(72) インフルエンザ〔高病原性鳥インフルエンザを除く〕					
	(80 インフルエンザ定点: 32 内科定点、48 小児科定点)				
(59) RS ウイルス感染症		(48 小児科定点)			
(60) 咽頭結膜熱		(48 小児科定点)			
(61) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎		(48 小児科定点)			
(62) 感染性胃腸炎		(48 小児科定点)			
(63) 水 痘		(48 小児科定点)			
(64) 手足口病		(48 小児科定点)			
(65) 伝染性紅斑		(48 小児科定点)			
(66) 突発性発しん		(48 小児科定点)			
(67) 百 日 咳		(48 小児科定点)			
(68) 風しん		(48 小児科定点)			
(69) ヘルパンギーナ		(48 小児科定点)			
(70) 麻しん		(48 小児科定点)			
(71) 流行性耳下腺炎		(48 小児科定点)			
(73) 急性出血性結膜炎		(12 眼科定点)			
(74) 流行性角結膜炎		(12 眼科定点)			
(79) クラミジア肺炎〔オウム病を除く〕		(7 基幹定点)			
(80) 細菌性髄膜炎		(7 基幹定点)			
(82) マイコプラズマ肺炎		(7 基幹定点)			
(83) 成人麻しん		(7 基幹定点)			
(84) 無菌性髄膜炎		(7 基幹定点)			
(75) 性器クラミジア感染症		(16 STD 定点)			
(76) 性器ヘルペスウイルス感染症		(16 STD 定点)			
(77) 尖圭コンジローマ		(16 STD 定点)			
(78) 淋菌感染症		(16 STD 定点)			
(81) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		(7 基幹定点)			
(85) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		(7 基幹定点)			
(86) 薬剤耐性綠膿菌感染症		(7 基幹定点)			

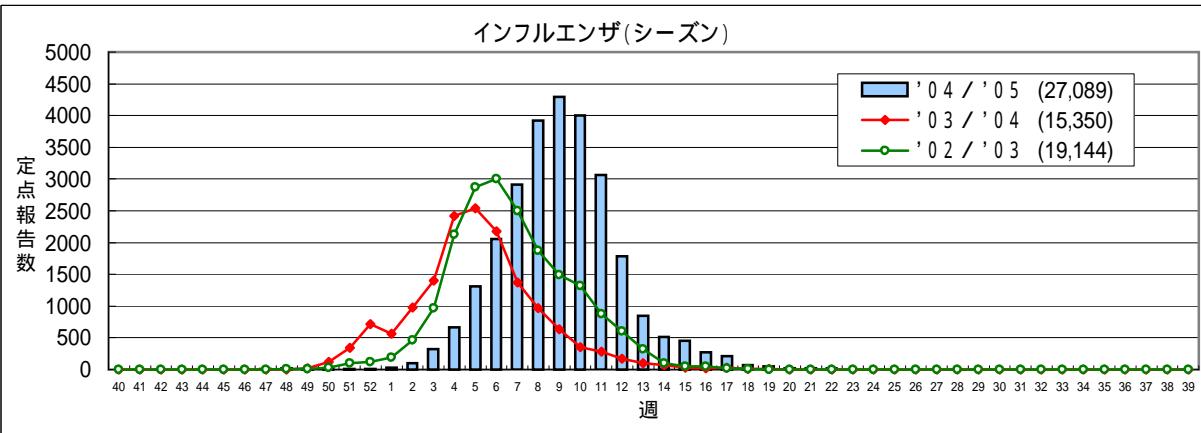
週報対象疾患

月報対象疾患

#### 五類感染症(定点把握)患者地域別定点機関数

	小児科定点	内科定点	眼科定点	基幹定点	STD 定点
県 北	10	7	3	1	4
郡山市	7	5	2	1	2
県 中	6	4	1	0	2
県 南	4	3	1	1	1
会 津	6	4	2	1	2
南会津	2	1	0	1	0
相 双	5	3	1	1	2
いわき市	8	5	2	1	3
計	48	32	12	7	16

## (72)インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)



## インフルエンザ (80インフルエンザ定点)

04/05シーズンの定点報告数は、27,089例あり、過去2シーズンと比較して、最も流行した。'05年1月からいわき市を中心に流行が始まり、第2週に流行開始宣言をした。その後、県内各地域に流行が拡大し、第9週にピークを迎えた。その後は急速に減少し、第20週に終息となった。年齢構成では、10歳未満が6割(61.6%)を占めた。

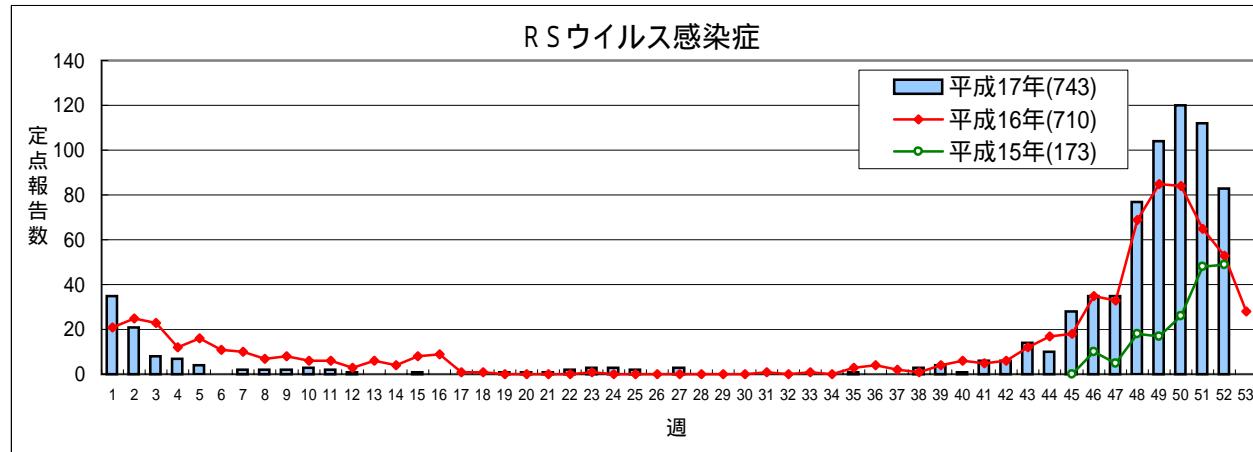
## 04 / 05シーズン 報告数

週	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	53w	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	
県北	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3	3	6	1	12	53	130	273	480	758	1052	1024	945	647	376	209	
郡山市	0	0	0	0	0	0	5	2	6	4	3	5	0	2	4	3	28	102	136	238	491	715	976	837	569	321	170	
県中	0	0	0	0	0	0	0	3	5	0	1	0	0	1	0	0	2	20	52	69	102	187	239	236	214	106	43	
県南	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	1	0	0	1	4	5	21	31	62	190	309	506	541	553	432	336	154	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	13	57	269	429	464	469	443	444	383	245	102	
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	11	37	56	122	125	114	90	70	25		
相双	0	0	0	0	0	0	0	2	8	4	5	3	1	3	1	6	18	18	54	70	149	276	342	320	277	145	75	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	13	24	74	189	308	450	547	589	599	603	557	454	189	71	
04 / 05	0	0	3	0	1	0	5	10	21	11	11	11	6	26	26	35	102	325	667	1307	2060	2918	3926	4293	4006	3066	1788	849
03 / 04	0	0	0	0	0	0	1	1	4	16	126	342	716	-	562	979	1402	2424	2544	2180	1369	971	634	348	282	176	105	
02 / 03	0	0	0	0	0	0	1	1	12	11	35	103	124	-	194	462	963	2122	2876	3009	2502	1878	1487	1325	878	605	325	
週	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	合計	
県北	159	118	63	33	11	18	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,386
郡山市	72	70	38	25	2	10	7	2	7	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,853	
県中	4	19	8	2	1	7	10	11	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,357	
県南	97	91	57	40	14	7	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,462	
会津	62	49	31	14	13	4	1	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,498	
南会津	22	31	33	50	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	806	
相双	39	60	40	35	13	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,969	
いわき市	34	16	6	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,735	
04 / 05	489	454	276	208	70	47	23	22	23	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,066	
03 / 04	68	27	21	30	11	6	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15,350	
02 / 03	103	46	47	20	10	0	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,144	

## 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	合計
04 / 05	167	457	1451	1561	1771	2222	2338	2172	1640	1493	1409	3090	519	1457	1905	1202	905	524	468	338	27,089
03 / 04	152	302	973	921	970	1032	927	621	504	575	601	3247	1228	959	877	564	291	264	210	132	15,350

## (59) RSウイルス感染症



## RSウイルス感染症 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は743例あり、1月中旬以降、散発事例のみの報告であったが、11月頃から郡山市、県南を中心に流行が始まり、その後、県北・相双・いわき市でも流行が見られた。

年齢構成では、1歳までの報告が約8割(78.9%)を占めた。

平成15年第45週より調査開始。

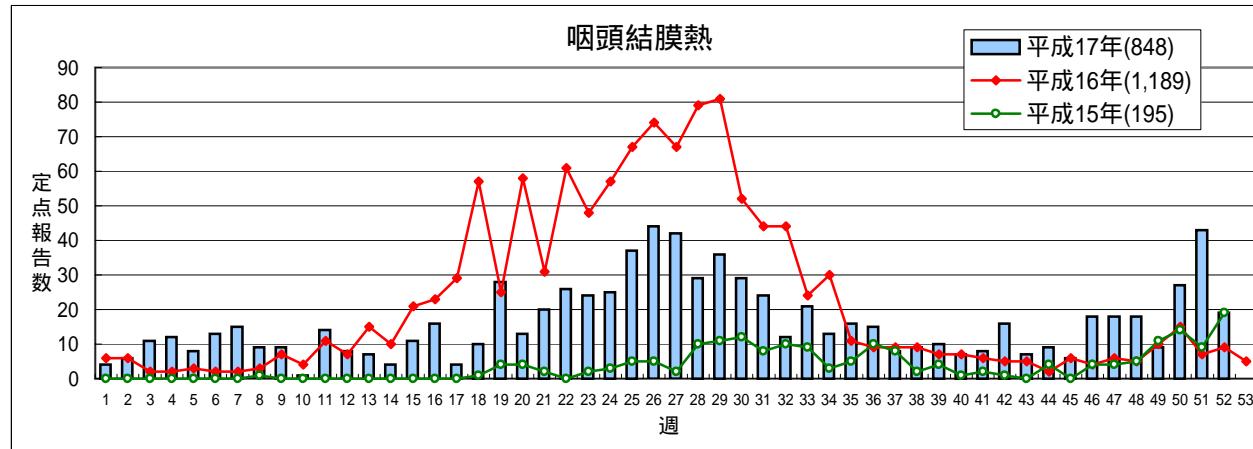
少ない 多い

## 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	188	202	196	96	33	15	11	2	0	0	0	0	0	0	743
H16	182	178	201	88	32	20	4	0	2	1	0	1	0	1	710

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「28」

## (60) 咽頭結膜熱



### 咽頭結膜熱 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は848例あり、1月から5月頃まで郡山市、相双を中心で断続的に流行が認められ、その後、県北・県南・会津にも流行が拡大し、夏過ぎまで続いた。また、11月頃から県北・郡山市を中心に再び流行が見られた。

年齢構成では、1～4歳の報告が約7割(69.0%)を占めた。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

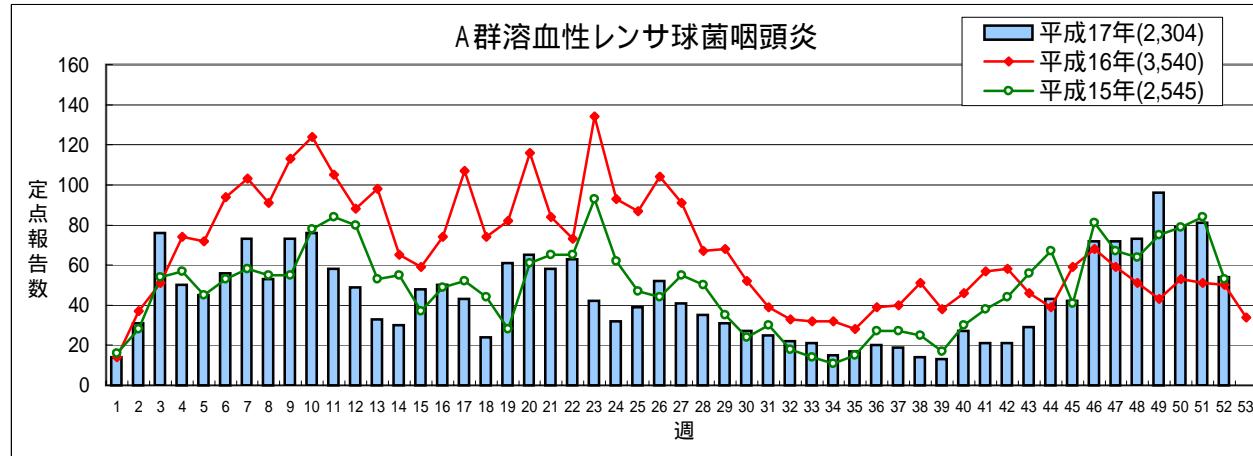
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	1	0	3	4	8	
郡山市	2	5	3	9	6	10	6	5	5	1	5	3	3	3	9	7	1	3	19	5	12	10	16	10	12	12	7
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
県南	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	3
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	1	5	8	7
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
相双	0	0	5	1	2	3	7	4	3	0	6	4	4	1	2	9	1	2	3	7	3	8	4	10	13	13	16
いわき市	2	1	2	2	0	0	1	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	4	4	0	2	3	2	0	3	6	1
H17	4	6	11	12	8	13	15	9	9	1	14	8	7	4	11	16	4	10	28	13	20	26	24	25	37	44	42
H16	6	6	2	2	3	2	2	3	7	4	11	7	15	10	21	23	29	57	25	58	31	61	48	57	67	74	67
H15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	4	2	0	2	3	5	5	2
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	6	6	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	6	3	3	1	15	19	6	98	
郡山市	7	13	9	8	1	1	5	3	1	0	3	5	0	2	3	1	3	2	4	9	2	7	3	8	9	298	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	1	0	0	13	
県南	2	2	3	0	3	2	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	28	
会津	4	3	4	3	1	2	0	0	2	2	0	1	2	7	2	4	2	4	3	1	0	3	6	0	0	85	
南会津	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
相双	7	8	5	9	3	4	4	3	5	2	0	1	2	0	3	2	1	0	4	1	3	0	3	4	1	206	
いわき市	3	4	2	4	4	10	1	5	5	3	4	4	4	4	3	1	1	0	1	1	1	1	3	5	2	114	
H17	29	36	29	24	12	21	13	16	15	8	9	10	7	8	16	7	9	6	18	18	18	9	27	43	19	848	
H16	79	81	52	44	44	24	30	11	9	9	9	7	7	6	5	5	2	6	4	6	5	10	15	7	9	1,189	
H15	10	11	12	8	10	9	3	5	10	8	2	4	1	2	1	0	4	0	4	4	5	11	14	9	19	195	

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	13	72	132	137	127	104	81	58	35	26	17	27	3	16	848
H16	7	28	176	162	191	145	146	106	59	46	32	56	4	31	1,189

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「5」

## (61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は2,304例あり、県北・郡山市・相双・いわき市からの報告が多かった。流行の季節推移は例年どおりの形をとった。

年齢構成では、4～6歳の報告が多かった。

### 平成17年 報告数

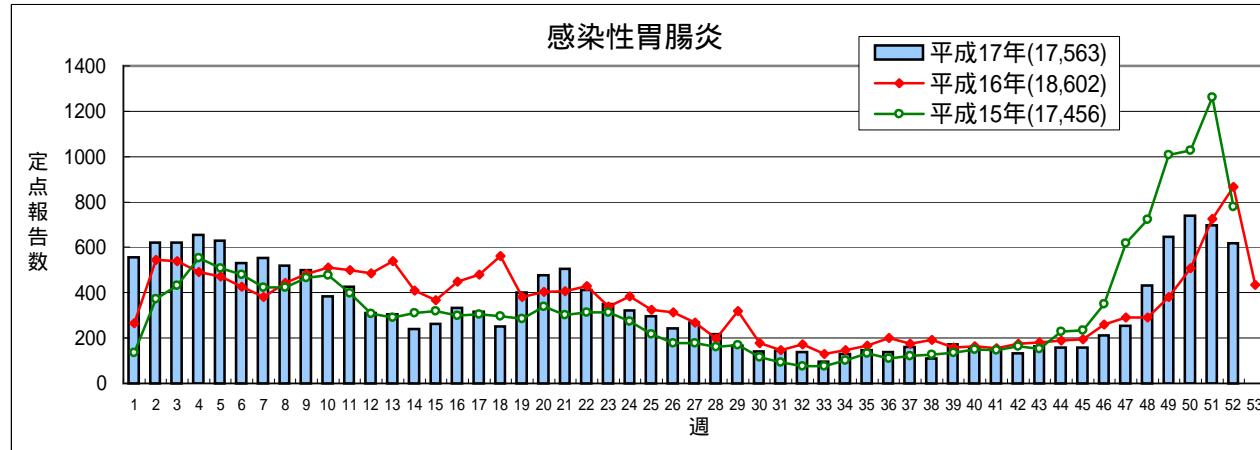
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	7	10	19	19	18	22	15	34	39	24	11	9	7	13	8	10	10	19	20	14	23	14	12	8	13	11	
郡山市	0	1	9	6	7	11	14	13	9	11	4	5	2	8	9	8	4	10	19	9	10	6	1	8	8	5	
県中	0	1	5	6	1	2	6	4	1	2	0	3	1	0	1	1	2	1	2	5	4	6	4	0	1	2	1
県南	2	0	1	2	0	3	6	1	2	2	3	5	0	1	0	1	2	1	1	2	1	1	1	3	1	4	2
会津	2	1	2	0	0	1	1	1	0	2	3	5	2	0	2	2	1	0	1	1	1	6	0	6	3	4	1
南会津	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
相双	1	9	24	11	11	17	13	15	16	15	16	15	9	12	18	17	14	5	18	13	15	6	11	5	8	5	9
いわき市	2	9	14	6	7	3	11	4	11	7	1	6	7	8	6	12	6	3	10	5	14	11	6	5	8	16	12
H 17	14	31	76	50	45	56	73	53	73	76	58	49	33	30	48	50	43	24	61	65	58	63	42	32	39	52	41
H 16	14	37	51	74	72	94	103	91	113	124	105	88	98	65	59	74	107	74	82	116	84	73	134	93	87	104	91
H 15	16	28	54	57	45	53	58	55	78	84	80	53	55	37	49	52	44	28	61	65	65	93	62	47	44	55	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	4	6	4	5	3	1	4	6	4	2	0	3	2	3	6	4	7	10	5	14	16	20	8	10	3	578	
郡山市	5	2	3	4	4	3	3	5	1	1	2	4	6	4	2	6	10	6	8	17	17	19	16	24	20	398	
県中	0	2	3	2	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	0	1	1	1	5	1	5	2	2	93	
県南	1	4	2	3	0	1	0	1	2	5	0	1	3	2	2	1	5	2	17	17	18	17	21	16	8	197	
会津	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	3	1	2	5	11	2	3	79	
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	12		
相双	9	8	3	7	6	9	3	2	5	9	2	2	6	4	1	3	1	4	5	11	1	0	1	8	6	444	
いわき市	16	9	10	4	9	7	4	3	7	2	9	3	8	7	9	13	19	17	32	11	12	34	17	19	12	503	
H 17	35	31	27	25	22	21	15	17	20	19	14	13	27	21	21	29	43	42	72	72	73	96	79	81	54	2,304	
H 16	67	68	52	39	33	32	28	39	40	51	38	46	57	58	46	39	59	68	59	59	51	43	53	51	50	3,540	
H 15	50	35	24	30	18	14	11	15	27	27	25	17	30	38	44	56	67	41	81	67	64	75	79	84	53	2,545	

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	2	7	74	118	213	384	467	372	214	144	99	177	7	26	2,304
H 16	6	36	194	259	397	551	576	478	348	207	156	269	16	47	3,540

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「34」

## (62) 感染性胃腸炎



### 感染性胃腸炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は17,563例あり、例年どおりの流行となつたが、1月から3月にかけてと12月に多かった。年間を通して、相双・いわき市からの報告が多かった。

年齢構成では、1歳の報告が最も多く、次いで2歳、3歳、4歳、5歳の報告が多かった。

### 平成17年 報告数

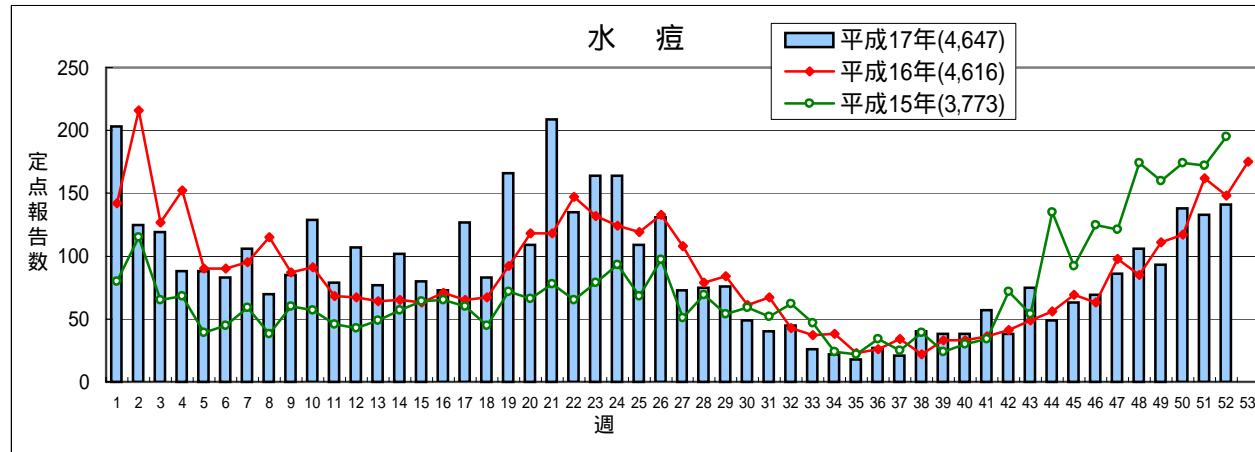
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	64	33	51	49	57	80	77	73	70	61	44	41	54	40	37	24	27	25	32	41	38	31	21	23	17	9	18
郡山市	56	78	82	79	64	55	63	52	76	68	72	51	53	36	45	42	42	37	58	83	99	75	68	40	48	34	34
県中	59	62	53	51	63	42	50	74	44	46	34	44	23	15	29	33	51	17	55	51	47	57	39	30	26	24	24
県南	51	49	44	64	74	54	55	41	38	21	41	24	19	15	18	30	26	32	44	28	33	27	16	19	15	4	17
会津	50	82	72	69	62	49	32	22	32	18	31	18	31	23	22	36	39	24	60	70	91	54	50	41	23	20	23
南会津	4	2	0	5	0	2	0	0	2	3	1	1	3	6	5	12	1	6	7	8	13	9	14	2	0	1	0
相双	119	154	171	177	181	142	134	132	120	69	90	47	53	33	47	62	61	50	73	75	86	74	61	73	81	73	71
いわき市	152	162	147	160	128	108	142	125	117	98	114	85	68	71	60	93	69	59	73	121	98	84	80	95	85	78	81
H 17	555	622	620	654	629	532	553	519	499	384	427	311	304	239	263	332	316	250	402	477	505	411	349	323	295	243	268
H 16	266	546	538	492	472	425	382	443	484	511	500	485	538	410	367	449	481	561	380	404	407	429	338	383	326	313	269
H 15	136	373	432	552	508	481	422	466	476	398	308	290	311	318	298	304	297	284	340	301	312	312	273	217	178	179	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	6	12	6	7	7	10	10	8	8	4	6	16	10	6	3	11	8	12	14	13	32	46	60	72	64	1,588	
郡山市	24	15	13	13	9	13	14	20	15	15	16	18	15	14	21	18	24	27	17	44	104	95	110	95	102	2,461	
県中	24	16	13	19	22	14	14	20	18	20	17	19	23	23	25	28	17	25	34	40	37	67	72	95	58	1,903	
県南	4	9	6	3	3	0	2	5	5	6	3	9	10	6	9	8	13	11	10	13	13	26	22	40	59	1,194	
会津	14	12	3	6	7	6	11	10	12	15	6	14	11	11	10	13	16	11	17	20	14	27	33	33	40	1,516	
南会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	8	7	2	13	9	151	
相双	72	53	53	42	46	27	43	46	41	51	40	54	51	33	21	43	39	34	59	47	48	71	100	128	152	3,903	
いわき市	73	49	47	52	45	27	37	38	40	50	21	42	38	56	45	43	40	38	60	75	177	306	341	221	133	4,847	
H 17	217	166	141	143	139	97	131	147	139	161	109	172	158	149	134	164	157	159	213	253	433	645	740	697	617	17,563	
H 16	198	318	179	148	172	131	148	167	200	176	193	158	164	155	174	182	188	195	259	291	292	381	507	726	866	18,602	
H 15	162	169	116	94	77	77	102	133	109	122	126	136	149	148	165	152	230	233	350	619	722	1009	1028	1262	778	17,456	

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「435」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	275	1247	2584	1866	1744	1548	1368	1109	822	662	676	1701	299	1662	17,563
H 16	268	1167	2589	2054	1835	1690	1528	1145	861	808	693	1860	449	1655	18,602

## (63)水痘



## 水痘 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4,647例あり、1月に県南・いわき市を中心に、5月から7月にかけて県北・郡山・相双・いわき市を中心に流行が見られた。また、10月以降、郡山市で流行が続いた。

年齢構成では、1～5歳の報告が多く、約8割(78.4%)を占めた。

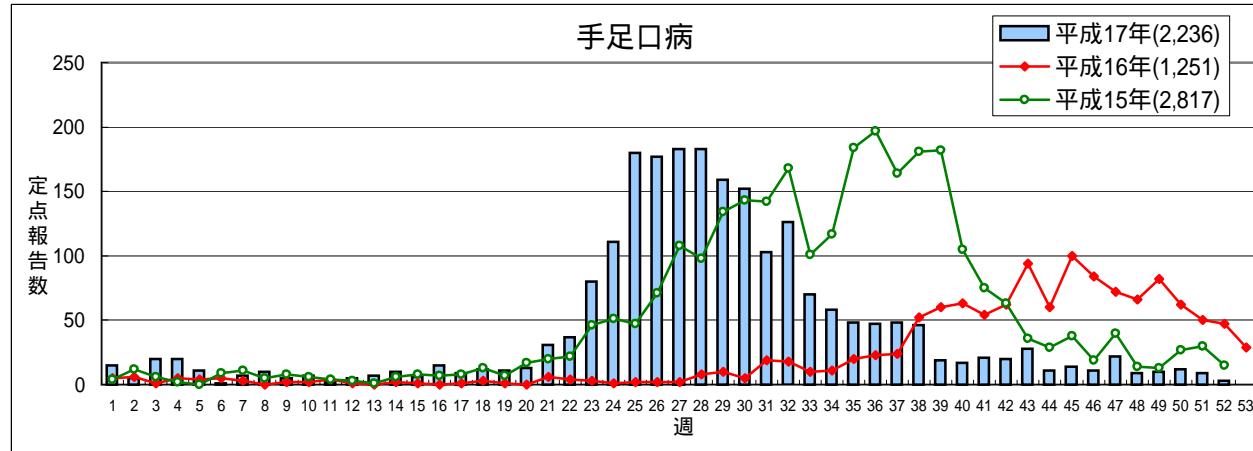
## 平成17年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	46	16	21	17	13	12	28	16	18	14	15	13	28	14	15	14	24	20	31	19	47	23	53	36	19	29	11
郡山市	25	10	15	10	14	15	15	15	16	30	13	29	13	26	11	8	22	7	31	6	29	23	33	38	35	24	14
県中	10	7	16	13	14	14	5	12	12	19	8	12	6	10	7	12	9	7	13	13	9	2	15	8	6	8	5
県南	26	20	18	13	5	2	9	6	12	6	4	15	2	13	11	19	14	6	10	1	14	4	12	10	6	3	4
会津	27	10	14	6	11	7	4	1	2	4	8	15	4	4	4	1	5	4	8	8	18	12	9	9	11	9	10
南会津	3	1	6	3	2	5	8	2	1	3	4	2	3	1	1	0	1	0	1	1	4	11	4	5	1	18	2
相双	8	13	7	6	2	7	9	4	2	29	4	7	7	9	2	3	9	8	20	28	41	25	22	27	14	17	5
いわき市	58	48	22	20	27	21	28	14	22	24	23	14	14	25	29	16	43	31	52	33	47	35	16	31	17	23	22
H 17	203	125	119	88	88	83	106	70	85	129	79	107	77	102	80	73	127	83	166	109	209	135	164	164	109	131	73
H 16	142	216	127	152	90	90	95	115	87	91	68	67	64	65	63	71	65	67	92	118	118	147	132	124	119	133	108
H 15	80	115	65	68	39	45	59	38	60	57	46	43	49	57	64	65	60	45	72	66	78	65	79	93	68	97	51
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	9	8	13	12	11	4	7	3	7	2	7	2	6	12	8	25	9	25	11	22	11	15	15	29	27		912
郡山市	19	24	7	5	9	3	5	5	9	5	9	17	15	15	14	18	24	14	23	22	42	36	49	36	36		988
県中	2	8	1	4	1	3	2	0	2	1	0	0	3	3	3	2	2	2	4	1	10	6	14	11	13		369
県南	2	1	4	0	6	0	1	2	1	2	1	2	0	3	2	1	0	2	3	6	5	4	6	10		331	
会津	10	7	4	4	3	3	3	1	1	1	1	1	1	3	0	6	4	4	5	8	7	11	12	8	12		345
南会津	13	0	2	0	2	1	0	3	0	5	1	4	0	4	1	4	0	2	4	10	1	7	1	15	1		174
相双	11	9	13	9	9	11	2	4	2	4	7	3	4	10	6	8	2	4	4	7	4	6	8	9	9		500
いわき市	9	19	5	6	4	1	2	0	5	1	13	9	10	10	3	9	7	12	16	13	25	7	35	19	33		1,028
H 17	75	76	49	40	45	26	22	18	27	21	40	38	38	57	38	75	49	63	69	86	106	93	138	133	141		4,647
H 16	79	84	61	67	43	37	38	23	26	34	22	33	33	36	41	49	56	69	63	98	85	111	117	162	148		4,616
H 15	69	54	59	52	62	47	24	22	34	25	39	24	30	34	72	54	135	92	125	121	174	160	174	172	195		3,773

年齢構成 平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「175」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	129	252	854	781	762	733	513	277	121	71	45	75	6	28	4,647
H 16	132	285	896	841	709	671	480	261	121	65	46	81	6	22	4,616

## (64) 手足口病



平成17年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w	
県北	5	2	0	2	1	0	1	0	4	0	1	2	4	4	1	1	3	2	3	6	19	15	32	58	98	82	68	
郡山市	4	2	14	8	5	0	0	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2	1	2	14	12	31	34	43	
県中	0	0	1	2	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	3	0	1	1	6	6	10	4	6	6	10	
県南	0	1	1	1	0	0	0	2	5	0	1	0	0	0	2	2	11	2	1	0	0	1	5	13	19	25	19	38
会津	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	1	0	0	1	3	2	2	2	5	6		
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
相双	1	0	3	1	3	1	1	2	0	4	0	2	2	3	0	2	0	5	3	1	1	3	2	4	1	1	4	
いわき市	5	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	3	2	3	7	12	17	30	12		
H 17	15	5	20	20	11	1	7	10	5	7	2	5	7	10	6	15	9	12	11	13	31	37	80	111	180	177	183	
H 16	5	6	1	5	4	5	3	0	2	2	4	1	0	2	1	0	1	3	1	0	6	4	3	1	2	2	2	
H 15	4	12	6	2	0	9	11	5	8	6	4	3	1	6	8	7	8	13	7	17	20	22	46	51	47	71	108	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計		
県北	71	64	65	31	27	16	6	6	5	8	7	1	4	7	2	7	2	6	0	2	0	1	4	1	0	0	757	
郡山市	37	43	40	34	32	11	14	5	8	3	14	4	2	3	2	2	2	0	3	2	1	2	2	4	1	0	451	
県中	5	8	9	2	3	6	4	4	3	3	2	2	0	2	2	0	0	2	0	4	4	2	1	0	0	0	129	
県南	33	25	11	8	9	8	7	3	4	4	0	0	2	0	2	9	1	4	4	5	0	0	1	0	0	0	289	
会津	16	12	15	7	13	5	5	6	10	5	7	6	1	5	9	6	4	1	4	8	4	4	3	4	2	1	191	
南会津	0	0	1	0	2	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
相双	3	1	4	19	38	21	18	12	10	14	7	2	3	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	
いわき市	18	6	7	2	2	2	2	12	7	11	8	4	5	3	3	2	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	204	
H 17	183	159	152	103	126	70	58	48	47	48	46	19	17	21	20	28	11	14	11	22	9	10	12	9	3	2,236		
H 16	8	10	5	19	18	10	11	20	23	24	52	60	63	54	62	94	60	100	84	72	66	82	62	50	47	1,251		
H 15	98	134	143	142	168	101	117	184	197	164	181	182	105	75	63	36	29	38	19	40	14	13	27	30	15	2,817		

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	13	102	508	416	355	274	210	125	73	51	33	52	0	24	2,236
H 16	6	46	246	254	188	186	139	78	32	27	17	20	3	9	1,251

## 手足口病 (48小児科定点)

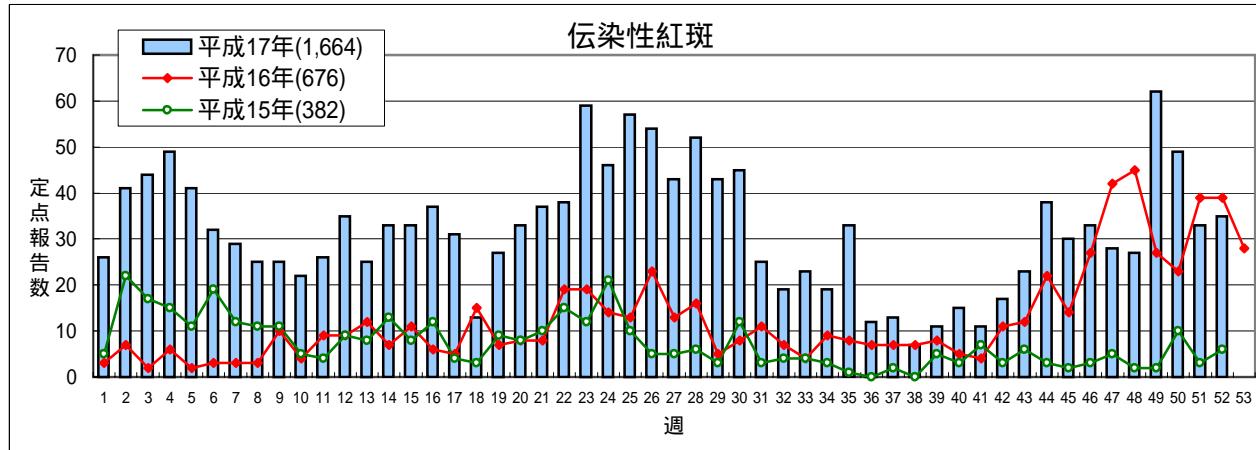
定点からの年間報告数は2,236例あり、6月から8月にかけて県北・郡山市・県南を中心に流行が見られ、その後、相双でも流行が見られた。

年齢構成では、1~3歳の報告が多く、半数以上(57.2%)を占めた。

少ない 多い

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「29」

## (65) 伝染性紅斑



### 伝染性紅斑 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,664例あり、昨年の2倍以上の報告数であった。1月から県北・郡山市で流行が見られ、6月には会津にも拡大し、8月頃まで続いた。また、11月以降、会津・いわき市を中心に再び流行が見られた。

年齢構成では、4歳～6歳の報告が多く、約半数(44.1%)を占めた。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

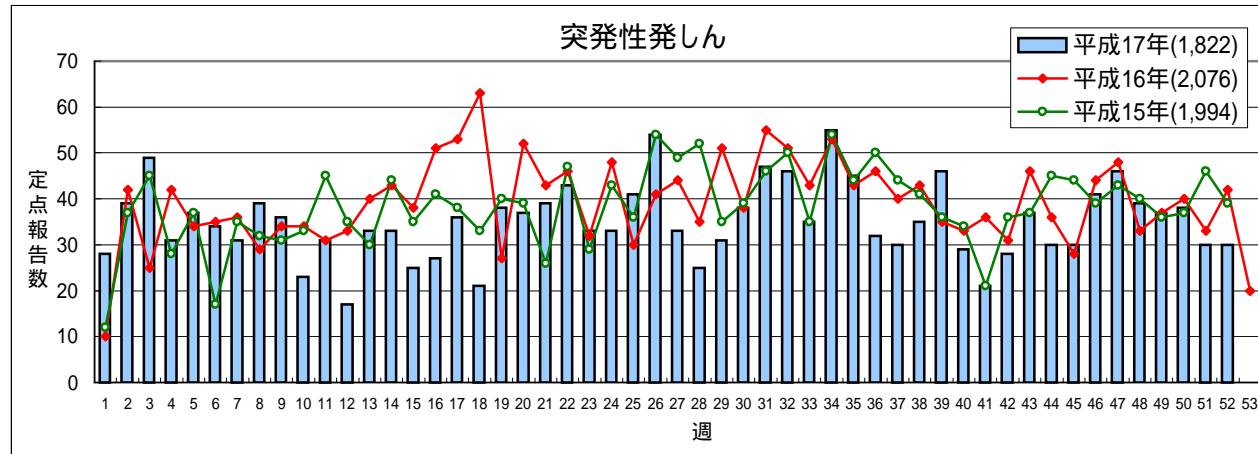
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	7	13	25	13	16	5	10	6	9	9	12	14	12	19	12	5	3	8	12	9	4	11	10	10	11	5	
郡山市	13	20	10	22	18	9	12	9	5	5	5	9	9	10	15	14	8	7	7	16	14	23	12	23	20	16	
県中	1	0	1	1	5	2	3	1	2	5	4	1	1	1	5	3	1	7	6	3	4	11	9	3	2	8	
県南	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	4	0
会津	0	2	2	2	0	3	2	4	4	4	2	2	1	3	5	5	5	1	2	4	5	10	7	8	9	15	10
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
相双	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
いわき市	2	6	6	9	2	11	2	3	6	2	2	2	1	5	7	4	0	3	4	3	6	3	5	9	2	3	
H 17	26	41	44	49	41	32	29	25	25	22	26	35	25	33	33	37	31	13	27	33	37	38	59	46	57	54	43
H 16	3	7	2	6	2	3	3	3	10	4	9	9	12	7	11	6	5	15	7	8	8	19	19	14	13	23	13
H 15	5	22	17	15	11	19	12	11	11	5	4	9	8	13	8	12	4	3	9	8	10	15	12	21	10	5	5
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	10	5	15	4	2	2	4	5	1	4	0	1	4	2	2	1	3	3	0	6	2	5	3	1	0	360	
郡山市	15	13	7	4	4	8	3	5	3	3	4	1	2	0	0	2	4	1	1	0	1	1	0	1	2	429	
県中	5	7	6	2	0	2	3	2	0	0	0	2	1	3	2	4	3	3	3	1	0	2	4	2	2	152	
県南	1	1	3	1	1	0	0	2	1	1	0	1	0	0	2	0	5	1	2	0	1	2	2	0	4	43	
会津	12	7	2	9	6	3	5	10	2	4	2	3	2	2	2	6	7	10	9	8	9	21	13	12	11	294	
南会津	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	3	3	0	4	1	3	2	1	0	0	25	
相双	1	0	1	1	2	2	0	2	0	1	0	0	1	1	4	0	1	1	0	1	1	0	1	2	1	32	
いわき市	8	9	10	4	4	6	4	7	5	0	1	2	5	2	3	7	12	11	14	11	10	29	25	15	15	329	
H 17	52	43	45	25	19	23	19	33	12	13	7	11	15	11	17	23	38	30	33	28	27	62	49	33	35	1,664	
H 16	16	5	8	11	7	4	9	8	7	7	7	8	5	4	11	12	22	14	27	42	45	27	23	39	39	676	
H 15	6	3	12	3	4	4	3	1	0	2	0	5	3	7	3	6	3	2	3	5	2	2	10	3	6	382	

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「28」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	4	38	80	85	172	226	262	245	175	135	86	117	7	32	1,664
H 16	5	18	35	38	57	68	109	81	81	83	46	39	3	13	676

## (66) 突発性発しん



### 突発性発しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,822例あり、例年どおりの報告数となった。

年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(97.9%)であった。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

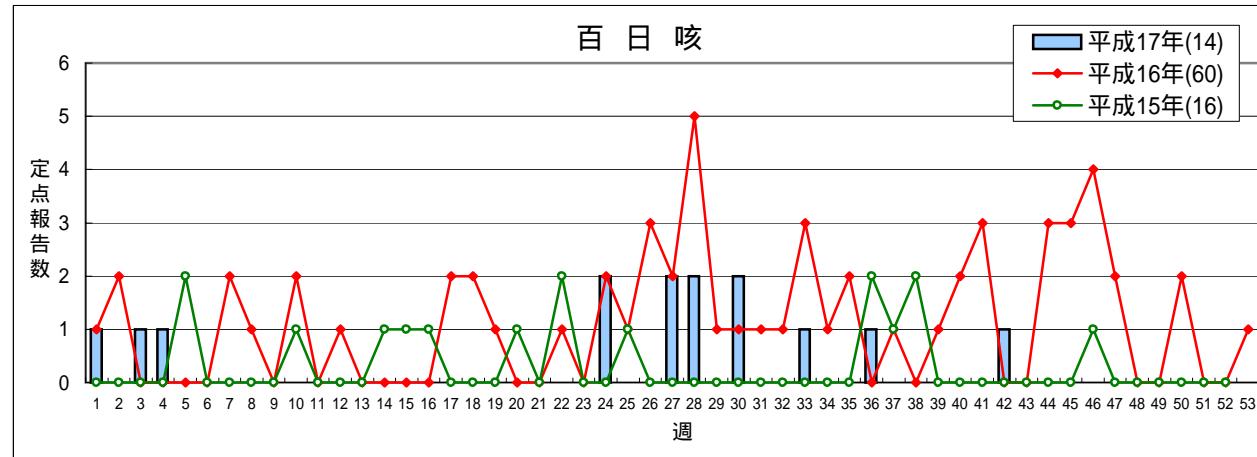
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	9	15	7	10	2	9	9	8	4	5	5	8	7	4	7	14	4	4	9	10	7	6	7	6	8	14
郡山市	8	14	10	7	10	15	4	10	8	3	8	4	7	7	9	8	5	7	11	6	10	9	9	8	9	15	8
県中	3	2	1	2	2	1	1	2	1	3	2	0	4	4	1	2	5	1	3	3	1	4	2	1	3	5	1
県南	6	2	3	4	1	4	4	4	6	0	6	2	2	0	0	3	4	0	0	3	4	1	1	2	2	0	
会津	1	1	5	4	4	4	4	0	1	2	2	1	4	2	1	2	1	4	3	3	0	4	1	2	5	4	3
南会津	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
相双	6	4	5	3	5	3	6	7	4	5	4	3	1	4	1	2	4	3	8	9	4	7	8	6	5	6	2
いわき市	4	6	8	4	4	5	3	7	8	6	4	2	7	8	9	3	2	2	9	4	10	11	6	7	11	14	5
H17	28	39	49	31	37	34	31	39	36	23	31	17	33	33	25	27	36	21	38	37	39	43	33	33	41	54	33
H16	10	42	25	42	34	35	36	29	34	34	31	33	40	43	38	51	53	63	27	52	43	46	32	48	30	41	44
H15	12	37	45	28	37	17	35	32	31	33	45	35	30	44	35	41	38	33	40	39	26	47	29	43	36	54	49
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	5	7	8	5	10	7	14	10	3	7	13	10	12	7	9	7	8	10	6	11	11	11	17	10	12	428	
郡山市	5	7	7	7	6	7	8	7	7	3	3	12	4	4	7	7	5	8	9	7	9	6	6	7	7	394	
県中	2	0	7	2	2	4	5	8	3	6	1	5	3	3	1	1	0	1	4	4	4	2	2	1	132		
県南	2	2	1	2	10	0	5	3	1	3	3	3	2	1	0	0	2	3	4	0	3	2	2	0	4	126	
会津	4	2	1	5	3	2	9	4	6	2	4	1	2	1	0	6	1	0	2	5	2	7	5	2	3	147	
南会津	0	0	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	16	
相双	4	6	9	9	5	3	6	5	5	3	4	6	1	4	6	7	5	3	12	5	4	3	4	3	2	249	
いわき市	3	7	4	16	8	9	8	8	7	6	7	9	4	0	3	9	8	6	7	14	6	3	2	6	1	330	
H17	25	31	38	47	46	35	55	45	32	30	35	46	29	21	28	37	30	30	41	46	39	37	38	30	30	1,822	
H16	35	51	38	55	51	43	53	43	46	40	43	35	36	31	46	36	28	44	48	33	37	40	33	42	2,076		
H15	52	35	39	46	50	35	54	44	50	44	41	36	34	21	36	37	45	44	39	43	40	36	37	46	39	1,994	

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	104	1094	585	35	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,822
H16	132	1286	611	39	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	2,076

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「20」

## (67)百日咳



## 百日咳 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は14例あった。  
年齢構成では、1歳までの報告がほとんど(13例)であった。

少ない 多い

## 平成17年 報告数

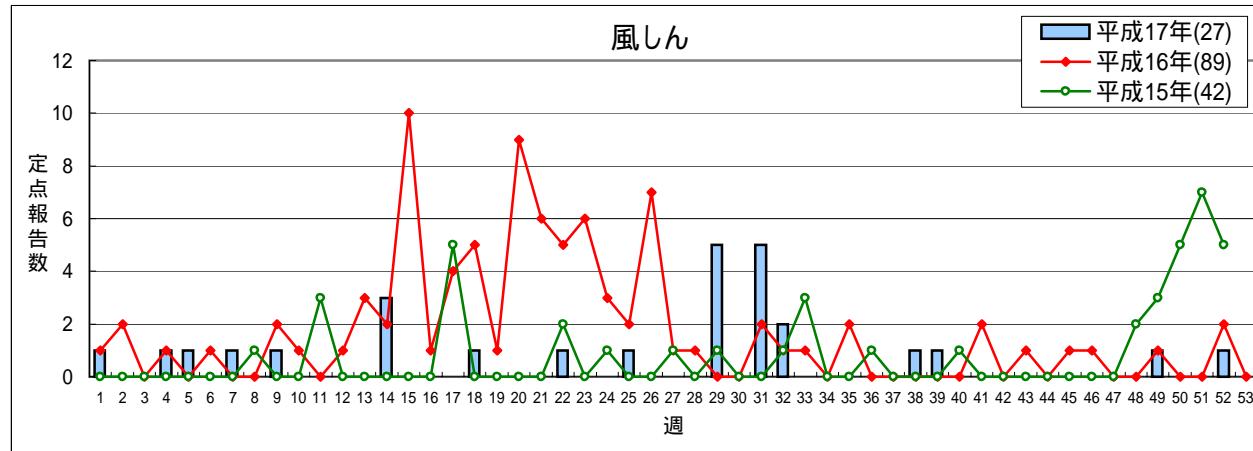
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
郡山市	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
H16	1	2	0	0	0	0	2	1	0	2	0	1	0	0	0	2	2	1	0	0	1	0	2	1	3	2	
H15	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
H17	2	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
H16	5	1	1	1	1	3	1	2	0	1	0	1	2	3	0	0	3	3	4	2	0	0	2	0	0	60	
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16	

## 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	6	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
H16	18	12	8	10	5	0	2	1	1	1	1	1	0	0	60

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

## (68)風しん



### 風しん (48小児科定点)

定点からの年間報告数は27例あった。特に県中(18例)からの報告が多かった。

年齢構成では、3歳までの報告が半数以上(51.9%)を占めた。また、20歳以上の報告は3例であった。

### 平成17年 報告数

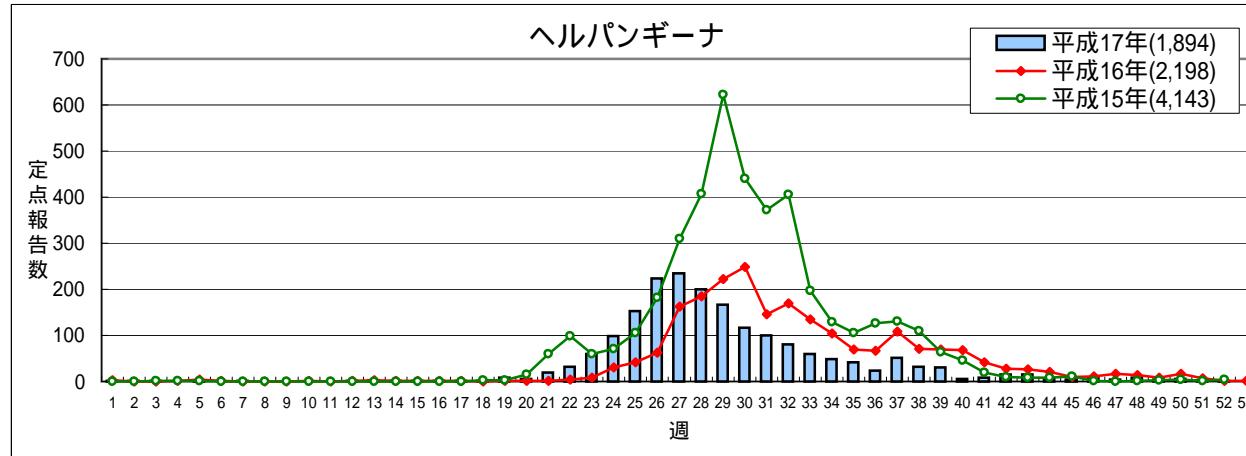
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
県中	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	0	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
H16	1	2	0	1	0	1	0	0	2	1	0	1	3	2	10	1	4	5	1	9	6	5	6	3	2	7	1
H15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	5	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
県中	0	0	0	5	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18	18
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
H17	0	5	0	5	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	27	27
H16	1	0	0	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	2	89	89
H15	0	1	0	0	1	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	7	5	42	42

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	2	3	2	2	5	2	1	1	0	2	3	1	0	3	27
H16	1	3	6	7	6	9	10	8	3	3	9	20	2	2	89

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

## (69)ヘルパンギーナ



平成17年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	2	4	10	16	43	45	
郡山市	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	18	8	16	24	28	
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	4	3	6	16	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	5	6	5	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	2	1	4	
南会津	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	7	10	16	17	16	23	10
いわき市	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	5	4	5	11	15	53	96	116	126
H 17	1	2	1	0	2	0	1	0	0	0	1	3	1	1	1	1	2	9	6	19	32	60	98	153	224	235	
H 16	3	0	0	1	4	1	0	0	0	1	0	3	2	2	1	1	0	1	1	1	4	9	31	42	63	162	
H 15	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	15	60	99	60	71	106	182	310	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	33	24	19	13	13	9	6	3	1	4	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	257
郡山市	36	28	21	7	10	7	2	3	4	2	1	2	1	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	234
県中	4	6	9	0	3	0	2	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	2	4	2	0	0	77
県南	11	13	18	15	4	7	5	4	6	8	0	4	0	3	3	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	129
会津	20	27	19	33	23	19	22	16	5	6	8	11	0	2	1	3	2	1	0	2	0	1	1	0	0	0	240
南会津	3	0	0	3	10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
相双	11	14	6	8	6	0	5	7	4	5	8	2	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	185
いわき市	82	55	24	21	12	18	4	9	3	25	12	11	2	3	7	9	4	1	3	2	3	0	0	1	1	750	
H 17	200	167	116	100	81	60	49	42	23	51	32	30	6	9	15	15	7	4	8	4	8	4	6	3	1	1,894	
H 16	185	222	248	146	169	135	104	70	66	108	71	69	68	42	28	26	21	10	11	17	14	8	16	7	2	2,198	
H 15	407	622	440	372	406	197	129	105	126	131	110	64	46	20	10	9	9	11	2	0	2	3	4	2	4	4,143	

年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H 17	26	144	469	396	324	242	155	50	34	16	12	18	4	4	1,894
H 16	17	185	590	500	340	229	184	74	26	15	18	17	2	1	2,198

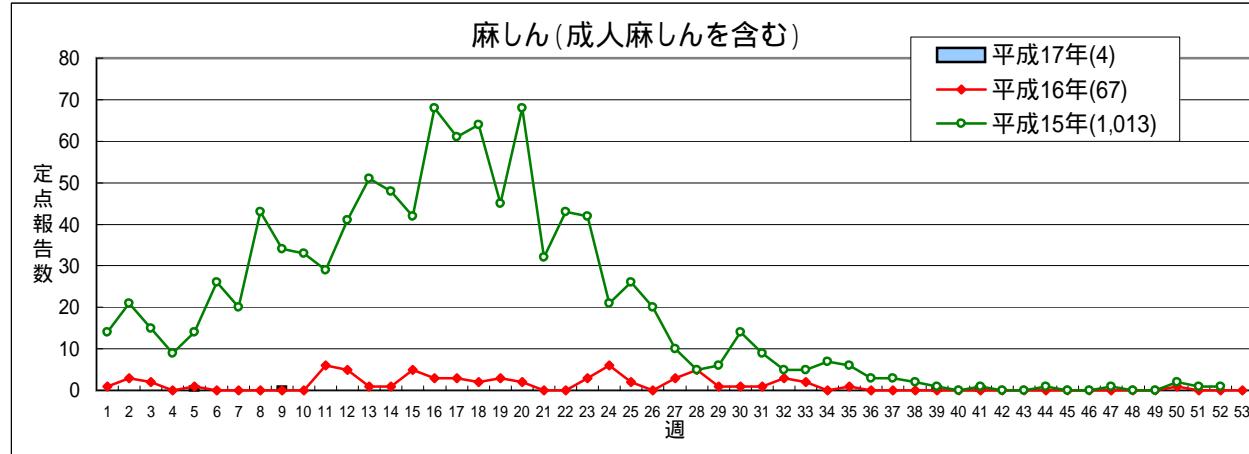
## ヘルパンギーナ (48小児科定点)

定点からの年間報告数は1,894例あり、5月下旬から浜通りを中心に流行が始まり、その後中通り、会津に拡大し、10月まで続いた。  
年齢構成では、1歳の報告が最も多く、約1/4(24.8%)を占めた。

少ない  多い

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

## (70) 麻しん(成人麻しん含む)



### 麻しん(成人麻しん含む) (48小児科定点)

定点からの年間報告数は4例で、過去2年間と比較して最も少なかった。

少ない 多い

#### 平成17年 報告数

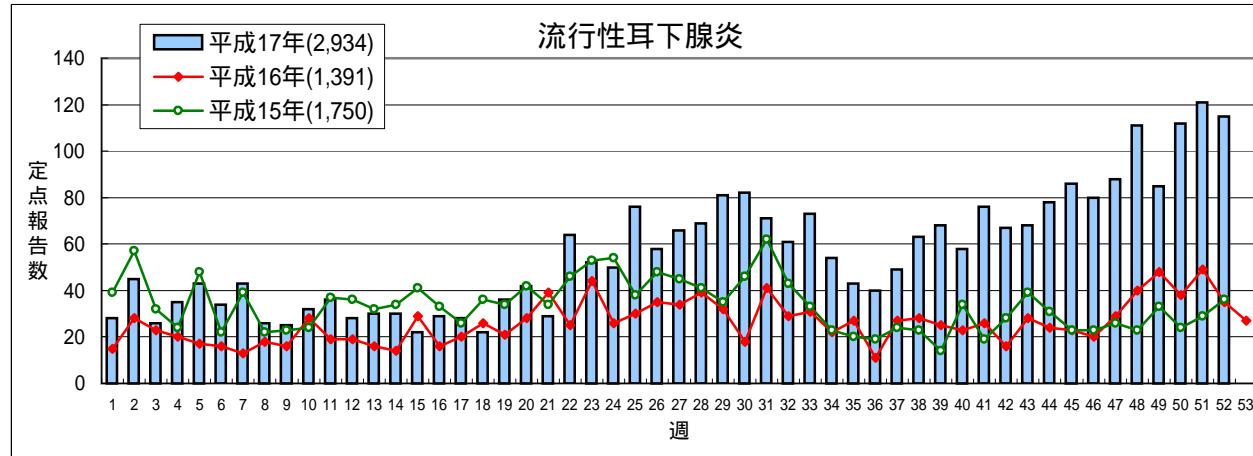
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	1	3	2	0	1	0	0	0	0	6	5	1	1	5	3	3	2	3	2	0	0	3	6	2	0	3	
H15	14	21	15	9	14	26	20	43	34	33	29	41	51	48	42	68	61	64	45	68	32	43	42	21	26	20	10
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
H16	5	1	1	1	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	67	
H15	5	6	14	9	5	5	7	6	3	3	2	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	1	1,013	

#### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計
H17	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
H16	2	7	8	7	4	2	3	0	3	2	2	8	5	14	67

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

## (71)流行性耳下腺炎



### 流行性耳下腺炎 (48小児科定点)

定点からの年間報告数は2,934例あり、昨年の2倍以上の報告数であった。1月から県南を中心に流行が見られ、その後、郡山市・会津・南会津・相双にも拡大し、郡山市・会津では半年以上も流行が続いた。

年齢構成では、5歳をピークに2～7歳の報告が多く、約8割(78.1%)を占めた。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

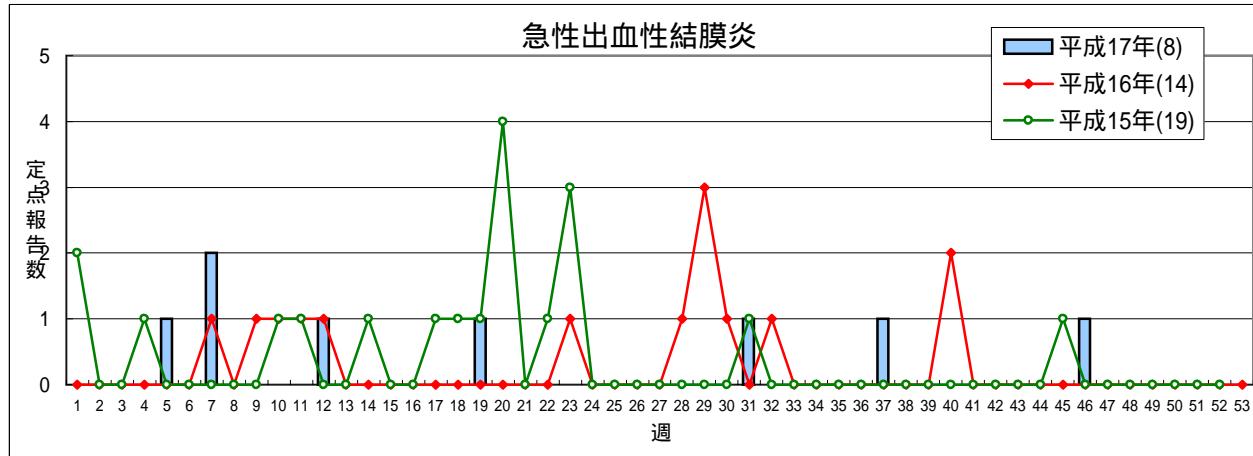
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	5	12	4	3	6	3	4	4	1	9	5	4	5	2	2	2	8	3	3	8	0	7	4	5	8	12	12
郡山市	1	7	1	2	5	2	3	2	7	2	8	1	5	3	2	6	0	3	6	11	4	9	12	5	11	5	12
県中	1	1	1	0	2	1	6	0	2	0	2	2	3	4	4	0	1	0	1	0	2	6	4	4	1	7	2
県南	8	13	7	8	12	10	16	8	6	12	5	7	3	7	3	6	5	3	9	4	3	9	11	13	9	14	6
会津	1	3	0	0	1	5	4	3	2	0	6	7	5	4	5	4	6	4	11	18	9	18	15	15	26	9	22
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	7	0	2	13	2	6
相双	6	6	5	10	9	7	6	6	0	3	5	2	2	5	4	4	5	2	2	1	4	4	3	2	4	5	3
いわき市	6	3	8	12	8	6	4	3	7	5	5	5	7	5	2	6	3	7	3	0	5	4	3	4	4	4	3
H 17	28	45	26	35	43	34	43	26	25	32	36	28	30	30	22	29	28	22	36	42	29	64	52	50	76	58	66
H 16	15	28	23	20	17	16	13	18	16	28	19	19	16	14	29	16	20	26	21	28	39	25	44	26	30	35	34
H 15	39	57	32	24	48	22	39	22	23	24	37	36	32	34	41	33	26	36	34	42	34	46	53	54	38	48	45
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	6	5	11	7	8	5	4	5	6	9	10	4	7	12	7	10	13	8	10	11	17	7	11	9	6		349
郡山市	18	26	21	25	15	23	21	9	10	13	15	21	15	17	12	15	20	12	22	21	19	27	25	33	29		619
県中	5	13	3	2	1	10	1	1	1	0	4	4	4	4	9	4	10	8	9	12	13	12	13	24		225	
県南	11	4	7	11	2	1	2	3	3	2	3	0	3	1	3	2	3	2	2	0	8	2	5	13	2		312
会津	15	21	21	15	17	27	16	15	17	16	29	29	15	30	22	17	24	31	25	31	40	24	40	34	46		820
南会津	4	8	10	1	7	4	4	7	0	1	0	0	5	3	12	1	5	7	2	2	1	1	4	3	0		127
相双	8	3	8	5	8	1	5	2	2	4	1	5	6	5	4	10	4	9	9	5	10	4	6	5	2		246
いわき市	2	1	1	5	3	2	1	1	3	5	5	3	4	3	4	5	7	2	9	4	7	9	11	6		236	
H 17	69	81	82	71	61	73	54	43	40	49	63	68	58	76	67	68	78	86	80	88	111	85	112	121	115		2,934
H 16	39	32	18	41	29	31	22	27	11	27	28	25	23	26	16	28	24	23	20	29	40	48	38	49	35		1,391
H 15	41	35	46	62	43	33	23	20	19	24	23	14	34	19	28	39	31	23	26	23	33	24	29	36		1,750	

### 年齢構成

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~	合計	
H 17	3	11	133	215	417	502	521	412	223	155	89	208	5	40		2,934
H 16	0	11	62	123	142	213	271	187	120	80	68	95	9	10		1,391

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「27」

## (73)急性出血性結膜炎



### 急性出血性結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は8例あり、年間をとおして散発事例のみであった。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

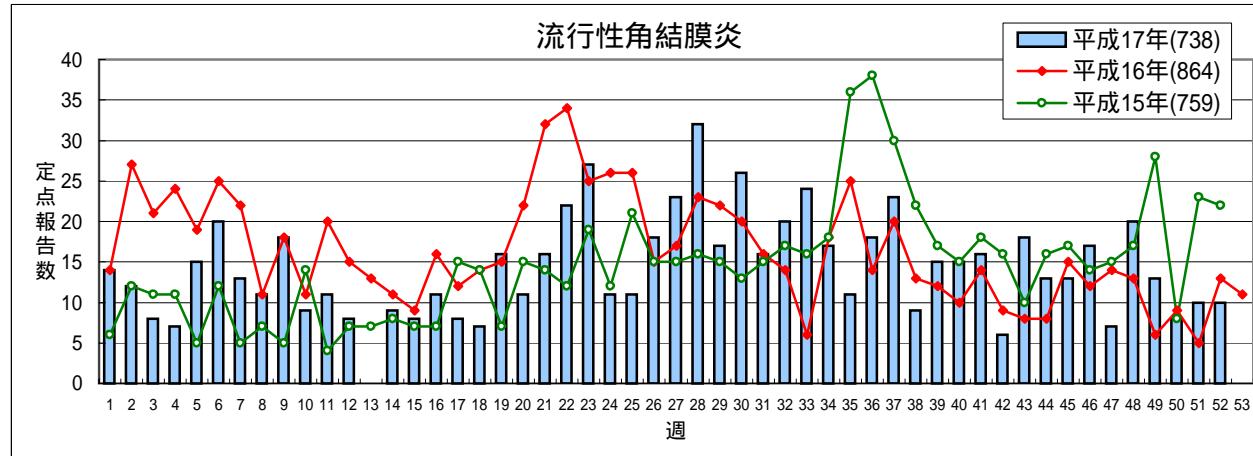
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
H15	2	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	4	0	1	3	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
県中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県南	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
H16	1	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
H15	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	19

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H17	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	2	0	0	0	8
H16	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	2	0	0	1	14	

## (74)流行性角結膜炎



### 流行性角結膜炎 (12眼科定点)

定点からの年間報告数は738例あり、年間を通して流行は見られなかった。

年齢構成では、20歳以上が約8割(77.2%)を占め、特に20歳代・30歳代の報告が多かった。

少ない 多い

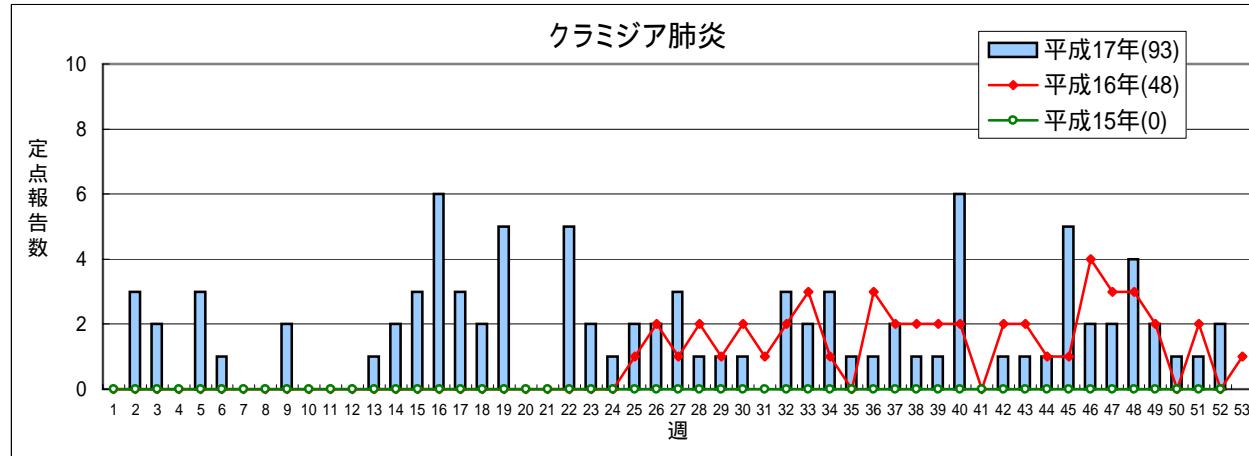
### 平成17年 報告数

週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	5	1	0	4	0	0	3	4	1	0	0	0	1	0	2	0	0	3	0	0	5	0	3	1	2	
郡山市	3	2	1	4	3	7	8	5	5	2	1	2	0	2	3	4	3	5	6	2	5	6	11	1	4	4	6
県中	1	0	1	1	2	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	1	2	0	0	0	0
県南	5	2	1	1	3	3	0	1	4	1	4	4	0	2	2	1	0	0	5	4	3	5	2	1	0	1	5
会津	2	0	1	0	2	0	1	0	2	1	4	1	0	1	2	1	2	0	2	0	1	3	2	6	1	5	2
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
相双	2	1	1	0	0	3	3	1	1	1	2	0	0	2	0	1	0	2	0	1	0	1	1	1	3	1	1
いわき市	1	2	2	1	1	4	1	1	1	2	0	1	0	1	1	2	2	0	3	0	3	6	4	2	2	4	7
H17	14	12	8	7	15	20	13	11	18	9	11	8	0	9	8	11	8	7	16	11	16	22	27	11	11	18	23
H16	14	27	21	24	19	25	22	11	18	11	20	15	13	11	9	16	12	14	15	22	32	34	25	26	26	15	17
H15	6	12	11	11	5	12	5	7	5	14	4	7	7	8	7	7	15	14	7	15	14	12	19	12	21	15	15
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	2	0	0	3	2	4	0	0	8	6	5	4	3	4	0	6	6	3	1	2	4	1	1	1	1	102	
郡山市	5	5	11	4	9	7	7	3	4	0	0	2	7	1	1	3	1	4	5	1	6	1	2	2	4	200	
県中	3	1	2	0	2	2	0	2	3	5	1	2	0	0	0	1	0	0	1	2	1	2	1	0	0	51	
県南	13	2	1	2	3	3	4	1	0	3	0	0	2	3	4	2	2	3	0	1	0	0	1	2	1	114	
会津	3	4	3	5	2	4	1	1	2	4	1	3	3	2	1	1	2	1	4	1	3	4	0	1	0	98	
南会津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
相双	0	0	1	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	2	3	1	0	3	1	1	1	1	53	
いわき市	6	5	8	2	1	3	4	3	1	4	2	4	0	4	0	4	0	0	2	1	2	4	1	3	2	120	
H17	32	17	26	16	20	24	17	11	18	23	9	15	15	16	6	18	13	13	17	7	20	13	8	10	10	738	
H16	23	22	20	16	14	6	18	25	14	20	13	12	10	14	9	8	8	15	12	14	13	6	9	5	13	864	
H15	16	15	13	15	17	16	18	36	38	30	22	17	15	18	16	10	16	17	14	15	17	28	8	23	22	759	

年齢構成 平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「11」

	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~	合計
H17	3	4	14	10	13	12	11	12	4	9	4	31	41	156	163	95	75	51	30	738
H16	4	8	17	13	21	16	26	22	11	12	10	29	37	154	178	94	93	75	44	864

## (79)クラミジア肺炎(オウム病を除く)



### クラミジア肺炎(オウム病を除く) (7基幹定点)

定点からの年間報告数は93例あり、すべて郡山からの報告であった。

年齢構成では、70歳以上が4割(40.9%)を占めた。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

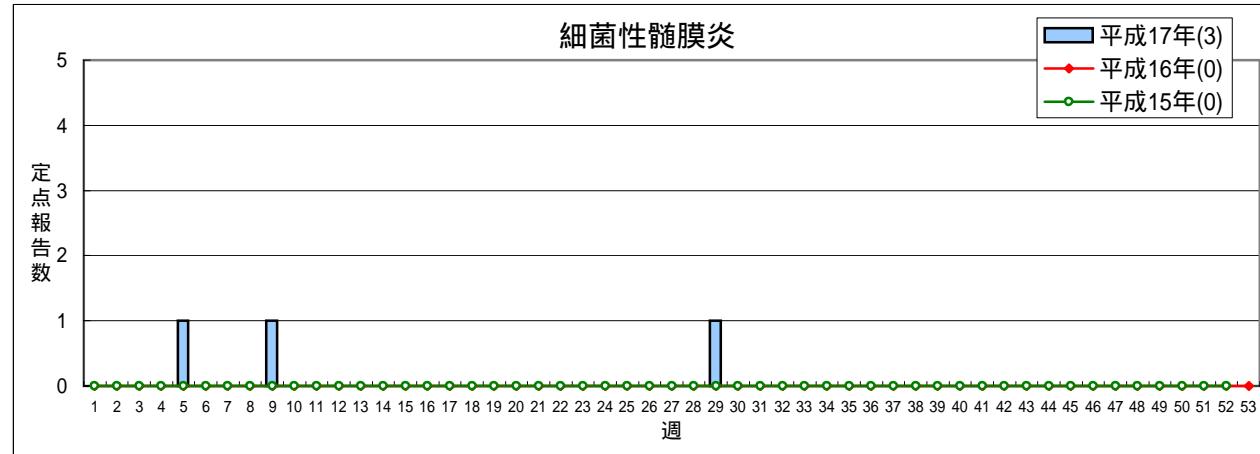
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	3	2	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	2	3	6	3	2	5	0	0	5	2	1	2	2	3
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	3	2	0	3	1	0	0	2	0	0	0	1	2	3	6	3	2	5	0	0	5	2	1	2	2	3
H16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	1	1	1	0	3	2	3	1	1	2	1	1	6	0	1	1	1	5	2	2	4	2	1	1	2	93	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	1	1	1	0	3	2	3	1	1	2	1	1	6	0	1	1	1	5	2	2	4	2	1	1	2	93	
H16	2	1	2	1	2	3	1	0	3	2	2	2	2	0	2	2	1	1	4	3	3	2	0	2	0	48	
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「1」

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	~70歳~	合計
H17	0	0	0	3	3	4	7	2	3	5	2	1	7	5	13	38	93
H16	0	1	1	2	1	1	3	2	2	2	1	4	5	7	1	15	48

## (80)細菌性髓膜炎



## 細菌性髄膜炎 (7基幹定点)

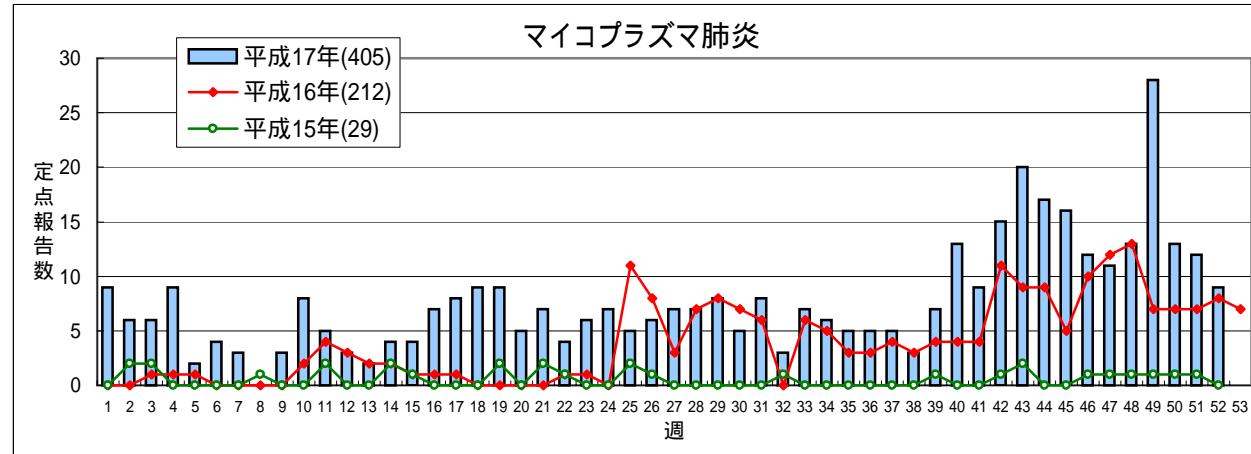
定点からの年間報告数は3例(県北2例, 郡山市1例)であった。

少ない  多い

## 年齡構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

## (82)マイコプラズマ肺炎



### マイコプラズマ肺炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は405例あり、昨年の2倍の報告数であった。297例が郡山市から、69例が南会津から報告であった。

年齢構成では、14歳以下の報告が8割(80.0%)を占めた。

少ない 多い

### 平成17年 報告数

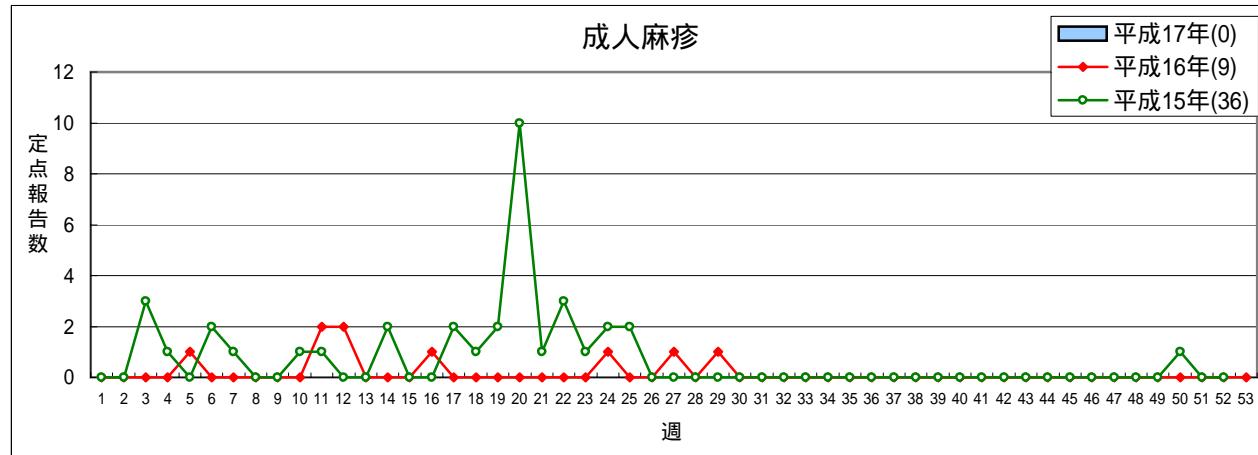
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	9	6	6	8	2	4	3	0	3	7	5	1	1	3	4	7	7	7	3	7	4	3	4	4	3	6	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	2	0	0	3	3	1	3	0	
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	9	6	6	9	2	4	3	0	3	8	5	3	2	4	4	7	8	9	9	5	7	4	6	7	5	6	7
H16	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	4	3	2	2	1	1	1	0	0	0	0	1	1	0	11	8	3
H15	0	2	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	1	0	0	2	0	2	1	0	0	2	1	0	
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	1	0	5	1	1	0	0	2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	2	0	2	34	
郡山市	5	6	4	7	3	6	5	0	4	3	3	7	11	7	12	10	11	13	10	9	9	7	8	10	3	297	
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
南会津	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	6	4	1	0	1	3	19	3	2	4	69
相双	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
H17	7	8	5	8	3	7	6	5	5	5	3	7	13	9	15	20	17	16	12	11	13	28	13	12	9	405	
H16	7	8	7	6	0	6	5	3	3	4	3	4	4	4	11	9	9	5	10	12	13	7	7	7	8	212	
H15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	1	1	1	1	1	0	29		

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「7」

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H17	6	134	128	56	11	12	13	10	8	3	4	2	4	3	3	8	405
H16	4	78	48	22	6	9	12	7	8	6	2	0	3	0	2	5	212

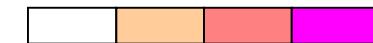
## (83)成人麻疹



### 成人麻疹 (7基幹定点)

定点からの報告はなかった。

少ない



多い

### 平成17年 報告数

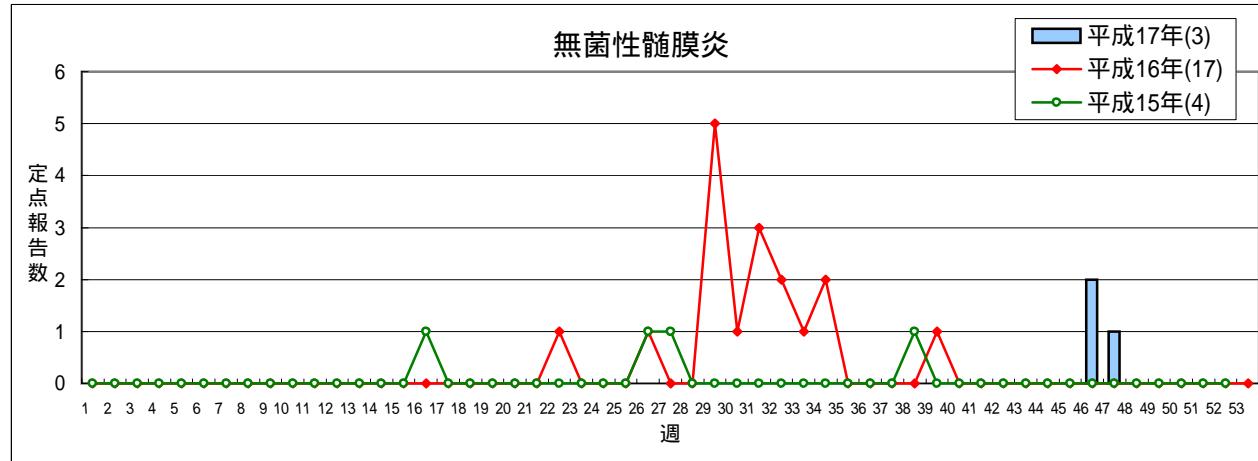
週	1w	2w	3w	4w	5w	6w	7w	8w	9w	10w	11w	12w	13w	14w	15w	16w	17w	18w	19w	20w	21w	22w	23w	24w	25w	26w	27w
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
H15	0	0	3	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	2	0	0	2	1	2	10	1	3	1	2	2	0	0
週	28w	29w	30w	31w	32w	33w	34w	35w	36w	37w	38w	39w	40w	41w	42w	43w	44w	45w	46w	47w	48w	49w	50w	51w	52w	合計	
県北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
郡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
県南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南会津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
H15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	36

### 年齢構成

平成16年は、第53週まで集計。53週報告数「0」

	~0歳	~4歳	~9歳	~14歳	~19歳	~24歳	~29歳	~34歳	~39歳	~44歳	~49歳	~54歳	~59歳	~64歳	~69歳	70歳~	合計
H17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H16	0	0	0	0	0	3	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	9

## (84) 無菌性髓膜炎



## 無菌性髄膜炎 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は3例(いずれも県北)であった。

年齢構成では、3名とも5～9歳であった。

少ない     多い

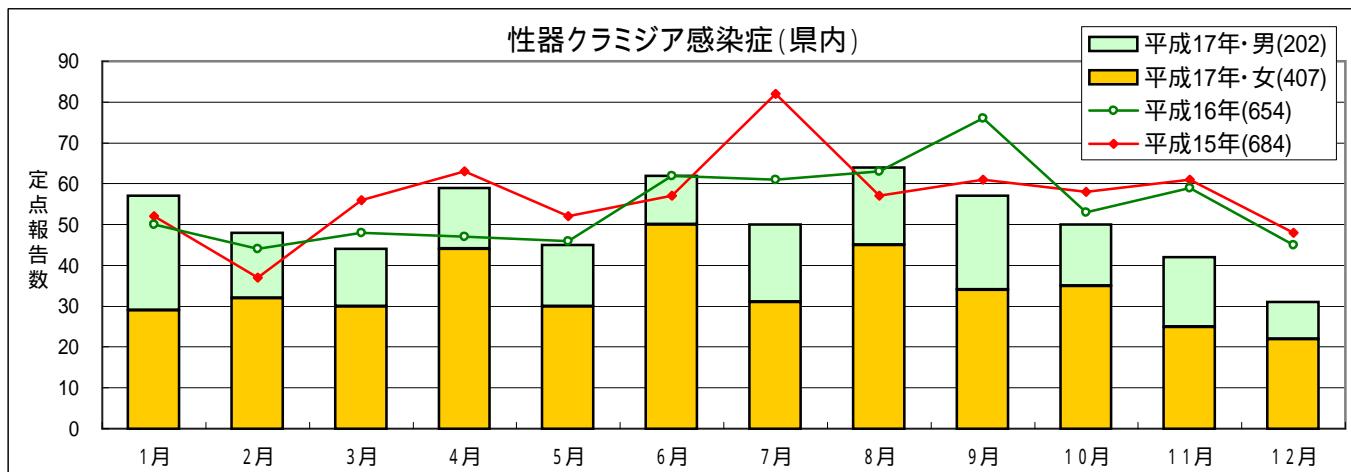
## 年齡構成

平成16年は、第53調まで集計。53調報告数「0」

## (75)性器クラミジア感染症

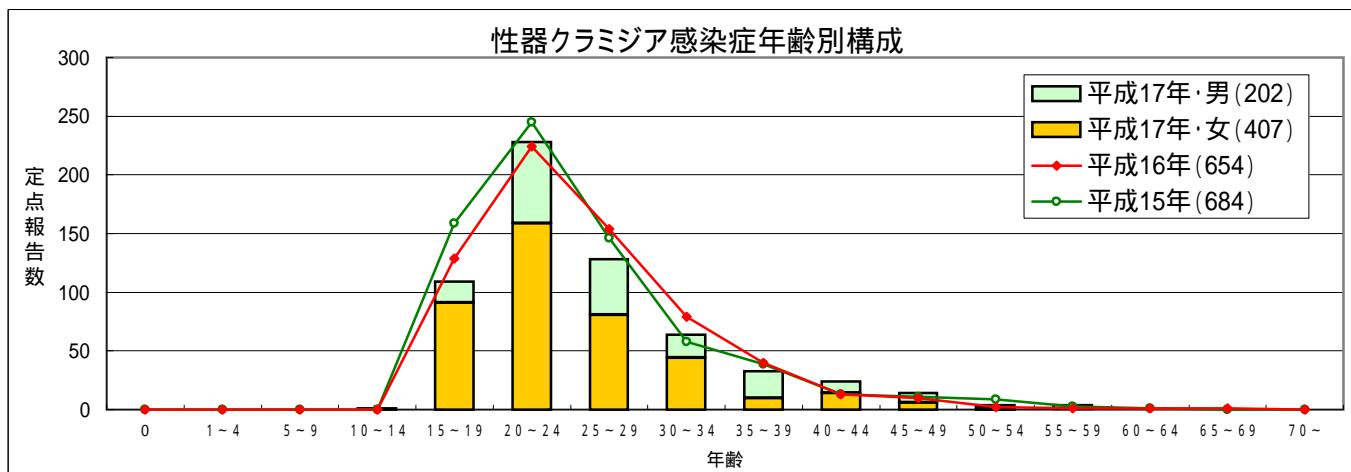
(16 STD定点)

定点からの年間報告数は609例(男202例、女407例)あり、15～29歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

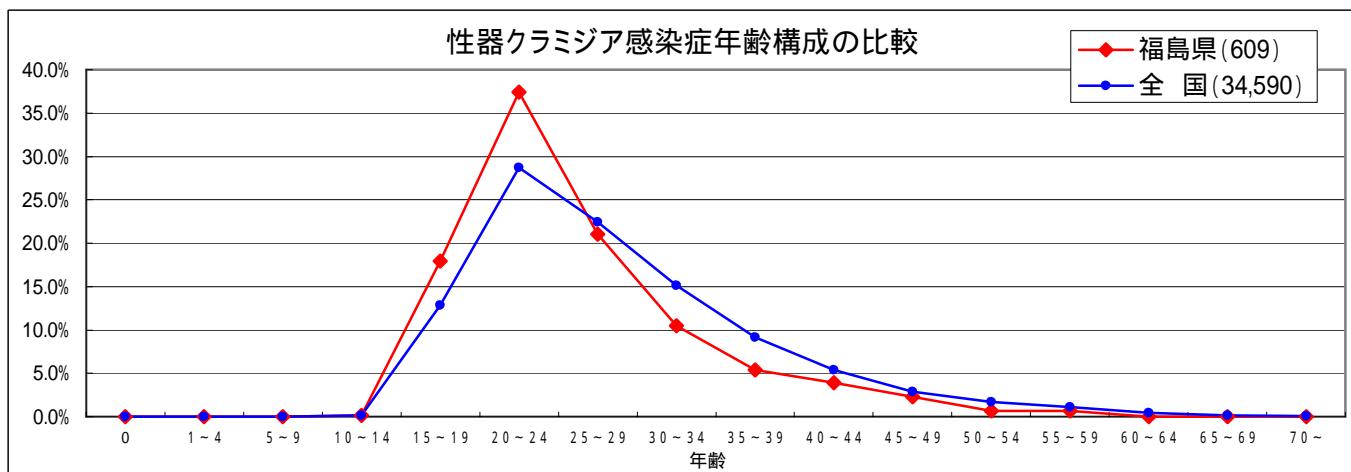


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年・男(202)	28	16	14	15	15	12	19	19	23	15	17	9	202
平成17年・女(407)	29	32	30	44	30	50	31	45	34	35	25	22	407
平成17年(609)	57	48	44	59	45	62	50	64	57	50	42	31	609
平成16年(654)	50	44	48	47	46	62	61	63	76	53	59	45	654
平成15年(684)	52	37	56	63	52	57	82	57	61	58	61	48	684

### 平成15～17年 県内の年齢別構成



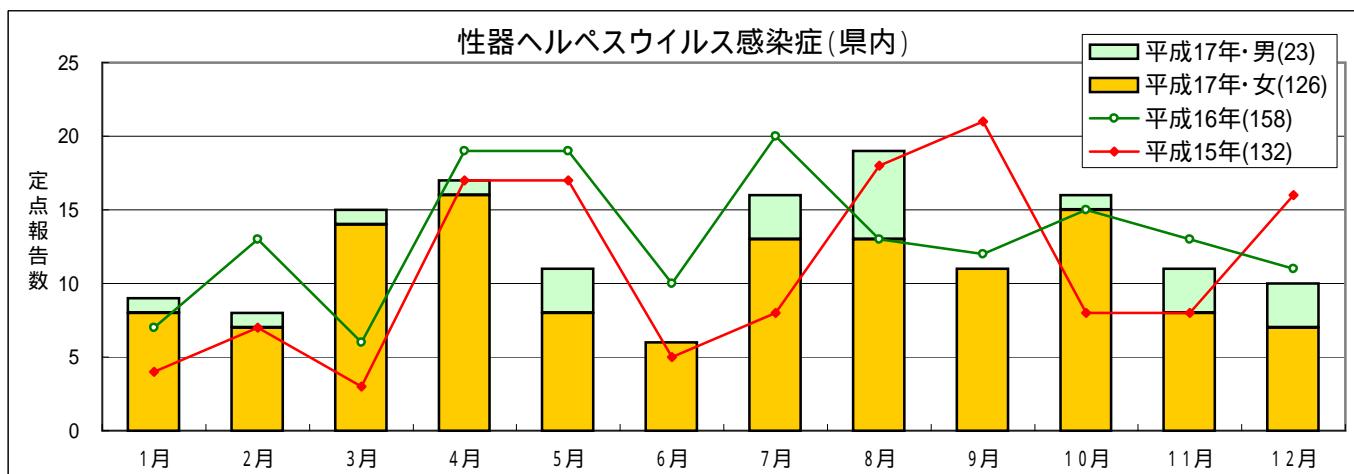
### 平成17年 年齢構成の比較



## (76)性器ヘルペスウイルス感染症

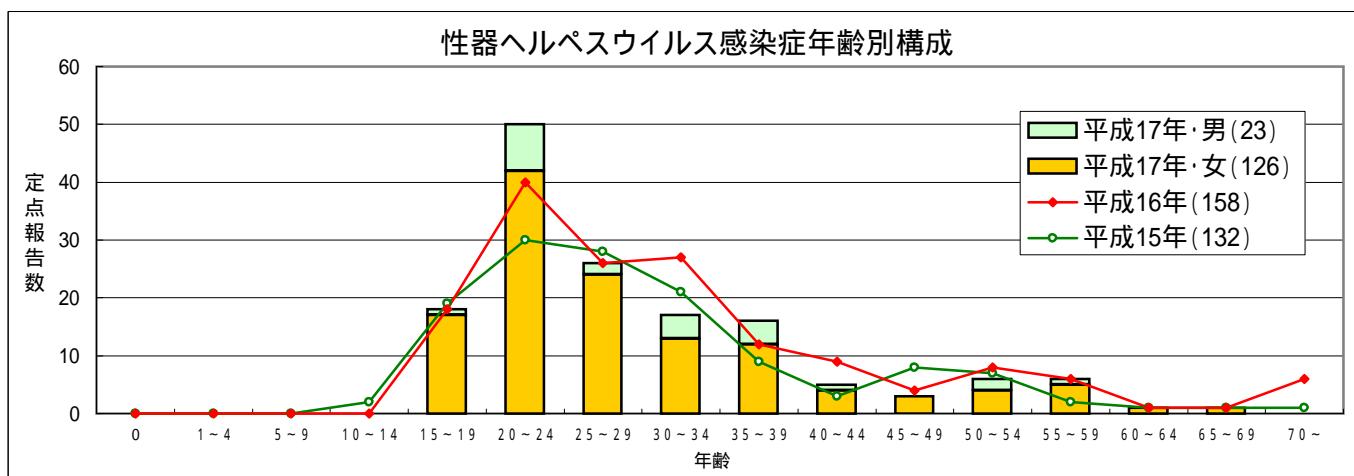
(16 STD定点)

定点からの年間報告数は149例(男23例、女126例)あり、20～29歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

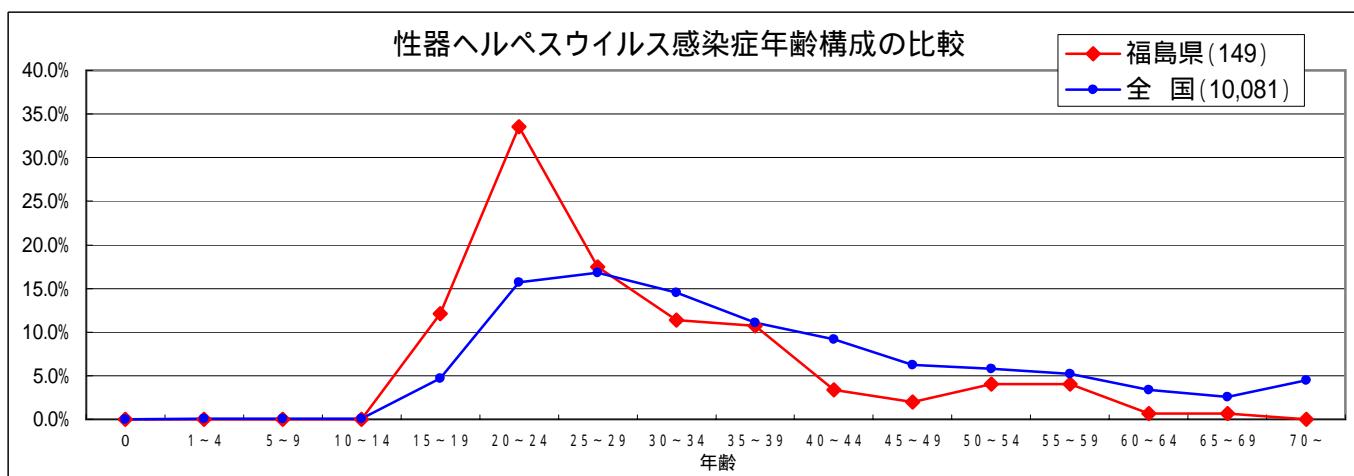


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年・男(23)	1	1	1	1	3	0	3	6	0	1	3	3	23
平成17年・女(126)	8	7	14	16	8	6	13	13	11	15	8	7	126
平成17年(149)	9	8	15	17	11	6	16	19	11	16	11	10	149
平成16年(158)	7	13	6	19	19	10	20	13	12	15	13	11	158
平成15年(132)	4	7	3	17	17	5	8	18	21	8	8	16	132

### 平成15～17年 県内の年齢別構成



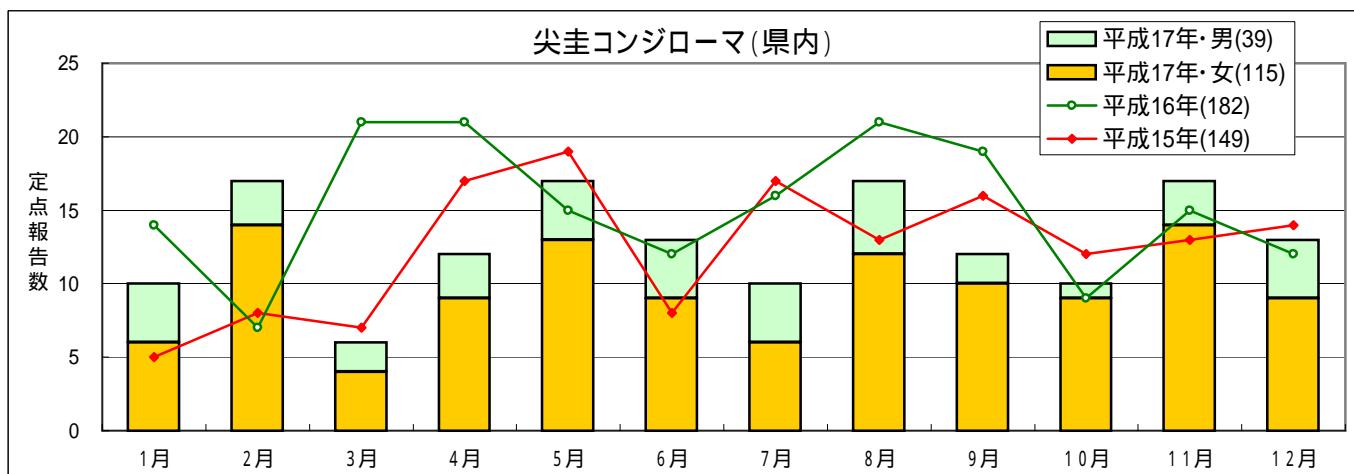
### 平成17年 年齢構成の比較



## (77) 尖圭コンジローマ

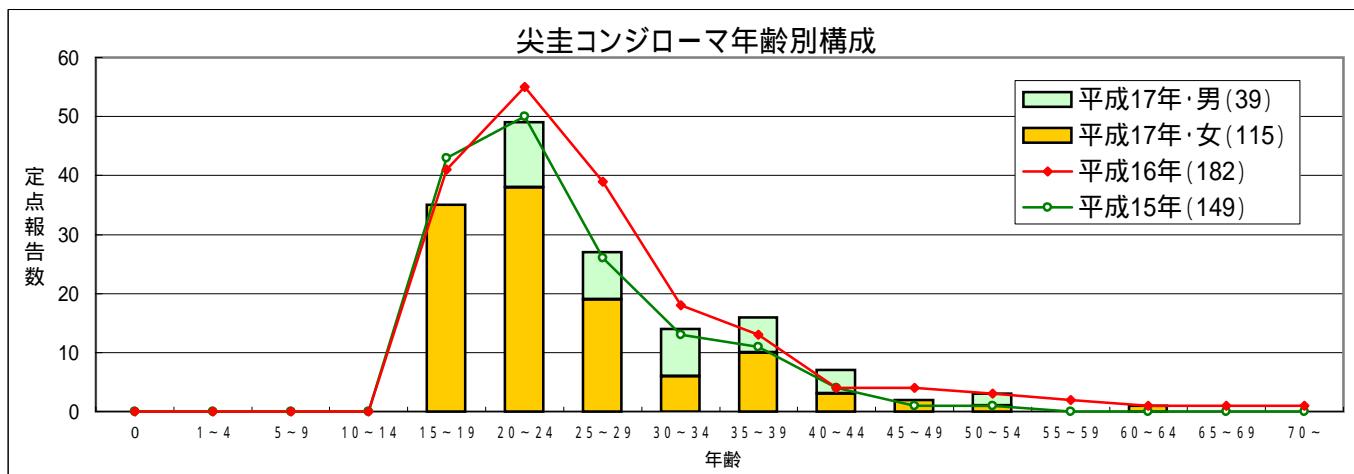
(16 STD 定点)

定点からの年間報告数は154例(男39例、115例)あり、15～29歳の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、15～24歳の感染者の占める割合が高かった。

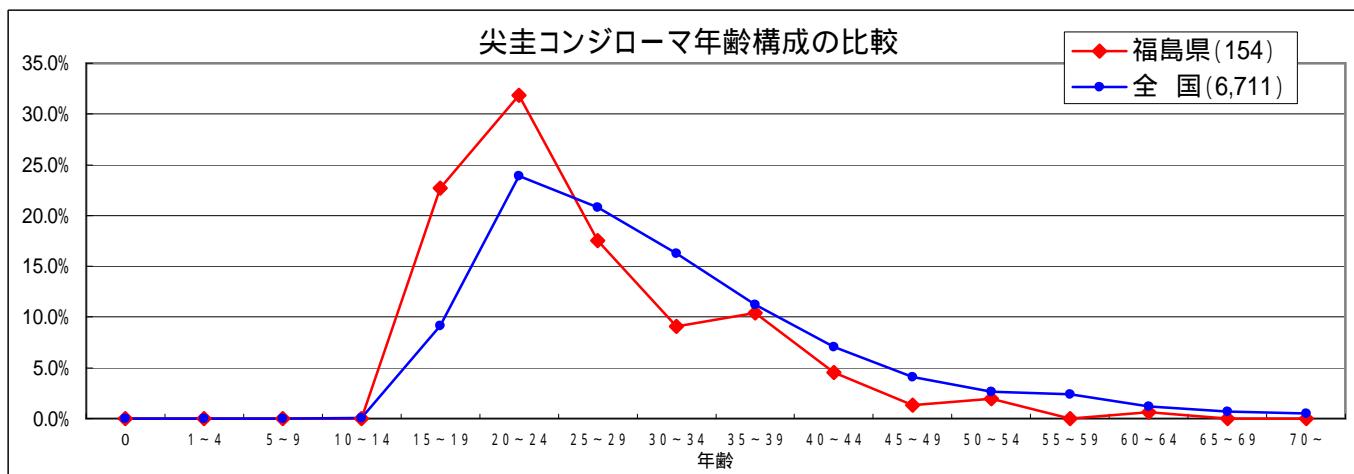


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年・男(39)	4	3	2	3	4	4	4	5	2	1	3	4	39
平成17年・女(115)	6	14	4	9	13	9	6	12	10	9	14	9	115
平成17年(154)	10	17	6	12	17	13	10	17	12	10	17	13	154
平成16年(182)	14	7	21	21	15	12	16	21	19	9	15	12	182
平成15年(149)	5	8	7	17	19	8	17	13	16	12	13	14	149

### 平成15～17年 県内の年齢別構成



### 平成17年 年齢構成の比較

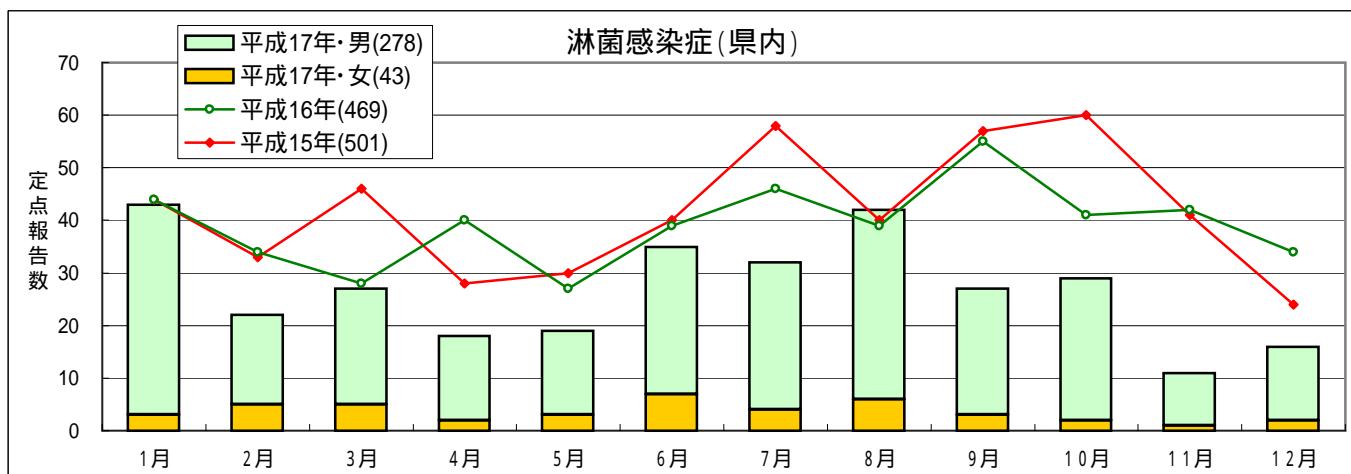


## (78) 淋菌感染症

(16 STD定点)

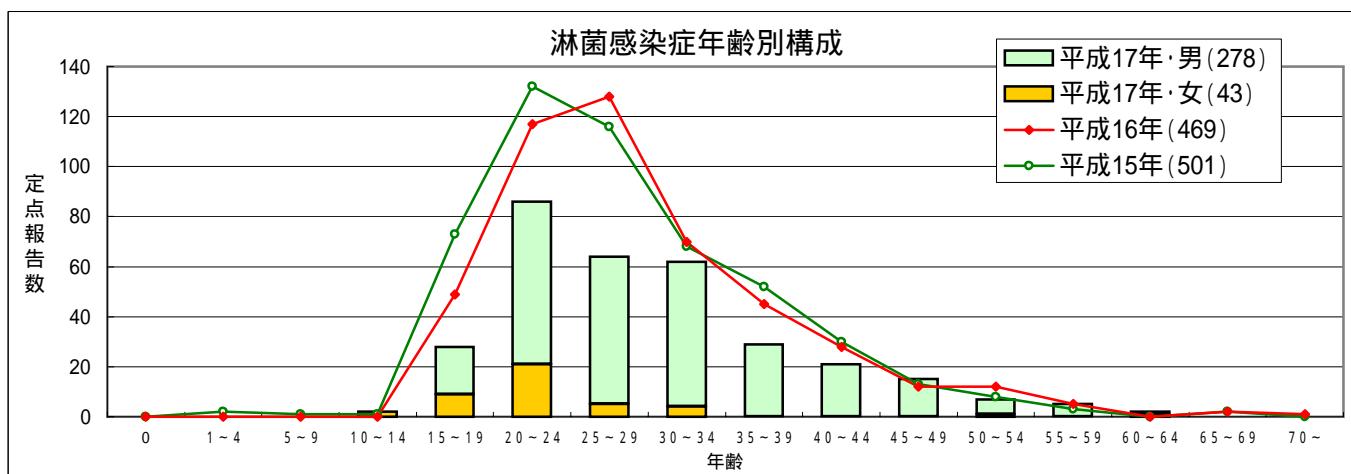
定点からの年間報告数は321例(男278例、女43例)あり、20～34歳の報告が多かった。

また、年齢構成の全国との比較では、20～24歳、30～34歳の感染者の占める割合が高かった。

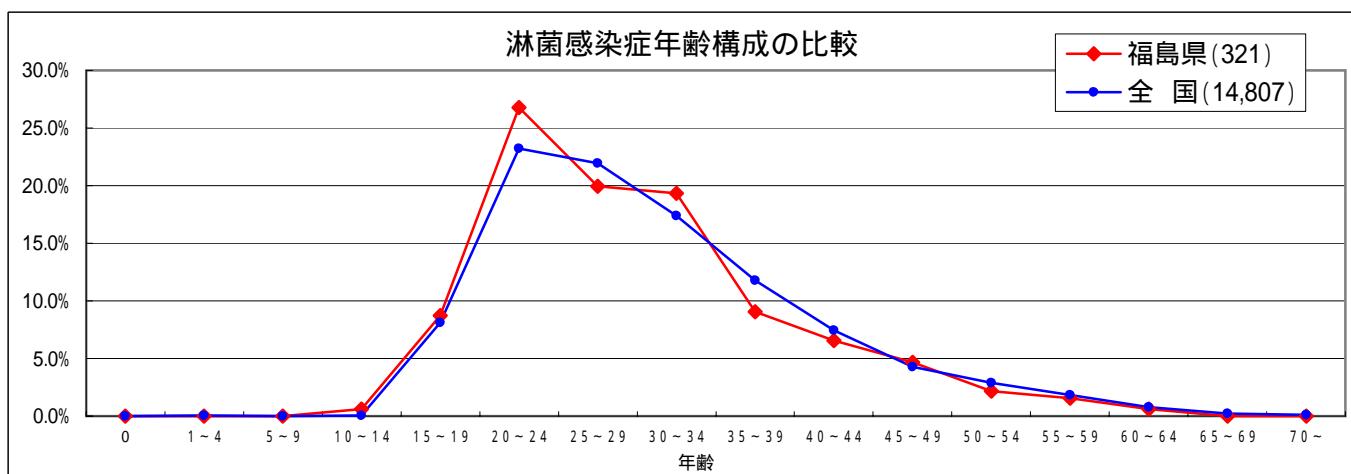


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年・男(278)	40	17	22	16	16	28	28	36	24	27	10	14	278
平成17年・女(43)	3	5	5	2	3	7	4	6	3	2	1	2	43
平成17年(321)	43	22	27	18	19	35	32	42	27	29	11	16	321
平成16年(469)	44	34	28	40	27	39	46	39	55	41	42	34	469
平成15年(501)	44	33	46	28	30	40	58	40	57	60	41	24	501

### 平成15～17年 県内の年齢別構成



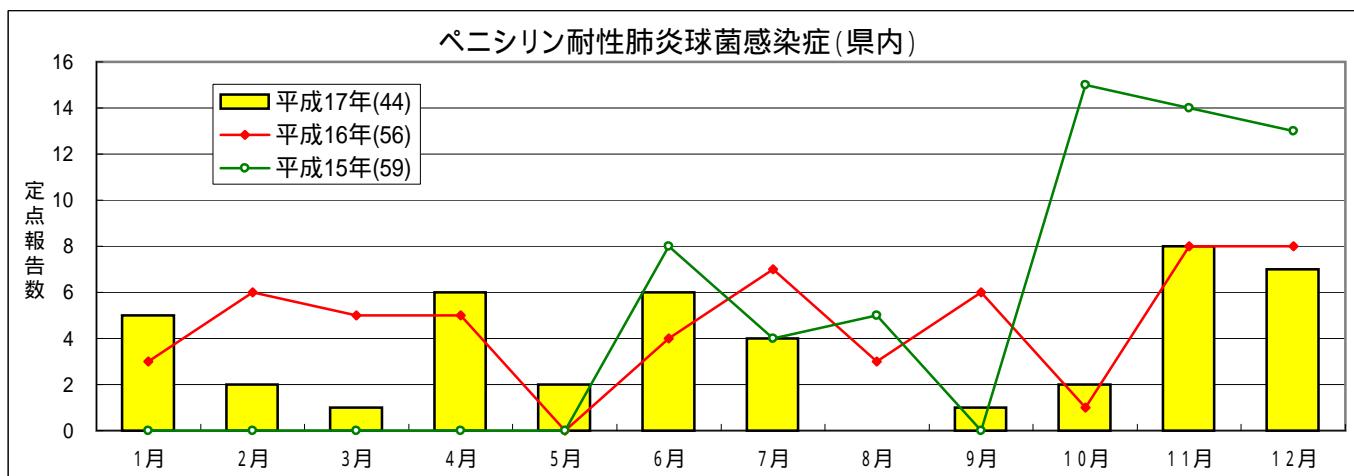
### 平成17年 年齢構成の比較



## (81)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

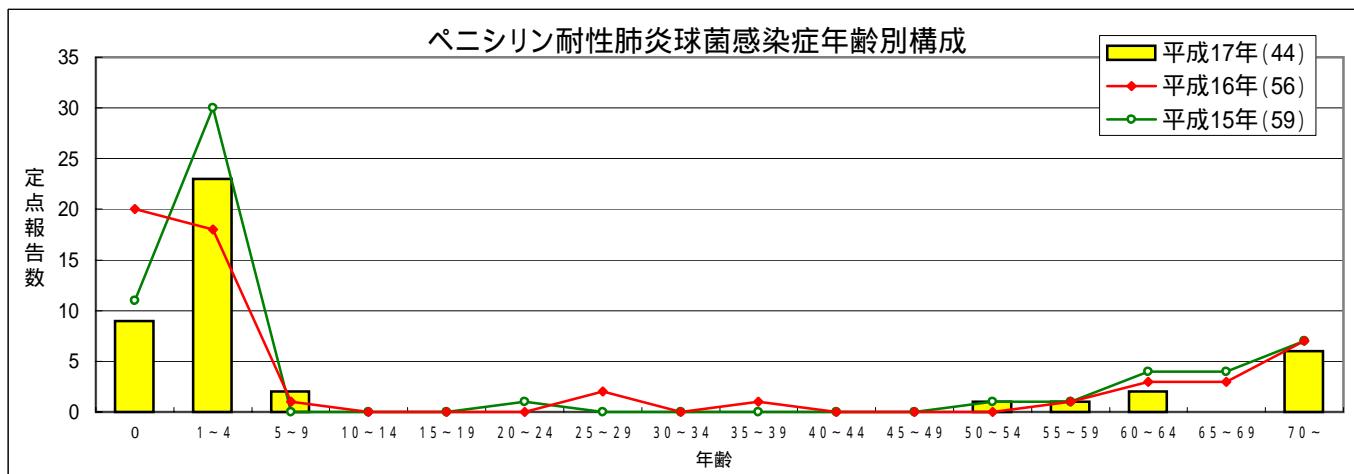
(7基幹定点)

定点からの年間報告数は44例あり、0～4歳、70歳以上の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成であった。

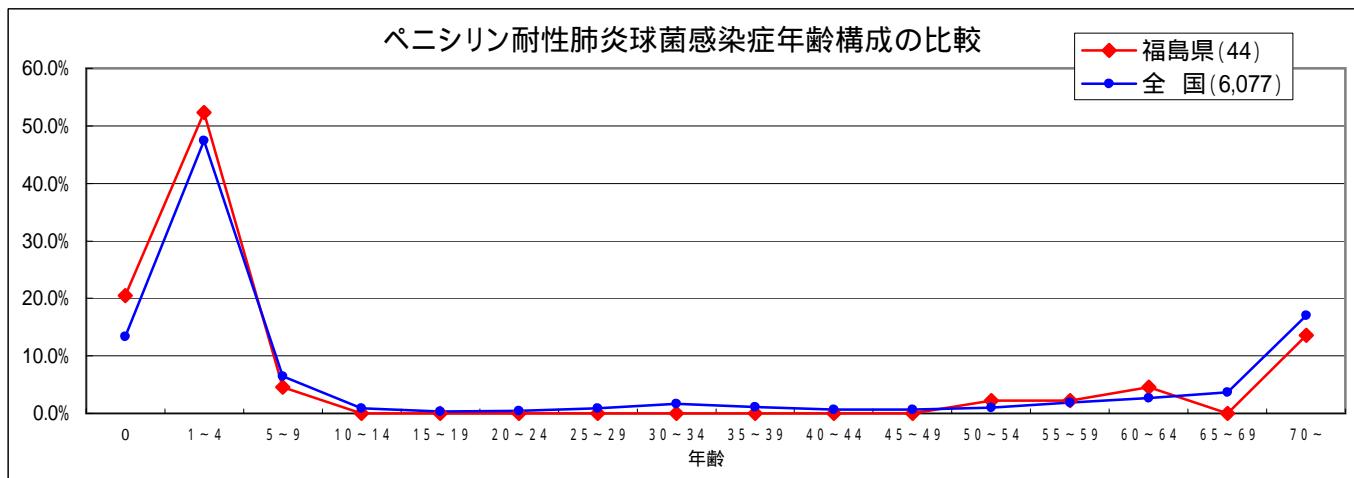


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年(44)	5	2	1	6	2	6	4	0	1	2	8	7	44
平成16年(56)	3	6	5	5	0	4	7	3	6	1	8	8	56
平成15年(59)	0	0	0	0	0	8	4	5	0	15	14	13	59

### 平成15～17年 県内の年齢別構成

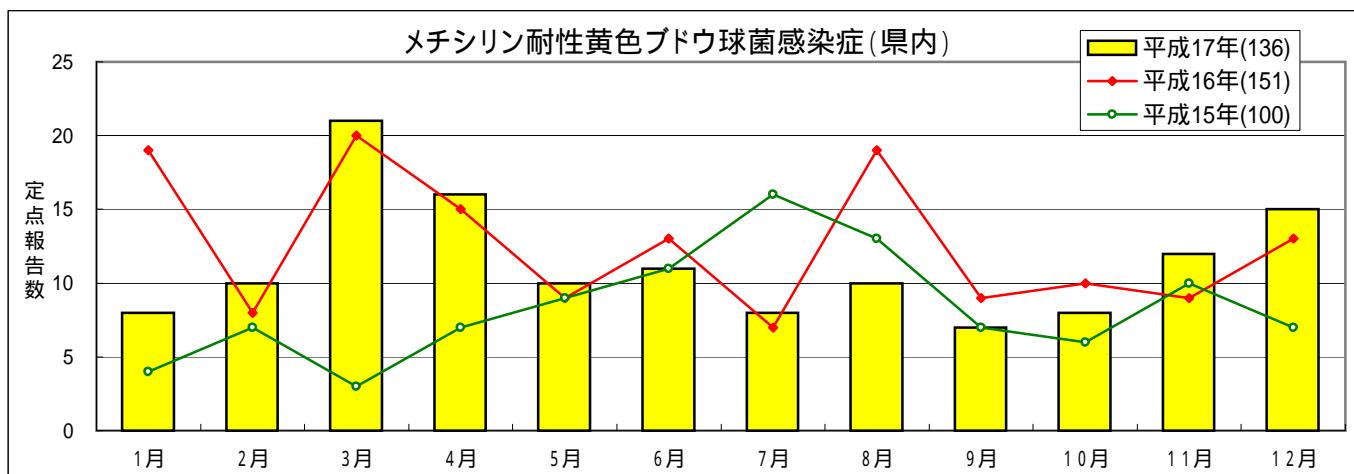


### 平成17年 年齢構成の比較



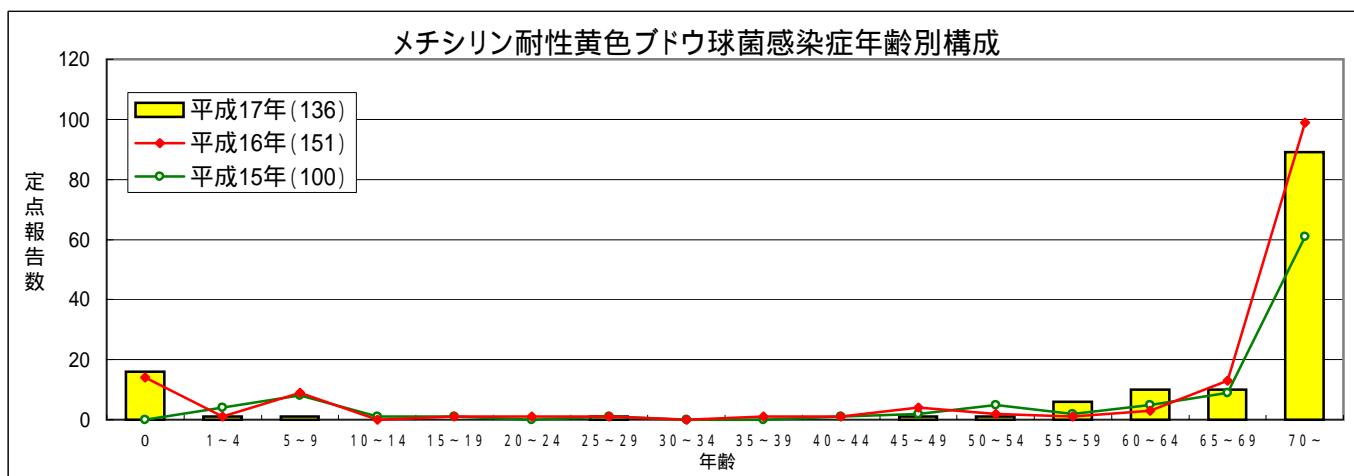
## (85) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (7基幹定点)

定点からの年間報告数は136例あり、70歳以上の報告が多かった。  
また、年齢構成の全国との比較では、全国と同様の年齢構成であった。

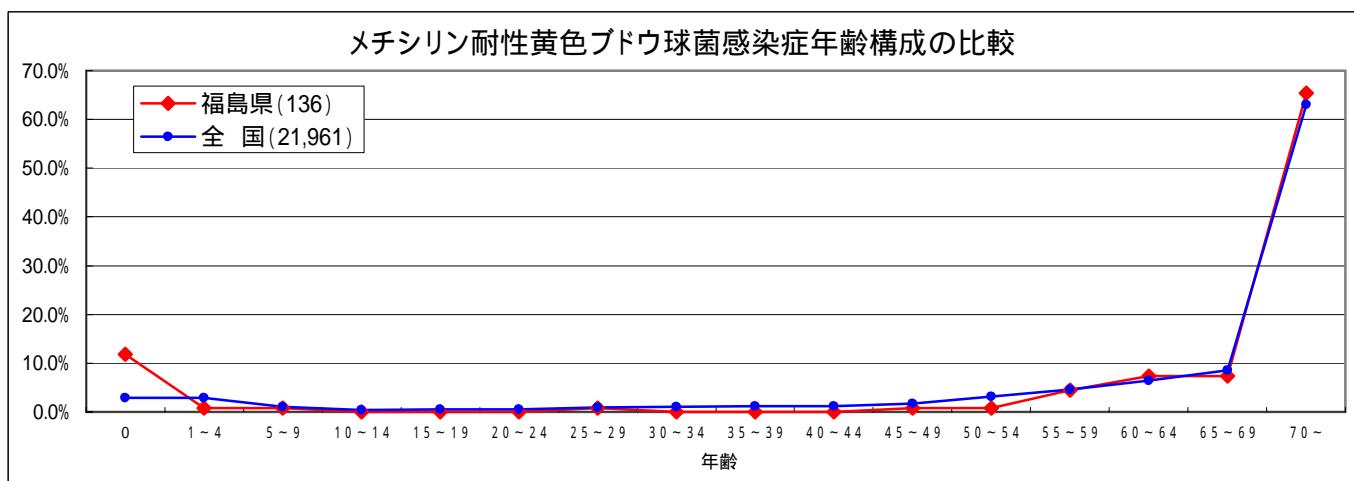


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年(136)	8	10	21	16	10	11	8	10	7	8	12	15	136
平成16年(151)	19	8	20	15	9	13	7	19	9	10	9	13	151
平成15年(100)	4	7	3	7	9	11	16	13	7	6	10	7	100

### 平成15～17年 県内の年齢別構成



### 平成17年 年齢構成の比較



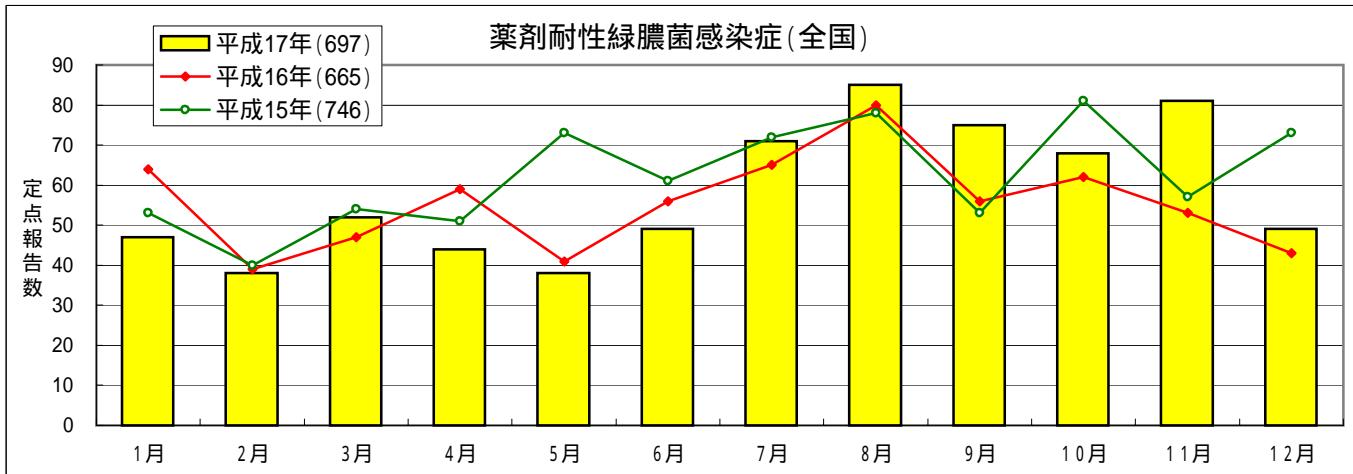
## (86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

(7基幹定点)

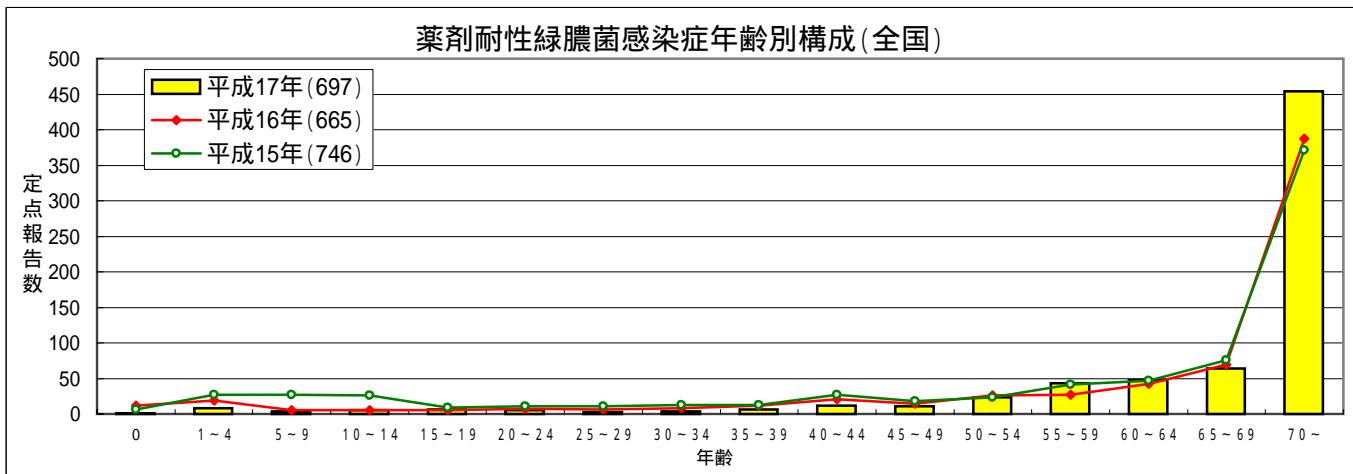
定点からの年間報告数は7例であった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
平成17年(7)	0	1	0	0	0	0	1	4	0	0	1	0	7
平成16年(3)	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3
平成15年(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

## 全国の薬剤耐性緑膿菌感染症



## 平成17年 全国の年齢別構成



## 検査情報

- (1) 平成17年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）
- (2) 平成17年感染症発生動向調査事業報告（細菌）
- (3) 2004/2005シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況

# 平成 17 年感染症発生動向調査事業報告（ウイルス）

福島県衛生研究所 微生物グループ ウィルス

## はじめに

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療のに関する法律に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症動向調査を行っている。本報では平成 17 年のウイルス検索結果について報告する。

## 材 料

平成 17 年 1 月から 12 月までの間に、県内の基幹定点 7 機関、インフルエンザ定点 8 機関、小児科定点 5 機関、眼科定点 1 機関より採取された 1,310 症例由来の咽頭拭い液、便、膿液、眼瞼拭い液等、計 1,522 件を検体とした。

## 方 法

RD-18S, HEp-2, Vero, LLCMK2, MDCK, B95a の 6 種類の細胞を用いてウイルス分離を実施した。検体が便の場合には、ラテックス凝集反応によるアデノ・ロタウイルスの検出も併せて行った。分離ウイルスの同定には、中和試験、赤血球凝集抑制試験、赤血球吸着試験、蛍光抗体法、電子顕微鏡法、RT-PCR 法及びダイレクトシーケンス法を用いた。

## 結果及び考察

### 1 保健所毎受付検体症例数

各保健所の月毎の受付検体症例数を表 1 に示した。年間を通して、相双保健所からの検体が最も多く、次いで郡山市、県北、いわき市の順であった。依然として県中、会津方面からの検体は少ない。

### 2 検体の種類別分離状況

検体 1,522 件の内、510 症例 522 件の検体から 526 株のウイルスが分離された。1 つの検体から 2 種類のウイルスが分離されたものは 4 件あった。その内、3 件はポリオウイルス 1 型と 2 型が乳児 2 症例から分離されたものであった。診断名が胃腸炎・咽頭炎の 3 歳男児の便検体からは、ノロウイルス G 型とコクサッキーウイルス 3 型が分離された。

分離された検体の種類毎の内訳は、咽頭拭い液 473 件 (89.9%)、便 50 件 (9.5%)、膿液 2 件 (0.4%)、その他 1 件 (0.2%) であった。検査材料別分離率は、咽頭拭い液 41.1%，糞便 17.4%，膿液 3.6% で受付件数が最も多い咽頭拭い液が分離率も最も高かった（表 2）。

表 2 検査材料別 受付検体数・分離件数

	咽頭	糞便	膿液	眼瞼	その他	計
受付件数	1150	288	56	19	9	1522
分離件数	473	50	2	0	1	526
分離率	41.1%	17.4%	3.6%	0%	11.1%	34.6%

表 1 採取月別地区別受付検体症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
県北	23	56	38	8	8	12	10	4	10	5	14	14	202
県中	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
県南	3	2	3	5	12	12	19	17	3	10	10	3	99
会津	0	0	0	0	3	7	1	1	1	2	0	1	16
南会津	1	7	1	0	0	0	3	0	0	0	1	1	14
相双	28	89	68	53	21	26	31	48	38	17	23	43	485
郡山市	30	22	37	12	18	17	34	31	23	18	20	32	294
いわき市	35	50	19	12	24	5	8	8	5	1	9	20	196
計	120	226	167	90	86	79	106	109	80	53	77	117	1310

1つの症例で複数の検体からウイルスが分離されたのは、12例あった。インフルエンザ1症例で、咽頭拭い液と気管吸引液から分離された以外は咽頭拭い液と便からで、全て同一ウイルスが分離同定された。

#### 3 月別分離状況

月別ウイルス分離状況を表3に示した。搬入検体は、2月の226症例248件を最高に1ヶ月平均109症例127件であった。ウイルス分離は、インフルエンザウイルスが多く分離される2月が最も多く、144症例(63.7%)、145株(58.5%)であった(図1)。9月は、エンテロウイルスが多く分離されたため分離率が高くなかった。

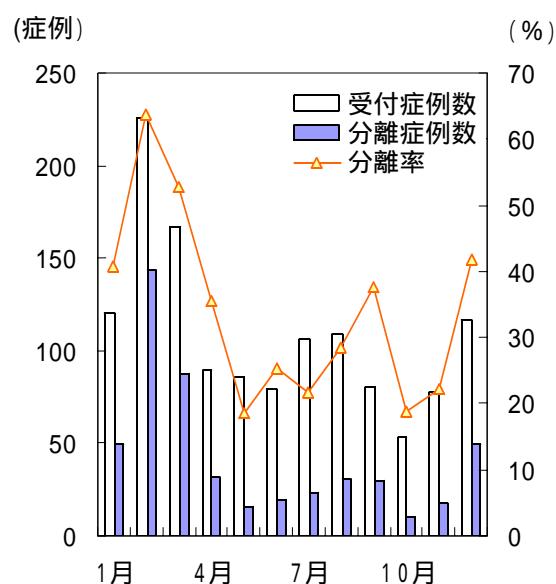


図1 月別受付検体・ウイルス分離症例数

#### 4 ウイルス別分離状況

最も分離数の多いインフルエンザウイルスについて2004/2005シーズンは、11月10日採取の県中地区の7歳女児の咽頭拭い液からA(H1)型が分離されたのを皮切りに流行が始まった。その後A(H1)型は、11月に5株、12月に3株分離された後4月に1株分離されただけで終わった(図2)。A(H3)型は、1月に入って28株分離があり、2月の64株をピークとして6月まで129株分離された。B型は、1月に12株分離された後、2月の72株をピークとして5月まで156株分離された。分離数は、インフルエンザウイルス全体で前年シ

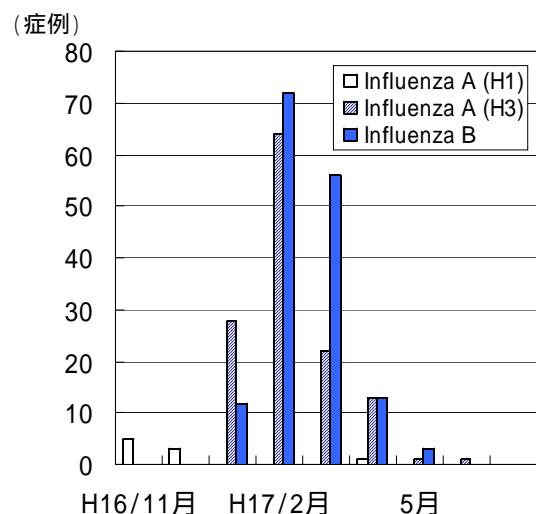


図2 インフルエンザウイルスの分離状況

ーズンより約3割多く、過去5年間で最も分離数の多かった前年シーズン並みの分離数であった<sup>1)</sup>。また、前年シーズンがA(H3)型主流の流行であった<sup>2)</sup>のに対し、B型を主流としたA(H3)型とA(H1)型の3種類の混合流行であった。これは、全国の状況と同様<sup>3)</sup>であった。

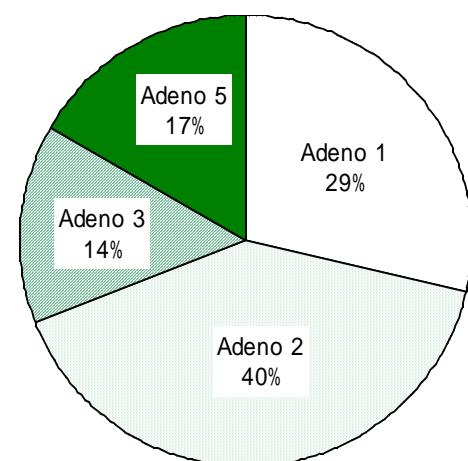


図3 分離アデノウイルス内訳(42症例)

アデノウイルスは、全体で、42症例45株確認された。内訳を図3に示した。今年最も分離株数が多かったのはアデノ2型で、17症例17株、年間を通して分離された。診断名は、上気道炎がほとんどであった(表4)。アデノ1型は、年間で12症例14株分離され、ほとんどが上気道炎の患児からであったが、

月に相双地区の咽頭結膜熱の乳児から分離があつた。

エンテロウイルスは、全体で、111症例 121株分離された。今年は、コクサッキーウィルス A16型とエコーウィルス 16型が、ともに35症例と最も多く分離され、全体の31%ずつを占めた。(図4)前年多く分離されたエコーウィルス30型の分離はなかった。

コクサッキーウィルス A16型は、前年10月以降から分離があり、今年の動向が注目されていたが、前年から引き続き1月に5株、2月に1株分離があり、その後5月～9月の手足口病の流行時期に合計31株の分離があり、今年の分離ウィルスの中心の一つになった。気管支炎患児1株以外は、全て手足口病の患児からの分離であった。その気管支炎の患児の検体は、8月に相双地区で採取されたものであったが、当該時期の当該地区では手足口病が今年の流行のピークを迎えており<sup>4)</sup>、その影響と思われる。

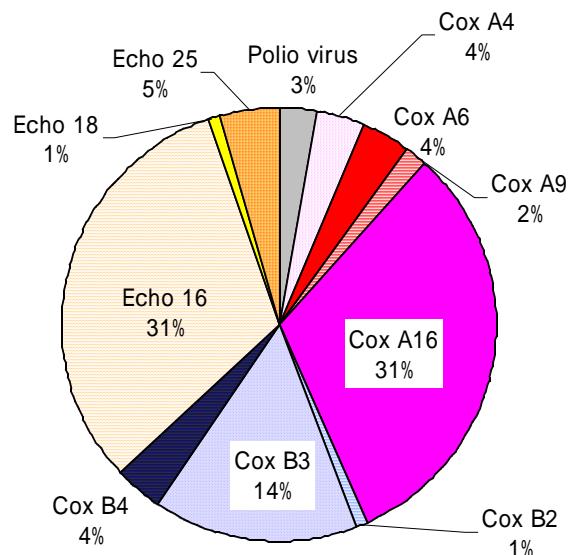


図4 分離エンテロウイルス内訳(111症例)

その他のコクサッキーA群ウイルスは、4型、6型、9型が分離された。4型は、7月に浜通りのヘルパンギーナの患児3名から分離された。6型は、全国的には今年最も多く分離されたエンテロウイルス<sup>5)6)</sup>であったが、本県では、4株の分離にとどまった。臨床症状は、口内炎、上気道炎、熱性痙攣、胃腸炎

など多様であった。9型は、10月に郡山市の髄膜炎疑い患児の髄液からと、11月に郡山市の上気道炎患児の咽頭拭い液から分離された。

コクサッキーB群ウイルスは、2型、3型、4型の3種類が分離された。今年は、3型が17症例20株で最も多く分離された。これは、全国と同じ状況であった<sup>5)</sup>。分離時期は、7月をピークとして2月から11月まであった。症状はほとんど上気道炎だったが、胃腸炎を伴ったものが2症例、熱性痙攣まで至ったものが2症例あり、7月にはヘルパンギーナの乳児1症例と無菌性髄膜炎の乳児2症例からの分離があった。2型1症例、4型4症例は、いずれも上気道炎の患児からの分離だった。

エコーウィルスは、16型、18型、25型の3種類が分離された。中でも、16型が35症例35株と最も多く分離され、今年の分離ウイルスの中心の一つになった。16型は、本県においては平成に入ってから、平成4年に17株<sup>7)</sup>、平成5年に14株分離されて<sup>8)</sup>以来分離が無く、12年ぶりの分離であった。時期は6月から9月の夏季のみで、郡山市、相双地区を中心に県北、県南、会津地区と県内全域から分離があった。診断名は、上気道炎が半数以上を占めたが、他に発疹症、髄膜炎、口内炎、熱性痙攣、ヘルパンギーナ、胃腸炎等多岐にわたった(表4)。18型は、11月に相双地区の上気道炎と発疹症の乳児1名の咽頭拭い液と便から分離された。25型は、8月と9月に浜通り地区の患児から分離されたが、診断名は熱性痙攣、手足口病、胃腸炎、上気道炎、口内炎と様々であった。

ポリオウイルスは、春と秋の定期集団予防接種後の時期、相双地区の乳児から3症例7株が分離された。これらは全てワクチン接種後の分離で、ワクチン由来株であると思われる。

その他のウイルスについて、麻疹ウイルスは、今年は患者報告が4名のみ<sup>9)</sup>で、当所感染症情報センターから週報で検体提供をお願いしたが、1件も搬入がなかった。単純ヘルペスウイルスは1型が、1、8月に合計3症例3株分離された。ロタウイルスは、10月を除いて搬入のあった生便検体合計36件に

ついて検査を行ったが、2月から5月と11月、12月に郡山市周辺の胃腸炎症状の0～9歳児14名とその母親1名から検出された。

また、平成18年1月受付の生便とノロウイルス感染疑いと記載のあった便拭い液についてRT-PCR法による検査を行った。その結果、12月採取の生便検体5件中3件からと、便拭い液4件中11月採取の1件からノロウイルスG型が確認された。いずれも感染性胃腸炎が流行していた相双地区の胃腸炎患儿からのものであった。

### 5 診断名別分離状況

診断名別、受付検体症例数及びウイルス分離症例数を、表4に示した。

受付検体症例数が最も多かったのはインフルエンザで、365症例あり、内300症例からウイルスが分離され、82.2%と高い分離率であった。2004/2005シーズンは、全国でも本県においても過去10シーズンで最も患者報告数が多く、これを反映して受付検体数の割合も最も多く<sup>1)2)3)</sup>、また分離率も高かった。分離ウイルスは、アデノウイルス2型1株以外は全てインフルエンザウイルスであった。

2番目に受付検体症例数が多かった上気道炎の検体では、331症例中90症例からウイルスが分離された(分離率27.2%)。内訳は、アデノウイルス、コクサッキーA群及びB群ウイルス、エコーウイルス、インフルエンザウイルスと多岐に渡った。その中で最も多かったのは、エコーウイルス16型の19症例(21.1%)で、次いでアデノウイルス2型の14症例(15.6%)、インフルエンザウイルスB型の12症例(13.3%)、コクサッキーウイルスB3型の10症例(11.1%)の順であった。

3番目に受付検体症例数が多かった胃腸炎の検体からは、151症例中30症例でウイルスが分離された(分離率18.5%)。内訳は、ロタウイルス、ノロウイルス、エコーウイルス、ポリオウイルス、アデノウイルス、コクサッキーA群及びB群ウイルス、インフルエンザウイルスA(H3)型と様々であった。その中で最も多かったのは、ロタウイルスで16症例(55.2%)で、次いでノロウイルスが4症例(13.8%)であった。

下気道炎の検体からは、139症例中13症

例からウイルスが分離された(分離率9.4%)。内訳は、インフルエンザウイルスB型が5症例(38.5%)、インフルエンザウイルスA(H3)型3症例(23.1%)、アデノウイルス3型2症例(15.4%)等であった。

手足口病について、前年は、流行が小さかった<sup>10)</sup>が、今年は、1月に郡山市で小流行があった後、5月下旬から中通りといわき市で流行が始まり、県全体として6月下旬から7月上旬にピークを迎えた<sup>11)</sup>。相双地区では遅れて7月下旬から流行が始まり、8月上旬がピークとなった<sup>4)</sup>。検体は、60症例受付された内、分離は37症例で、61.7%と高い分離率であった。分離ウイルスは、コクサッキーウイルスA16型が34症例(91.1%)とほとんどを占めたが、他にエコーウイルス16型、25型、単純ヘルペス1型が各1例あった。コクサッキーウイルスA16型中心の中規模の流行であったのは、全国的にも同じ傾向であった<sup>12)</sup>。

髄膜炎は、今年流行がほとんど無く、受付検体も26症例と少なく分離は5症例であった(分離率19.2%)。分離ウイルスは、前年、大量に分離されたエコーウイルス30型は1株も無く、エコーウイルス16型とコクサッキーウイルスB3型が2症例、コクサッキーウイルスA9型が1症例分離されたのみであった。

ヘルパンギーナについても、患者報告が前年同様少なく、受付検体も25症例でその内5症例からウイルスが分離された。分離ウイルスは、コクサッキーウイルスA4型が3症例、エコーウイルス16型とコクサッキーウイルスB3型が各1症例であった。

### まとめ

- 1 インフルエンザは、過去10年で最大の流行だったが、分離ウイルスはB型を中心としたA(H3)型とA(H1)型の3種類の混合であった。
- 2 手足口病は、コクサッキーウイルスA16型を中心とした流行であった。
- 3 エコーウイルス16型が、本県では平成5年以来12年ぶりに分離があり、35症例35株とコクサッキーウイルスA16型と並ん

でエンテロウイルスでは今年最も多く分離されたウイルスであった。

### 謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

### 引用文献

- 1)亘理智子,菅野正彦,水澤丈子,他.2002/2003シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況.福島県衛生研究所年報.2003;20:55-63.
- 2)亘理智子,水澤丈子,慶野昌明他.2003/2004シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況.福島県衛生研究所年報.2004;21:71-77.
- 3)国立感染症研究所.<特集>インフルエンザ 2004/2005 シーズン.病原微生物検出情報.2005;26:287-288.
- 4)福島県衛生研究所.福島県感染症発生動向調査週報 2005年第34週.2005;6.
- 5)国立感染症研究所 感染症情報センター  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/virus/graph/ev-1a.html>  
2006/1/31
- 6)国立感染症研究所 感染症情報センター  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/virus/graph/ev-2a.html>  
2006/1/31
- 7)横山博子,鈴木サヨ子,水澤丈子他.平成4年結核・感染症サーベイランス事業調査報告(ウイルス).福島県衛生研究所年報.1994;10:79-84.
- 8)水澤丈子,横山博子,鈴木サヨ子他.平成5年結核・感染症サーベイランス事業調査報告(ウイルス).福島県衛生研究所年報.1995;11:77-84.
- 9)福島県衛生研究所.福島県感染症発生動向調査週報 2006年第1週.2006;9.
- 10)福島県衛生研究所.福島県感染症発生動向調査週報 2005年第1週.2005;6.
- 11)福島県衛生研究所.福島県感染症発生動向調査週報 2005年第31週.2006;6.
- 12)国立感染症研究所 感染症情報センター  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/circle-g/hfm/hfm.html> 2006/1/31

表3 月別ウイルス分離状況(平成17年1月～12月)

平成18年2月6日現在

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	症例数 (株数)												
Adeno virus 1		1 (2)	1 (1)	1 (1)	3 (4)	4 (4)		1 (1)	1 (1)				12 (14)
Adeno virus 2	1 (1)	2 (2)	2 (2)		2 (2)	1 (1)	2 (2)		1 (1)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	17 (17)
Adeno virus 3							3 (3)		1 (1)	1 (1)	1 (1)		6 (6)
Adeno virus 5	1 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)			1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (2)	7 (8)
Polio virus					1 (4)					1 (2)	1 (1)		3 (7)
Cox virus A4		1 (1)					3 (3)						4 (4)
Cox virus A6			1 (1)			2 (2)	1 (1)						4 (4)
Cox virus A9					1 (1)				1 (1)	1 (1)			2 (2)
Cox virus A16	5 (5)	1 (1)			1 (1)	7 (7)	4 (4)	13 (13)	4 (6)				35 (37)
Cox virus B2									1 (1)				1 (1)
Cox virus B3			1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	2 (2)	3 (4)	1 (1)	2 (4)		17 (20)
Cox virus B4									1 (1)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	4 (4)
Echo virus 16						2 (2)	6 (6)	12 (12)	15 (15)				35 (35)
Echo virus 18									2 (2)		1 (2)		1 (2)
Echo virus 25									3 (3)				5 (5)
Influenza virus A (H1)				1 (1)									1 (1)
Influenza virus A (H3)	28 (28)	64 (64)	22 (22)	13 (13)	1 (1)	1 (1)					5 (5)	39 (40)	173 (174)
Influenza virus B	12 (12)	72 (72)	56 (56)	13 (13)	3 (3)								156 (156)
Herpes simplex virus 1	2 (2)							1 (1)					3 (3)
Noro virus G											1 (1)	3 (3)	4 (4)
Rota dry (+)		3 (3)	6 (6)	1 (1)	3 (3)						2 (2)	15 (15)	
未同定									1 (2)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	6 (7)
分離症例数 (株数)	49 (49)	144 (145)	88 (88)	32 (32)	16 (20)	20 (20)	23 (23)	31 (31)	30 (34)	10 (11)	19 (22)	49 (51)	511 (526)
症例数 (検体数)	120 (132)	226 (248)	167 (185)	90 (107)	86 (115)	79 (94)	106 (122)	109 (128)	80 (104)	53 (56)	77 (97)	117 (134)	1310 (1522)
分離率 (%)	40.8 (37.1)	63.7 (58.5)	52.7 (47.6)	35.6 (29.9)	18.6 (17.4)	25.3 (21.3)	21.7 (18.9)	28.4 (24.2)	37.5 (32.7)	18.9 (19.6)	24.7 (22.7)	41.9 (38.1)	39.0 (34.6)

表4 診断名別分離ウイルスおよび分離率

平成18年2月6日現在

	インフル エンザ*	上気道 炎	胃腸炎	下気道 炎	手足 口病	髄膜 炎	発疹 症	ヘルパン ギーナ	口内 炎	熱性 痙攣	結膜 炎等	その 他	計
Adeno virus 1		9								2	1		12
Adeno virus 2	1	14		1						1			17
Adeno virus 3		4		2									6
Adeno virus 5		4	1							2			7
Polio virus			2	1									3
Cox virus A4				1									4
Cox virus A6				1									4
Cox virus A9			1			1							2
Cox virus A16				1	34								35
Cox virus B2			1										1
Cox virus B3			10	2			2		1	2			17
Cox virus B4			4					1					4
Echo virus 16		19	1		1	2	4	1	2	2		3	35
Echo virus 18		1											1
Echo virus 25		1	1		1				1	1			5
Influenza virus A (H1)	1												1
Influenza virus A (H3)	163	6	1	3									173
Influenza virus B	135	12		5					1	2		1	156
Herpes simplex virus 1					1				2				3
Noro virus G				4									4
Rota dry (+)				16									16
未同定		4	1										5
分離 症例数 (%)	300 (58.7)	90 (17.6)	30 (5.9)	13 (2.5)	37 (7.2)	5 (1.0)	4 (0.8)	5 (1.0)	7 (1.4)	15 (2.9)	1 (0.2)	4 (0.8)	511 (100)
受付検体症例数 (%)	365 (27.9)	331 (25.3)	151 (11.5)	139 (10.6)	60 (4.6)	26 (2.0)	26 (2.0)	25 (1.9)	17 (1.3)	62 (4.7)	28 (2.1)	80 (6.1)	1310 (100)
分離率 (%)	82.2	27.2	18.5	9.4	61.7	19.2	15.4	20.0	41.2	24.2	3.6	5.0	38.9

# 平成 17 年感染症発生動向調査事業報告（細菌）

## 福島県衛生研究所 微生物グループ 細菌

### はじめに

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、県内の感染症発生の治療、予防に役立つ情報の提供を目的として、毎年対象病原体について感染症発生動向調査を行っている。本報では 2005 年の細菌検索結果について報告する。

### 方 法

#### 1 細菌分離

A 群溶血性レンサ球菌（以下、A 群溶レン菌）、細菌性膿膜炎起因菌、百日咳菌、感染性胃腸炎起因菌等を対象とし、厚生省監修「微生物検査必携・第 3 版」に従い検索した。

#### 2 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出

1) 肺炎球菌はペニシリン耐性肺炎球菌遺伝子検出試薬（湧永製薬製）を使用し、構造遺伝子 *LytA*、ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *pbp1a*, *pbp2x*, *pbp2b*、マクロライド耐性に関わる遺伝子 *mefA*, *ermB* を検索した。*pbp* 変異のない場合をペニシリン感受性肺炎球菌（以下“PSSP”）、1, 2 種類の *pbp* 変異をペニシリン中等度耐性肺炎球菌（以下“PISP”）、3 種類の *pbp* 変異をペニシリン耐性肺炎球菌（以下“PRSP”）とする。

2) インフルエンザ菌はインフルエンザ菌遺伝子検出試薬（湧永製薬製）を使用し、構造遺伝子 P6, TEM 型  $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子 TEM、ペニシリン結合蛋白をコードする遺伝子 *fts* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* を検索した。TEM 遺伝子陰性で、*pbp* 変異のない場合を  $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌（以下“BLNAS”）、*pbp3-1* のみ変異を  $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌（以下“軽度 BLNAR”）、*pbp3-2* 変異を  $\beta$ -ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌（以下“BLNAR”）とする。さらに、TEM 遺伝子陽性で *pbp* 変異のない場合を  $\beta$ -ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌（以下“BLPAR”）、*pbp3-1* 変異を  $\beta$ -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン／クラブラン酸耐性- インフルエンザ菌（以下“BLPACR-”）とし、*pbp3-2* 変異を  $\beta$ -ラクタマーゼ陽性アモキシシリン／クラブラン酸耐性- インフルエンザ菌（以下“BLPACR-”）とする。

3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤感受性試験は、微量液体希釈法による MIC の測定を行った。判定は Clinical and Laboratory Standards Institute ( CLSI ) に従い、肺炎球菌は penicillinG ( PCG ) 0.06 $\mu$ g/mL 以下を PSSP、

表 1 月別・検体材料別検体数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
咽頭・扁桃拭い液	17	23	11	8	11	2	4	3	3	6	14	31	133
スワブ（再掲）	15	21	8	6	10	2	2	3	2	6	14	31	120
菌株（再掲）	2	2	3	2	1		2		1				13
後鼻腔拭い液 菌株	24	24	29	39	11	25	14	17	29	9	22	20	263
糞便・直腸拭い液	8	4	8	8	4	12	2	5	9	4	3	5	72
キャリブ'レア（再掲）	3	2	5	4	3	10	1	3	5	4	3	5	48
菌株（再掲）	5	2	3	4	1	2	1	2	4				24
膿液 菌株						1	1			1			3
その他*	2	1				1	1	1		1			7
スワブ（再掲）								1					1
菌株（再掲）	2	1					1		1		1		6
計	51	51	49	55	26	40	22	26	42	19	40	57	478

\*その他：血液2件、陰部尿道頸管擦過物、結膜拭い液、眼脂、耳漏、気管吸引液各1件

0.12 ~ 1 $\mu$ g/mL を PISP, 2 $\mu$ g/mL 以上を PRSP とする。インフルエンザ菌は、 $\beta$ -ラクタマーゼ非産生で ampicillin (ABPC) 1 $\mu$ g/mL 以下を BLNAS, 2 $\mu$ g/mL を軽度 BLNAR, 4 $\mu$ g/mL 以上を BLNAR とし、 $\beta$ -ラクタマーゼ産生を BLPAR とする。なお、MIC 測定は公立相馬総合病院検査科で実施した。

## 材 料

2005年1月から12月まで、県内11定点のうち、協力の得られた7定点医療機関で採取された478件を対象とした。検体の内訳を表1に示す。咽頭・扁桃拭い液133件、後鼻腔拭い液263件、糞便・直腸拭い液72件、髄液3件、血液、陰部尿道頸管擦過物、結膜拭い液等7件で、輸送培地による搬入は169件、菌株による搬入は309件である。

## 結 果

### 1 患者居住地別症例数

表2に示したとおり総検体478件のうち、郡山市と相馬市で394件(82.4%)を占め、地域に偏りが認められる。

表2 居住地別症例数

地域名	症例数	地域名	症例数
福島市	1	相馬市	252
安達郡	3	相馬郡	25
郡山市	142	原町市	1
田村郡	16	双葉郡	1
須賀川市	3	会津若松市	1
岩瀬郡	1	大沼郡	2
石川郡	1	県外	25
白河市	1	不明	2
西白河郡	1	計	478

### 2 検査材料別分離率

輸送培地で搬入した検体について、細菌分離率を表3に示す。咽頭拭い液は86.7%，糞

便・直腸拭い液は35.4%であった。

## 3 細菌分離状況

表4に月別分離状況を示す。

### 1) 溶血性レンサ球菌(以下、溶レン菌)

A群溶レン菌は127株分離した。内124株は気道症状を有する患者の上気道拭い液(咽頭・扁桃96株、後鼻腔28株)由来である。他の3株は劇症型溶血性レンサ球菌感染症(以下、劇症溶レン菌感染症)の血液から2株、外陰部炎の陰部尿道擦過物から1株である。

患者の年齢は、劇症溶レン菌感染症患者64歳、69歳を除くと、0~12歳で、内4~6歳が53.5%を占めた。また、月別では1~5月と11~12月に114株(89.8%)を検出した。

A群溶レン菌の血清型は9種類に型別された(表4)。最も多く分離されたのはT-4型33株(26.0%)、次いでT-1型21株(16.5%)、T-12型20株(15.7%)、T-6型19株(15.0%)、T-3型15株(11.8%)の順であった。なお、劇症溶レン菌感染症患者分離株はT-1型、T-6型であった。

他の溶レン菌は18株分離した。内訳はB群溶レン菌2株、C群溶レン菌2株、G群溶レン菌12株、群抗原不明の*Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* 2株であり、すべて気道感染症患者の咽頭・後鼻腔拭い液由来である。B群溶レン菌の血清型はb型、JM9型各1株であった。G群溶レン菌分離患者の年齢は、0~9歳および33歳であった。

2) 糞便・直腸ぬぐい液からの腸管系病原菌  
腸管系病原菌は41株分離され(表4)、内訳は下痢原性大腸菌36株、サルモネラ4株、カンピロバクター・ジェジュニ1株である。大腸菌の血清型は13種類で、O1が最も多く11株(30.6%)、次いでO126が8株(22.2%)

表3 月別・検査材料別分離率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	分離率(%)
咽頭拭い液(スワブ)	15	21	8	6	10	2	2	3	2	6	14	31	120	
分離数	13	21	3	6	8	1	1	3	1	5	14	28	104	
分離率(%)	87	100	38	100	80	50	50	100	50	83	100	90		86.7
糞便・直腸拭い液(キャリブレー)	3	2	5	4	3	10	1	3	5	4	3	5	48	
分離数	2	2				3			2	4	2	2	17	
分離率(%)	67	0	40	0	0	30	0	0	40	100	67	40		35.4
気管吸引液(スワブ)									1				1	
分離数									1				1	
分離率(%)									100				100.0	

表4 月別細菌分離状況(2005年1~12月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
A群溶レン菌 T-1	4	1	1	1	1			1		2	5	5	21	
A群溶レン菌 T-3			5	4	3	1		1			1	1	15	
A群溶レン菌 T-4	1	5	1	1	2	1		1		1	5	15	33	
A群溶レン菌 T-6	5	5	1	4	1					1	1	2	19	
A群溶レン菌 T-11				1	1					1	1	1	4	
A群溶レン菌 T-12	5	7	2	1	1		1		1		4		20	
A群溶レン菌 T-25		1	1										4	
A群溶レン菌 T-28	1						1				1		3	
A群溶レン菌 T-B3264	1	2	1		1				1		1		6	
A群溶レン菌 T型不明											1		2	
B群溶レン菌 b型		1			1								1	
B群溶レン菌 JM9型													1	
C群溶レン菌	1										1		2	
G群溶レン菌	1	3			1			2	2	1	1	1	12	
群不明 <i>S. equisimilis</i>	1		1										2	
<i>E. coli</i> 01	5		2	1					1	1		1	11	
<i>E. coli</i> 06									1		1		1	
<i>E. coli</i> 08													1	
<i>E. coli</i> 015						1					1		1	
<i>E. coli</i> 018	1							1	1			1	3	
<i>E. coli</i> 026 VT1( + )								1	1				2	
<i>E. coli</i> 086a						1							1	
<i>E. coli</i> 0119				1									1	
<i>E. coli</i> 0126		2	2	2					2				8	
<i>E. coli</i> 0128	1					1			2				3	
<i>E. coli</i> 0146						1							1	
<i>E. coli</i> 0164						1							1	
<i>E. coli</i> 0166			1							1			2	
<i>S. Enteritidis</i>						1							1	
<i>S. Montevideo</i>							1			1			2	
<i>S. Typhimurium</i>							1						1	
<i>C. jejuni</i>										1			1	
<i>S. aureus</i>											1		1	
<i>S. pneumoniae</i>	PSSP		3	7	1	1	1	2		1			9	
	PISP	5	4	5	2	4	3	1	5	3	4		43	
	PRSP	5	6	5	1	6	6	7	8	3	5	6	67	
<i>H. influenzae</i>	BLNAS	11	8	5	4	4	3	3	6	3	4	5	61	
	軽度 BLNAR			2	3	2	2	2	2				13	
	BLNAR		4	4	9	2	8	3	4	2	3	4	45	
	BLPAR			1						4	2		7	
	BLPACR-								1				1	
	BLPACR-							1					1	
計		48	50	42	50	21	32	20	24	39	17	39	52	434

であった。O26の2株は腸管出血性大腸菌で、ベロ毒素1型遺伝子を保有していたが、他の大腸菌には毒素遺伝子は認められなかった。サルモネラの血清型は3種類で、モンテビデオ2株、エンテリティディス、チフィムリウム各1株である。

### 3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌

肺炎球菌は119株分離した。由来は細菌性髄膜炎患者(74歳)の髄液、結膜炎患者(0歳)の眼脂から各1株、他は気道感染症患者の気道(後鼻腔115株、咽頭、気管吸引液各1株)由来で、114名から分離された。8株は3名の重複検出株で、その検出間隔は1~6ヶ月である。

患者の年齢は、細菌性髄膜炎患者(74歳)を除くと、0~10歳で、低年齢の分離割合が高く0~2歳が74.1%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌は128株分離した。由来は細菌性髄膜炎患者(0歳)の髄液、中耳炎患者(47歳)の耳漏、結膜炎患者(1歳)の結膜拭い液から各1株、他は気道感染症患者の気道(後鼻腔111株、咽頭13株、気管吸引液1株)由来で、123名から分離された。10株は5名の重複検出株で、その検出間隔は1~4ヶ月である。

患者の年齢は、中耳炎患者(47歳)を除くと、0~10歳で、低年齢の分離割合が高く0~2歳が71.0%を占め、ピークは1歳であった。

インフルエンザ菌の血清型は、型不明が最も多く95株(74.2%)、次いでd型16株(12.5%)、b型、f型各7株(各5.5%)、c型2株、e型1株であった。なお、細菌性髄膜炎患者髄液からはb型が分離された。

### 2) その他の検出菌

表5 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	pbp変異					計
	変異なし	pbp2x	pbp1a+2x	pbp2x+2b	pbp1a+2x+2b	
P S S P	8	18				26
P I S P		6	8	8	30	52
P R S P				2	37	39
未実施	1			1		2
計	9	24	8	11	67	119

細菌性髄膜炎患者(79歳)の髄液から黄色ブドウ球菌1株が分離された。

### 4 肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

#### 1) 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果とCLSIによる薬剤感受性判定を表5に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白をコードする3種類の遺伝子 $pbp$ の何れかに変異が認められた株は119株中110株(92.4%)であった。その内訳は $pbp2x$ 変異24株、 $pbp1a+2x$ 変異8株、 $pbp2x+2b$ 変異11株、 $pbp1a+2x+2b$ 変異67株である。これらを遺伝子変異の有無によって分類すると、PSSP9株(7.6%)、PISP43株(36.1%)、PRSP67株(56.3%)である。なお、細菌性髄膜炎患者の髄液由来株は遺伝子 $pbp$ に変異が認められず、PSSPであった。

一方、CLSIによる薬剤感受性試験では、PSSP26株(22.2%)、PISP52株(44.4%)、PRSP39株(33.3%)に分類された。このPSSP26株の内18株(69.2%)に $pbp2x$ 変異が検出され、PISP52株の内30株(57.7%)に $pbp1a+2x+2b$ 変異が検出された。

マクロライド耐性遺伝子は109株(91.6%)に認められた。その内訳は耐性遺伝子 $mefA$ 検出が55株、 $ermB$ 検出が76株であり、このうち22株は2遺伝子共に検出した。また、 $pbp1a+2x+2b$ 変異株(PRSP)は、マクロライド耐性遺伝子も保有していた。

#### 2) インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

薬剤耐性遺伝子の検出結果とCLSIによる薬剤感受性判定を表6に示す。

遺伝子検査の結果、ペニシリン結合蛋白を

表 6 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検出結果

CLSIによる 薬剤耐性	TEM	pbp変異				計
		変異なし	pbp3-1	pbp3-2	pbp3-1+3-2	
BLNAS 軽度 BLNAR	9	49	8	5	5	67
		3	2	2	13	20
		2	1	5	14	22
		7	1		1	9
未実施		7	2		1	10
計	9	68	14	12	34	128

コードする遺伝子 *fts* の変異部位 *pbp3-1*, *pbp3-2* の何れかに変異を認めた株は 128 株中 60 株 (46.9 %) であった。その内訳は、TEM 遺伝子陰性 (β-ラクタマーゼ陰性) 株 119 株では、*pbp3-1* 変異 13 株, *pbp3-2* 変異 12 株, *pbp3-1+3-2* 変異 33 株であり、TEM 遺伝子陽性 (β-ラクタマーゼ陽性) 株 9 株では、*pbp3-1* 変異, *pbp3-1+3-2* 変異各 1 株であった。これらを遺伝子変異によって分類すると、BLNAS61 株 (47.7 %), 軽度 BLNAR13 株 (10.2 %), BLNAR45 株 (35.2 %), BLPAR7 株 (5.5 %) BLPACR-, BLPACR- 各 1 株 (各 0.8 %) である。なお、細菌性髄膜炎患者の髄液由来株は *pbp3-1* 変異を検出し、軽度 BLNAR であった。

一方、CLSI による薬剤感受性試験では、BLNAS67 株 (56.8 %), 軽度 BLNAR20 株 (16.9 %), BLNAR22 株 (18.6 %), BLPAR9 株 (7.6 %) に分類された。この BLNAS67 株の内 18 株 (26.9 %) に *pbp3-1*, *pbp3-2* 遺伝子の一方または両方の変異、軽度 BLNAR20 株の内 15 株 (75.0 %) に *pbp3-2* 遺伝子変異を検出した。また、BLPAR9 株の内 *pbp3-1* 遺伝子, *pbp3-1+3-2* 遺伝子変異を各 1 株認めた。

### 考 察

A 群溶レン菌は、小児の咽頭炎の主要な原因菌である。その A 群溶レン菌の血清型には T 型, M 型があり、2 つの血清型にはある程度相関がみられる<sup>1)</sup>。病原性と関連がある M 型は市販血清がないことから実施困難で、通常は市販血清のある T 型別によって疫学調査を実施している。T 型は、T-1 型, 4 型, 12 型の 3 型が主要型であると報告されている<sup>2)</sup>。2005 年はこれらの型が分離株の 58.3 % を占めた。表 7 に T 型の年次推移を示したが、この

割合は過去数年間で最も低く、2004 年に増加した T-1 型の減少傾向、および、数年分離率の高かった T-12 型の減少が影響した。他の血清型では、T-3 型, T-6 型が増加傾向を示した。また、本県では 2005 年、A 群劇症溶レン菌感染症が 3 例報告され、感染症動向調査として搬入された 2 株を含め、3 株共収集されている。その T 型は、劇症溶レン菌感染症で最も多いため T-1 型が 2 例と、今年分離の増加した T-6 型であった。

溶レン菌については、昨年、A 群抗原を持つ *S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* の分離を報告し<sup>3)</sup>、2005 年は *S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* の群抗原不明株を分離した。また、他県では A 群 *S.constellatus* subsp. *constellatus* を分離したという情報も得ていることから、群別と菌種の関連に注意を払いたい。

次に、下痢症患者から分離された大腸菌では、O1 が 30.6 %, O126 が 22.2 % を占めていた。木村ら<sup>4)</sup>は散発下痢症患者の O 血清型を他の報告者と比較し、O1 は 7.7 ~ 51.8 %, O126 は 6.0 % 以下であったと報告している。比べて、この O126 の分離頻度はかなり高く、8 株全てが相双地区からの分離であった。

2005 年分離されたサルモネラの血清型、モンテビデオ、エンテリティディス、チフィムリウムについては、2005 年全国の分離率 4 位までに入る血清型<sup>5)</sup>であった。

肺炎球菌、インフルエンザ菌は呼吸器感染症、細菌性髄膜炎の主要な病原菌である。生方ら<sup>6-7)</sup>は 1998 ~ 2000 年に分離された肺炎球菌 1981 株、インフルエンザ菌 1381 株の調査結果で、肺炎球菌分離は 1 歳がピーク、2 歳以降減少しており、また、インフルエンザ菌分離も 1 歳がピーク、3 歳を過ぎると暫時

表7 A群溶レン菌T型別の年次推移(1989~2005)

T型	1	2	3	4	6	8	9	11	12	13	14/49	18	22	23	25	28	B3 2 6 4	型不明	計
1989	60		1	95	37			2	102	1		3	3			7	5	15	331
%	18.1		0.3	28.7	11.2			0.6	30.8	0.3		0.9	0.9			2.1	1.5	4.5	100
1990	39		5	101	55			1	14	75	3		2	10		29	8	22	364
%	10.7		1.4	27.7	15.1			0.3	3.8	20.6	0.8		0.5	2.7		8.0	2.2	6.0	100
1991	69	3	2	157	16	2	2	24	212	3		2	27			19	21	25	584
%	11.8	0.5	0.3	26.9	2.7	0.3	0.3	4.1	36.3	0.5		0.3	4.6			3.3	3.6	4.3	100
1992	175		31	129		1	1	18	89	2		1	12			5	65	143	672
%	26.0		4.6	19.2		0.1	0.1	2.7	13.2	0.3		0.1	1.8			0.7	9.7	21.3	100
1993	85		35	190	1			34	123	4		24	17			31	61	81	686
%	12.4		5.1	27.7	0.1			5.0	17.9	0.6		3.5	2.5			4.5	8.9	11.8	100
1994	110		15	172	2			21	265			95	9		1	40	18	36	784
%	14.0		1.9	21.9	0.3			2.7	33.8			12.1	1.1		0.1	5.1	2.3	4.6	100
1995		1	2	116	2			9	122			9	4			36	17	14	332
%	0.0	0.3	0.6	34.9	0.6			2.7	36.7			2.7	1.2			10.8	5.1	4.2	100
1996	125		103	111				7	41			4				18	7	54	470
%	26.6		21.9	23.6				1.5	8.7			0.9				3.8	1.5	11.5	100
1997	82	4	66	39				7	61			4				25	11	17	316
%	25.9	1.3	20.9	12.3				2.2	19.3			1.3				7.9	3.5	5.4	100
1998	58	17	57	37				6	100			1				42	43	10	389
%	14.9	4.4	14.7	9.5				1.5	25.7			0.3				10.8	11.1	2.6	100
1999	55	5	68	3				1	3	59	4		1			66	42	6	357
%	15.4	1.4	19.0	0.8				0.3	0.8	16.5	1.1		0.3			18.5	11.8	1.7	100
2000	51	4	22	34				1	74			1				16	8	14	241
%	21.2	1.7	9.1	14.1				0.4	30.7			0.4				6.6	3.3	5.8	100
2001	84	5	9	46	7			1	97	1						6	10	8	279
%	30.1	1.8	3.2	16.5	2.5			0.4	34.8	0.4						2.2	3.6	2.9	100
2002	23	17	40	97	3			4	58							11	18	5	279
%	8.2	6.1	14.3	34.8	1.1			1.4	20.8							3.9	6.5	1.8	100
2003	24	1	17	107				1	99	1			1			11	12	27	307
%	7.8	0.3	5.5	34.9				0.3	32.2	0.3			0.3			3.6	3.9	8.8	100
2004	80	1	2	42	18			4	73	1						8	4	11	248
%	32.3	0.4	0.8	16.9	7.3			1.6	29.4	0.4						3.2	1.6	4.4	100
2005	21		15	33	19			4	20							4	3	6	127
%	16.5		11.8	26.0	15.0			3.1	15.7							3.1	2.4	4.7	100
計	1141	58	174	1601	384	3	5	160	1670	20	1	140	94	1	165	350	300	499	6766
%	16.9	0.9	2.6	23.7	5.7	0.04	0.1	2.4	24.7	0.3	0.01	2.1	1.4	0.0	2.4	5.2	4.4	7.4	100

減少したと報告しているのとほぼ同様に、2005年に分離した肺炎球菌、インフルエンザ菌は、共に患者の年齢は2歳以下が7割を占め、低年齢の分離割合が高くピークは1歳であった。また、これらの菌による髄膜炎患者は、肺炎球菌が74歳、インフルエンザ菌は0歳であったが、髄膜炎については、砂川ら<sup>8)</sup>が、2000~2002年の小児化膿性髄膜炎316例の全国調査を実施し、原因菌の第1位がインフルエンザ菌、次いで肺炎球菌で、患者の年齢は1歳未満が最も多く、肺炎球菌はインフルエンザ菌と比較して、6歳以上にもみられたと報告している。また、成人を含めた調査結果<sup>9)</sup>では肺炎球菌性髄膜炎の発症年齢は2峰性を示し、1歳台をピークに学童期まで減少するが、50~60代にもう1つのピークがあるとされる。

このように、細菌性髄膜炎の主要な病原菌である肺炎球菌とインフルエンザ菌は薬剤耐

性化が進み問題となっている<sup>9)</sup>。当所では2002年から肺炎球菌、インフルエンザ菌の薬剤耐性の遺伝子検査を実施しているが<sup>3) 10) 11)</sup>、今年、肺炎球菌は92.4%にペニシリン耐性遺伝子が認められ、この保有率は2002年84.7%，2003年80.5% 2004年87.2%の中でも最も高かった。一方、肺炎球菌のマクロライド耐性に関しては、91.6%が耐性遺伝子を保有し、2002年79.5%，2003年77.9%，2004年91.3%と、2004年と同様にマクロライド耐性が高率に維持されている状況が伺われた。

インフルエンザ菌については46.9%にペニシリン耐性遺伝子が認められ、2003年71.8% 2004年50.7%と比較すると耐性遺伝子保有の僅かな減少傾向が認められた。また、TEM遺伝子陽性菌は大きな年次変動を示し2003年28.9%，2004年1.4%，2005年7.0%と、再び増加傾向を示した。また、本調査ではTEM遺伝子陽性菌の内、*pbp*変異のあるものは

BLPACR- のみであったが、初めて BLPACR- を検出した。

遺伝子と CLSI による薬剤感受性の結果を表 5 および表 6 に示したが、耐性遺伝子による薬剤感受性は、CLSI による薬剤感受性よりも耐性側にシフトしている。また、インフルエンザ菌は、耐性遺伝子と CLSI の結果のばらつきが大きいことからも、耐性遺伝子検出は薬剤耐性菌の状況把握に有用である。

安易なセフェム系薬剤の投与が、耐性菌の増加を招いているとされる。耐性を適切に判断した抗菌薬の投与が望まれる。

### まとめ

1 2005 年 1 月から 12 月まで採取された検体 478 件から 434 株の細菌を分離した。

2 A 群溶血性レンサ球菌 127 株は T-1, 4, 12 型が 58.3 % を占めた。T-1, 12 型は減少し、T-3, 6 型が増加した。

3 A 群溶血性レンサ球菌は 1 ~ 5 月、11 ~ 12 月に 89.8 % が検出され、患者の年齢は 4 ~ 6 歳が 54.4 % を占めた。

4 他の溶レン菌は B 群、C 群各 2 株、G 群 12 株、群不明 *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* 2 株を分離した。B 群溶レン菌の血清型は、b 型、JM9 型である。

5 腸管系病原菌はサルモネラ 4 株、カンピロバクター・ジェジュニ 1 株、下痢原性大腸菌 36 株を分離した。

6 サルモネラの血清型は 3 種類で、モンテビデオ 2 株、エンテリティディス、チフィムリウム各 1 株である。

7 大腸菌の血清型は 13 種類で、O1 が 30.6 %、O126 が 22.2 % を占めた。O26 のみペロ毒素 1 型遺伝子陽性で、他の大腸菌には毒素遺伝子は認められなかった。

8 肺炎球菌は 119 株、インフルエンザ菌は 128 株分離した。患者の年齢は 1 歳が最も多く、インフルエンザ菌の血清型は、b 型が 5.5 % 検出された。

9 骨膜炎からの分離菌は、肺炎球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌各 1 株である。

10 肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子検査では、92.4 % に変異が認められ、ペニシリン感受性肺炎球菌 7.6 %、ペニシリン中等度耐性肺炎球菌

36.1 %、ペニシリン耐性肺炎球菌 56.3 % であった。マクロライド耐性遺伝子は 91.6 % に認められた。

11 インフルエンザ菌の薬剤耐性遺伝子検査では、46.9 % に変異が認められ、β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン感受性インフルエンザ菌 47.7 %、β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン軽度耐性インフルエンザ菌 10.2 %、β-ラクタマーゼ陰性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 35.2 %、β-ラクタマーゼ陽性アンピシリン耐性インフルエンザ菌 5.5 %、β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン / クラブラン酸耐性-インフルエンザ菌 0.8 %、β-ラクタマーゼ陽性アモキシシリン / クラブラン酸耐性-インフルエンザ菌 0.8 % であった。

12 検出菌株は感染症発生時の疫学調査、ワクチンのデータベース等に利用される。県内偏りのない定点医療機関の協力を得ることで、さらに感染症対策に貢献できると思われる。

### 謝 辞

検体採取等本事業にご協力いただいた病原体定点の医療機関の諸先生方に深謝いたします。

### 引用文献

- 1) Johnson D.R, Kaplan E.L. A review of the correlation of T-agglutination patterns and M-protein typing and opacity factor production in the identification of group A streptococci. J.Med.Microbiol. 1993; 38: 311-315.
- 2) 国立感染症研究所. <特集> 溶血レンサ球菌感染症 2000 ~ 2004. 病原微生物検出情報 2004; 25: 252-258.
- 3) 平沢恭子、須釜久美子、長沢正秋、他. 平成 16 年感染症発生動向調査事業報告(細菌). 福島県衛生研究所年報 2004; 22: -.
- 4) 木村晋亮、小崎明子、佐々木富子、他. 散発下痢症患者および健常者から分離された糞便由来大腸菌 O 抗原血清型の比較と地域差. 感染症学雑誌 1999; 73: 53-61.
- 5) 国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> 2005/12/22
- 6) 生方公子、小林玲子、千葉菜穂子、他. 本邦において 1998 年から 2000 年の間に分離さ

- れた *Streptococcus pneumoniae* の分子疫学解析 .  
日本化学療法学会雑誌 2003 ; 51 : 60-70 .
- 7) 生方公子 , 千葉菜穂子 , 小林玲子 , 他 . 本邦において 1998 年から 2000 年の間に分離された *Haemophilus influenzae* の分子疫学解析 .  
日本化学療法学会雑誌 2002 ; 50 : 794-804 .
- 8) 砂川慶介 , 野々山勝人 , 大石智洋 , 他 . 本邦における小児化膿性髄膜炎の動向 ( 2000 ~ 2002 ) . 感染症学雑誌 2004 ; 78 : 879-890 .
- 9) 国立感染症研究所 . < 特集 > 細菌性髄膜炎 2001 現在 . 病原微生物検出情報 2002 ; 23 : 31-37 .
- 10) 平沢恭子 , 須釜久美子 , 長沢正秋 , 他 . 平成 14 年感染症発生動向調査事業報告 ( 細菌 ) .  
福島県衛生研究所年報 2002 ; 20 : 46-54 .
- 11) 平沢恭子 , 須釜久美子 , 長沢正秋 , 他 . 平成 15 年感染症発生動向調査事業報告 ( 細菌 ) .  
福島県衛生研究所年報 2003 ; 21 : 63-70 .

## 2004/2005 シーズンの県内におけるインフルエンザの流行状況

福島県衛生研究所 微生物グループ ウイルス

### はじめに

当所では感染症発生動向調査として県内の医療機関より搬入された検体のウイルス検索を行っている。その結果、県内における今シーズン（2004/2005）のインフルエンザは、B型とA香港型（H3）を主流とし、Aソ連型（H1）も加わった3型による流行であった。昨シーズン（2003/2004）に比較して流行の規模は大きかった。

今シーズンの県内におけるインフルエンザ流行状況をより明らかにするため、分離状況及び患者状況に加え、抗体保有状況の概要を報告する。

### 材 料

#### 1 ウイルス検索

平成16年10月から平成17年7月まで、感染症発生動向調査及びインフルエンザ防疫対策により県内8保健所管内の11医療機関から搬入された936件（929症例）の検体を用いた。検体内訳は、咽頭ぬぐい液919件、髄液17件であった。

#### 2 血清学的検査

感染症流行予測調査事業のインフルエンザ感受性調査として、流行開始前の16年8月18日から9月30日までに、県北地区の健康成人、会津地区の医療機関受診者の承諾を得、採取した合計237件（0～85歳）の血清を検査に供した。年齢別の検体数を表1に示す。

表1 年齢階層別の検体数

年齢階層	検体数
0～4	32
5～9	25
10～14	18
15～19	25
20～29	28
30～39	27
40～49	25
50～59	25
60以上	32
合計	237

### 方 法

#### 1 流行状況の把握

福島県感染症週報による患者発生状況及び、福島県教育庁教育指導領域まとめによる公立校におけるインフルエンザ発生状況により、患者発生状況の集計を行った。

#### 2 ウイルス検索及び同定

感染症発生動向調査により搬入された検体の内、呼吸器系検体及び髄液検体については、RD-18s細胞、HEp-2細胞、Vero細胞、およびHMV細胞に加えMDCK細胞に、インフルエンザ防疫対策検体に関してはMDCK細胞に接種し2代継代培養を行った。MDCK細胞により細胞変性効果（CPE）が現れたものは、国立感染症研究所（以下感染研）より分与されたフェレット抗血清を使用し、0.75%モルモット血球による赤血球凝集抑制試験（以下HI試験）により同定を行った。抗血清使用株を以下に示す。

A/New Caledonia/20/99 (Aソ連型)

A/Moscow/13/98 (Aソ連型)

A/Wyoming/3/2003 (A香港型)

B/Johannesburg/5/99 (山形系)

B/Brisbane/32/2002 (ビクトリア系)

#### 3 血清学的検査

血清をRDE（）（デンカ生研製）で処理した後、平成16年度感染症流行予測調査実施要領によりHI試験を行った。抗原使用株を以下に示す。

##### 1) 感染研より分与

B/Brisbane/32/2002 (ビクトリア系)

##### 2) デンカ生研製

A/New Caledonia/20/99 (Aソ連型)

A/Wyoming/3/2003 (A香港型)

B/Shanghai/361/2002 (山形系)

### 結 果

#### 1 流行状況

##### 1) 県内における患者発生状況

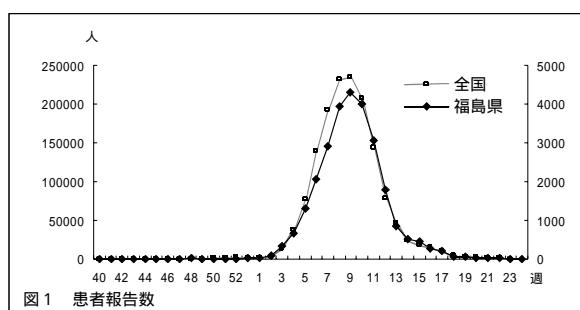


表2 県内のインフルエンザ患者報告数

シーズン	患者数 (35 ~ 34週)	ピーク時定点 あたり報告数
1997/1998	13,022	50.1 (5週)
1998/1999	8,194	31.1 (4週)
1999/2000	12,468	38.0 (5週)
2000/2001	5,973	17.5 (11週)
2001/2002	11,876	29.8 (8週)
2002/2003	19,144	37.6 (6週)
2003/2004	15,349	31.8 (5週)
2004/2005	*27,089	53.7 (9週)

\*35 ~ 25週(感染症発生動向調査による)

今シーズンのインフルエンザ患者報告数を図1に示した。県内では第42週(相双)の報告で始まり、年明け第2週に流行開始の指標と考えられる定点あたりの報告数1.0人を超えて、以降増加し第9週でピークとなった。その後減少し、第20週には定点あたりの報告数が0.3人となり終息した。この間の患者報告数累計は27,089人、ピーク時の定点あたりの報告数は53.7人となり、最近の8シーズンの中では最大規模であった。また、ピーク時期は昨シーズンに比べ約1ヶ月遅く、2000/2001シーズンに次ぐ遅いものとなった(表2)。

地域別の患者報告状況を見ると(図2)、いわき市が第53週、県北、県南、会津、相双、郡山市第3週、県中第4週、南会津が第5週に定点あたりの報告数が1.0人を超え流行期に入った。ピークは大部分の地域で第9週であったが、県北、会津は第8週、県南は第10週であった。また、いわき市以外の地域では流行期に入つて4~7週後にピークを迎えたのに対し、いわき市では9週後であった。その後、いわき市、県中で第15週、その他の地域でも第17~20週に定点あたりの報

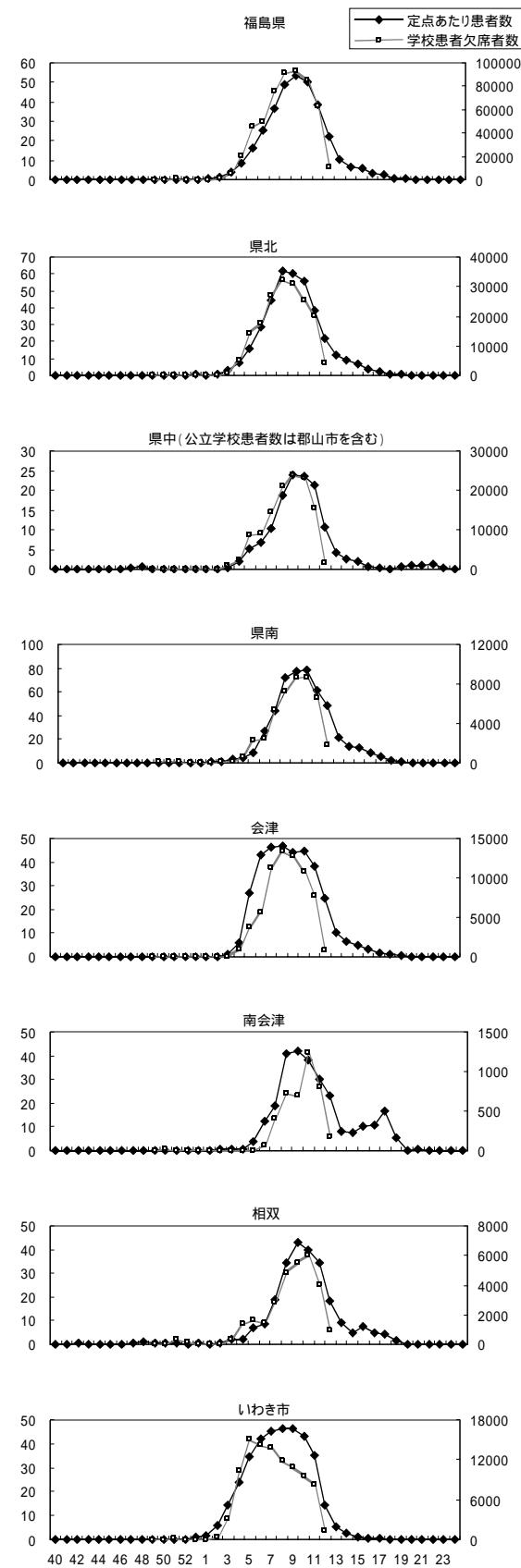


表3 週別ウイルス分離状況

分離ウイルス	月	週																										計		
		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25		
Influenza virus A (H1)	2	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
Influenza virus A (H3)	0	0	0	0	0	0	0	3	7	11	31	12	11	12	11	7	2	6	4	1	5	2	2	0	1	0	0	0	129	
Influenza virus B	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	4	10	14	21	23	19	23	11	5	8	1	2	5	1	0	3	0	0	156	
総計	2	0	3	0	0	0	3	0	4	12	15	41	26	32	35	30	30	13	11	13	2	7	7	3	0	4	0	0	1	294

告数が 1.0 人を下回り終息した。報告のみられた第 42 ~ 25 週における定点あたりの報告数平均では、県南(13.4 人)、郡山市(10.9 人)、県北(10.2 人)が県平均の 9.2 人を上回った。

## 2) 公立校におけるインフルエンザ発生状況

公立小中学校の患者欠席者状況を図 2 に示す。新学期開始 1 週後(第 3 週)から患者欠席者報告数が増加し、第 9 週でピークを迎えた。

地域別による報告状況では、全ての地域で感染症発生動向調査とほぼ同様であった。

第 49 週から第 12 週までの患者欠席者数は 543,012 人となり、以降も患者報告がみられることが考えに入ると、昨シーズンの 53 万人と比較して、学童でも大きな流行であったと推定される。

学校の対策は、延べ学校数で休校が 7 校、学年閉鎖 110 校、学級閉鎖 71 校であった。

## 2 ウイルス分離状況

### 1) 週別ウイルス分離状況

県内の週別ウイルス分離状況を表 3 に示す。今シーズンは、第 46 週に郡山市保健所管内の検体から分離された A ソ連型で始まり、その後、第 3 週に A 香港型と B 型が加わって 3 型の分離となった。各型の分離状況であるが、A ソ連型は第 46 週から第 53 週に集中して分離され、A 香港型と B 型は第 3 週から断続的に第 25 週まで続いて分離された。最終的な分離数は、B 型 156 株(53.1 %)、A 香港型 129 株(43.8 %)、A ソ連型 9 株(3.1 %)の合計 294 株であった。昨シーズンは分離株のほとんどが A 香港型であったのに対し、今シーズンは B 型と A 香港型を主流とした分離となった。また、B 型分離株は第 16 週にビクトリア系が 1 株分離された他は、昨シーズンと同じく山形系であった。次に、分離割合の推移を比較するため、患者数

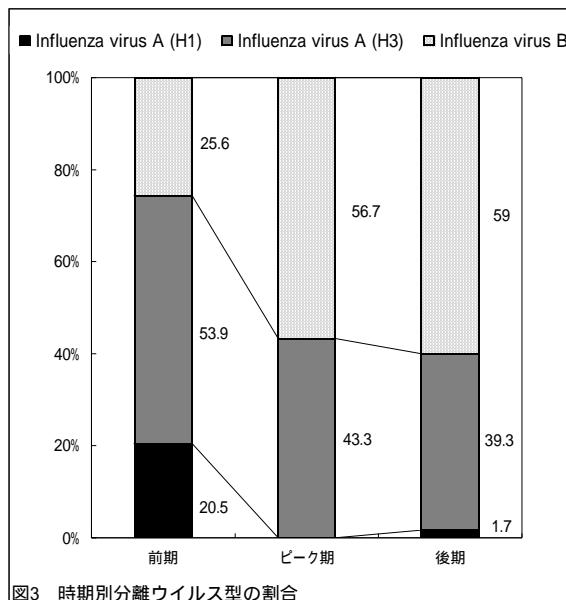


図3 時期別分離ウイルス型の割合

が増加し始めた第 4 週以前を前期、第 5 ~ 10 週をピーク期、患者が減少した第 11 週以降を後期とし図 3 に示した。前期は A 香港型が 53.9 % と過半数を占めたが、ピーク期、後期になると B 型が 56.7 %, 59.0 % と優位に分離された。さらに地域別に分離状況の推移を見ると(図 4)、郡山市、相双、県北で早い時期に A ソ連型が分離された後、間を置いて、ほとんどの地域で A 香港型、少し遅れて B 型の増加がみられた。

### 2) 年齢区分によるウイルス分離状況

年齢区分別のウイルス分離状況を図 5 に示した。分離例数は 0 ~ 4 歳が 136 例(6.3 %)と約半数を占め、次いで 5 ~ 9 歳が 120 例(41.2 %)、10 ~ 14 歳が 33 例(11.2 %)、15 歳以上はわずか 4 例(1.3 %)にすぎず、9 歳以下の年齢層が 87.5 % を占めた。分離型別では、10 ~ 14 歳で A 香港型が 78.8 % と大部分を占めていたが、その他の年齢層では B 型が 53.7 ~ 75.0 % と過半数を占めた。

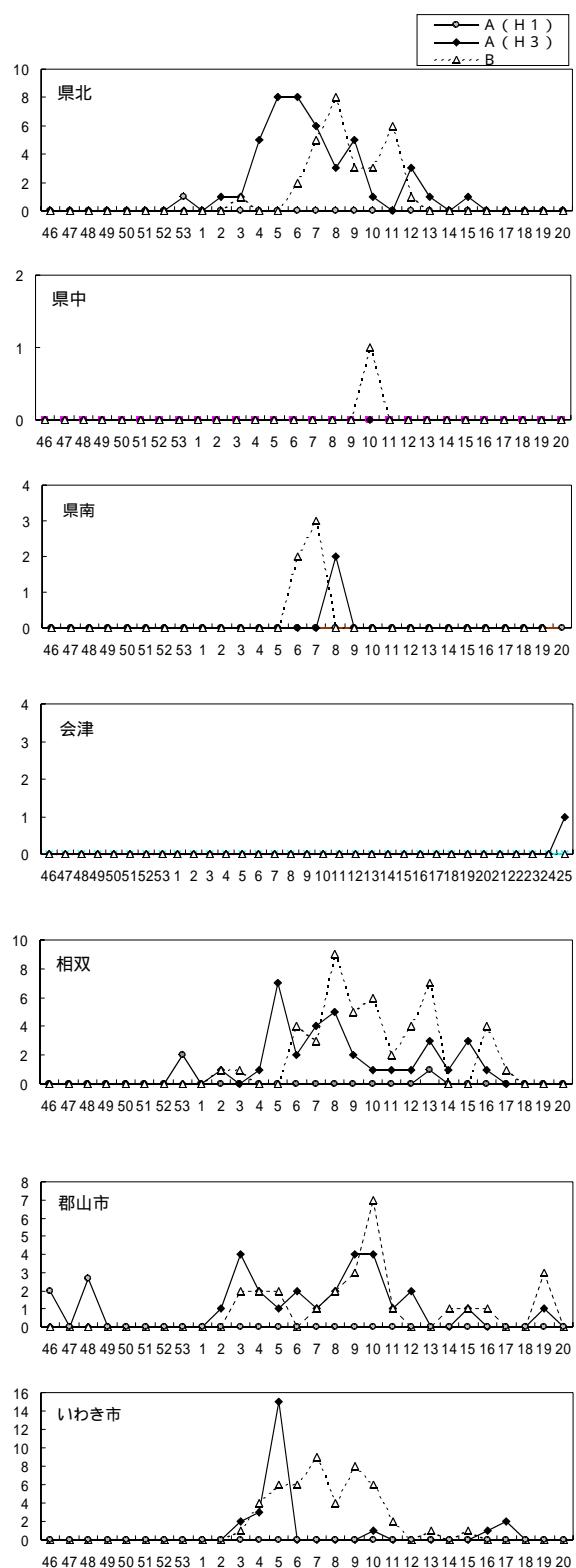


図4 地域別ウイルス分離状況

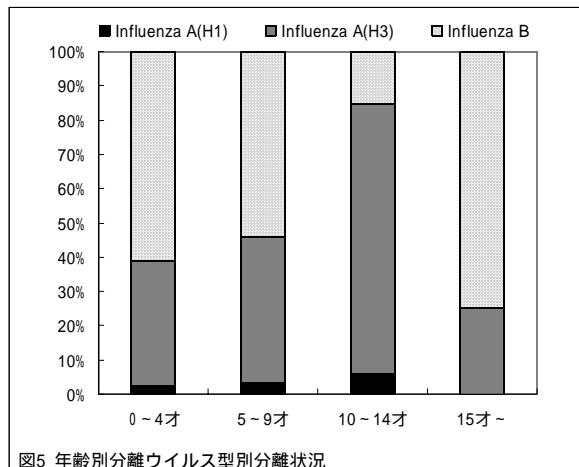


図5 年齢別分離ウイルス型別分離状況

表4 ウイルス分離陽性者の診断名(初診時)

診断名	症例数
インフルエンザ	232
インフルエンザ・グループ症候群	1
インフルエンザ・熱性けいれん	9
インフルエンザ・気管支炎	12
インフルエンザ・急性咽頭炎	4
インフルエンザ・咽頭炎・口内炎	1
インフルエンザ・葉挿	1
インフルエンザ・急性胃腸炎	1
インフルエンザ・腹膜炎	1
インフルエンザ・脳症	1
上気道炎	2
急性咽頭炎	3
急性咽頭炎・熱性けいれん	1
鼻炎	12
鼻炎・咽頭炎	1
下気道炎	2
急性気管支炎	1
気管支炎	2
気管支炎・発熱	1
グループ症候群	2
急性胃腸炎	1
胃腸炎・熱性けいれん	1
口内炎	1
不明熱	1
合計	294

### 3) 分離陽性者の診断名及び臨床症状

ウイルス分離陽性者の初診時における診断名を表4に示す。インフルエンザが263例(89.5%)と最も多く、次いで上気道炎19例(6.5%)であった。次ぎに臨床症状を表5に示す。発現率は、発熱(98.6%)、上気道炎(48.1%)で高く、次いで下気道炎(19.8%)であった。また、体温の状況を見ると、38.1~40.0を呈した患者が、86.7%と大多数を占めていた。

表5 分離陽性者の臨床症状発現率(%)

	上 気 道 炎	下 気 道 炎	咽 頭 痛	下 痢	腹 痛	悪 心	嘔 吐	筋 肉 痛	関 節 痛	頭 痛	痙 攣	意 識 障 害	結 膜 充 血	発 疹	口 内 炎	発 熱	37.1 37.0	38.1 ~	39.1 ~	40.1 ~	
Inf.A(H1)	9例	44.4	11.1					22.2	11.1	22.2				100.0			11.1	66.7	22.2		
Inf.A(H3)	129例	53.1	16.4	0.8	2.3	2.3	1.6	7.0	3.9	2.3	3.9		1.6	0.8	96.8	3.1	13.3	49.2	31.3	3.1	
Inf.B	156例	44.2	23.0		8.3	2.6	3.2	6.4	2.6	1.3	3.2	1.3	0.6	0.6	1.9	100.0		6.4	61.6	30.1	1.9
計	294例	48.1	19.8	0.3	5.5	2.4	2.4	6.5	3.8	1.7	0.3	4.0	0.7	0.3	1.0	1.4	98.6	1.4	9.5	56.3	30.4
																		以下	24.0	41.0	

### 3 血清学的検査(感受性調査)

インフルエンザウイルス感受性調査によるHI抗体価保有状況を表6,図6に示す。

#### 1) A/New Caledonia/20/99 (H1N1)

本株は今シーズンのワクチン株であり、昨シーズンに国内で分離されたAソ連型は5株のみであった<sup>2)</sup>。

HI抗体価10倍以上で見てみると、10～14歳で79%, 5～9歳, 15～19歳, 60歳以上で60%前後の高い保有状況であるが、0～4歳, 30～49歳では20%前後と低く、50歳代においては8%と極めて低い状況であった。有効防御免疫の指標と見なされるHI抗体価40倍以上では、10歳代で50%前後で比較的高い保有率を示した他は、20%以下の低い保有状況で、特に40～59歳では0%と言う結果であった。

#### 2) A/Wyoming/3/2003 (H3N2)

本株は今シーズンのワクチン株であり、昨シーズンに国内で分離されたA香港型の90%以上を占めた<sup>2)</sup> A/Fujian/411/2002 (H3N2)の類似株である。

HI抗体価10倍以上では、5～14歳で90%以上とかなり高く、60歳以上、15～19歳でも70%前後と高い保有状況であった。HI抗体価40倍以上では、5～14歳で80%以上、15～19歳で64%と高い保有率を示したが、20歳代, 50歳代では14%, 4%と低い保有状況であった。

#### 3) B/Shanghai/361/2002 (山形系)

本株は、今シーズンのワクチン株であり、昨シーズンに国内で分離されたB型株の約80%を占めた。

HI抗体価10倍以上では、10～29歳で64～88%と高い保有率を示したが、0～4歳、50歳代では3%, 8%と低い保有状況であった。HI抗体価40倍以上では、15～29歳で

30%以上の保有率を示したが、その他の年齢層では低く、特に5～9歳、50歳以上で5%前後、0～4歳で0%という結果であった。

#### 4) B/Brisbane/32/2002 (ビクトリア系)

本株は、今シーズンのワクチン株とは異なる株である。一昨シーズンに流行の主流であったことから、調査対象株となった。

HI抗体価10倍以上では、20歳代で32%の保有率を示したが、その他の年齢層では、20%台と低く、特に0～4歳、50歳代では、5%前後と低い保有状況であった。HI抗体価40倍以上でも、全ての年齢層で低い保有率を示し、最も高い30歳代で11%であり、0～4歳、50歳代では0%という結果であった。

### まとめ

#### 1 県内における患者発生状況

今シーズンのインフルエンザ患者発生状況は、昨シーズンと比較し流行開始は約1ヶ月遅く、3月初旬をピークとした規模の大きなものとなった。

地域別に見ると、第42～25週における定点あたりの報告数平均は、県北、郡山市、県南において県内平均を大きく上回っており、これらの地域では他の地域に比較して大きな流行であったと考えられる。

#### 2 ウィルス分離状況

ウィルス分離は、B型(53.1%)、A香港型(43.8%)、Aソ連型(3.1%)が分離され、3型による混合流行であった。

#### 3 HI抗体保有状況

流行前のHI抗体価40倍以上の抗体保有状況は、Aソ連型では10歳代以外は低く、特に40～59歳で保有が認められなかった。A香港型では学童層で高い保有がみられるが、20歳代, 50歳代で低い保有であった。B型(山形系)では全体として低く、0～4歳で

表6 年齢階層別のインフルエンザ抗体価

## A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)

年齢階層	(今季ワクチン株)										計
	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	
0～4	27	2		1	1		1				32
5～9	10	2	8	3	1		1				25
10～14	4		4	3	1	3	1		2		18
15～19	8	2	3	1	6	2	2	1			25
20～29	18		5	1	2	1	1				28
30～39	21	2	1	1	1			1			27
40～49	21	3	1								25
50～59	23	1	1								25
60～	14	8	4	2	2	1	1				32
計	146	20	27	12	14	7	7	2	2		237

## A/ワイオミング/3/2003(H3N2)

年齢階層	(今季ワクチン株)										計
	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	
0～4	18		1	4	3	3	2	1			32
5～9		2	7	7	5	2	1	1			25
10～14	1	2	5	4	4	2					18
15～19	8	1	6	4	6						25
20～29	16	3	5	4							28
30～39	14	2	2	4	4	1					27
40～49	17		1	2	3	2					25
50～59	16	5	3	1							25
60～	9	4	9	4	4	2					32
計	99	14	26	32	34	23	6	2	1		237

## B/上海/361/2002

年齢階層	(今季ワクチン株)										計
	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	
0～4	31		1								32
5～9	19	4	1		1						25
10～14	6	5	4	3							18
15～19	3	7	6	5	3	1					25
20～29	10	6	3	8	1						28
30～39	17	3	3	2	2						27
40～49	15	2	3	3	2						25
50～59	23		1	1							25
60～	25	3	2	2							32
計	149	30	24	24	9	1					237

## B/ブリスベン/32/2002

年齢階層	(今季ワクチン株)										計
	<10	10	20	40	80	160	320	640	1280	2560	
0～4	30	2									32
5～9	20	3	1	1							25
10～14	13	4		1							18
15～19	18	6		1							25
20～29	19	3	5	1							28
30～39	20	2	2	3							27
40～49	19	2	3	1							25
50～59	24	1									25
60～	26	4		2							32
計	189	27	11	10							237

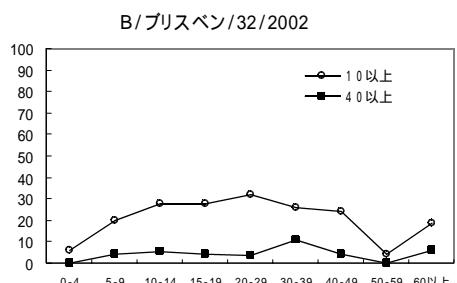
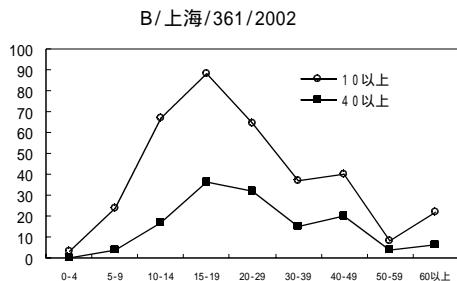
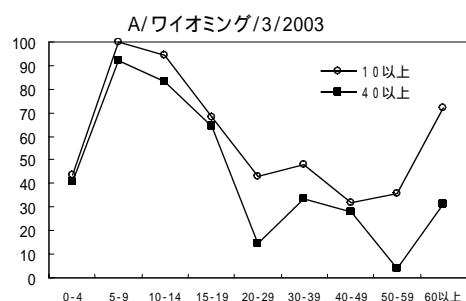
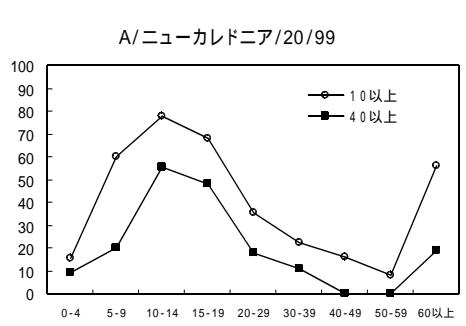


図6 年齢階層別HI抗体保有状況

保有が認められなかった。B型(ピクトリア系)では全ての年齢層で極めて低い保有状況であった。

### 謝 辞

本調査を行うにあたり、検体採取にご協力頂いた各医療機関の諸先生方および県民の皆様、国立感染症研究所、県教育庁教育指導領域、保健所職員の方々に深く感謝致します。

### 引用文献

- 1)福島県衛生研究所:福島県感染症週報 2004年第42週~2005年第25週
- 2)国立感染症研究所:病原微生物検出情報 2004, Vol.25, No.11, 1~2